令和７年度

児童教育学科 初等教育学専攻

授　業　要　覧

SYLLABUS

YJC 山口短期大学

Yamaguchi Junior College

基礎教育科目

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
宗教学 Religion		全学科	25BAHU1001	1年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	島田 一道		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　要	この講義の目標は宗教を知るということである。世界には数多くの宗教が存在し、その形態もさまざまである。日本においてもこれまでいくつもの宗教が誕生して、他国からも伝わってきている。まずはそれらを概観していく。そして、日本人はこれまで宗教とどのように関係してきたのか、それを歴史や文化の中からうかがっていく。 そして、現代に生きる我々がこれからどう宗教と向き合っていくのかを探っていきたい。				
到達目標	(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。 (2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。 (3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。				

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	宗教とは何か	宗教ついてどんなイメージがあるか考えてくる。	2時間	現代の日本人が感じている宗教観についてまとめる。	2時間
	2	キリスト教	配布資料を読み込み、キリスト教について調べてくる。	2時間	キリスト教の概要についてまとめる。	2時間
	3	イスラム教	配布資料を読み込み、イスラム教について調べてくる。	2時間	イスラム教の概要いついてまとめる。	2時間
	4	釈尊の生涯と仏教の誕生	教科書（講義時に指示）を読み込み、釈尊について調べてくる。	2時間	釈尊の生涯についてまとめる。	2時間
	5	仏教　その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2時間	仏教の概要についてまとめる。	2時間
	6	仏教　その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2時間	仏教の概要についてまとめる。	2時間
	7	仏教の伝播（インド→中国→日本）	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2時間	仏教がどのようにして、日本に伝わってきたかをまとめる。	2時間
	8	日本宗教史 その１（古代～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（古代～）について調べてくる。	2時間	日本宗教史（古代～）についてまとめる。	2時間
	9	日本宗教史 その２（中世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（中世～）について調べてくる。	2時間	日本宗教史（中世～）をまとめる。	2時間
	10	日本宗教史 その３（近世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（近世～）について調べてくる。	2時間	日本宗教史（近世～）をまとめる。	2時間
	11	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（前半）について調べてくる。	2時間	親鸞の生涯についてまとめる。	2時間

	12	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（後半）について調べてくる。	2 時間	浄土真宗の誕生についてまとめる。	2 時間
	13	浄土真宗　その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、浄土真宗について調べてくる。	2 時間	浄土真宗の概要についてまとめる。	2 時間
	14	浄土真宗　その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、浄土真宗について調べてくる。	2 時間	浄土真宗の概要についてまとめる。	2 時間
	15	まとめ	過去１４回の講義内容を振り返ってくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
成　績　評　価	定期試験（100%）					
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	試験において、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび参　考　文　献	『高校生からの仏教入門－釈尊から親鸞聖人へ－』小池秀章 著 本願寺出版社　2009 年					
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	皆さんにとって「宗教」とはどんなイメージですか。そして、生きていく中で「宗教」を必要だと感じますか。 様々な宗教を知ることを通してこれらの問いを共に考えていきましょう。					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	35%
(2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	35%
(3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	30%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活と芸術 Life and Art		全学科	25BAHU1002	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	木橋 奏子・椿 千栄子		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　要	芸術は生活分野から切り離すことが出来ない。芸術とは特定の芸術家だけの特権ではないし、高尚な芸術作品を美術館で鑑賞することや、クラシカルな演奏会へ行くことだけでもない。「生活と芸術」とは、“生活に密着した芸術”であり、“生活に役立つ芸術”、“生活を豊かにする為の芸術”であるとも言える。ここでは、日本の伝統文化の一つである華道、様々なジャンルの音楽、五感に触れる造形作品、絵手紙、カード制作をする中で、生活の中に芸術を取り入れるセンスと方法、技術を身につける。世界でたった一つの自分の作品を制作する喜びと達成感を味わう。				

到達目標

(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。

(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。

(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －生活と芸術とは－ 授業について	シラバスを読み、授業内容をイメージする	2時間	「生活と芸術」の関係について、自分の考えをまとめる	2時間
2	花に触れる①	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
3	花に触れる② －いけばなの基礎－	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
4	花に触れる③ －伝統から自由花へ－	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
5	芸術鑑賞① －クラシック音楽(1) バロック・古典派	前時に配布したプリントを読んでおく	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
6	芸術鑑賞② －クラシック音楽(2) ロマン派・近現代	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
7	芸術鑑賞③ －世界の音楽(1) 様々なジャンルに触れる－	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
8	芸術鑑賞④ －世界の音楽(2)映画音楽とクラシック音楽の関係－	映画音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間

	9	プレゼンテーション －「私」と音楽－	好きな1曲についてプレゼンテーションの準備をしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	10	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	11	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	12	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	13	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	14	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	15	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
成　績　評　価		作品（40%）、授業への取り組み（60%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
テキストおよび参　考　文　献		テキスト：なし （プリントを随時配布）				
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど		木橋担当授業回：花材費として、1000円程度必要です。それ以上かかることはありません。詳しくは初回授業日に説明します。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がない。	作品（知識・理解・技能・判断力・作品の完成度）	10%
	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がない。	授業への取り組み(関心･意欲･態度)	10%
(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲が十分にある。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	不十分ではあるが生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	生活の中に「芸術」を取り入れることができる感性を磨く意欲がない。	授業への取り組み(関心･意欲･態度)	50%
(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。	実際に使用したり、飾ったり、誰にでもプレゼントできるような作品を制作することができる。	実際に使用したり、飾ったり、知人であればプレゼントできるような作品を制作することができる。	人にプレゼントはできないかもしれないが、飾ったり、使用できる作品を制作することはできる。	実際に使用したり、飾ったり、人にプレゼントできるような作品を制作することができない。	作品（知識・技能・創造性・表現力・作品の完成度）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
余暇生活論 Study on Leisure Life	全学科	25BAHU1003	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	人間と社会のあり方を余暇生活というプラットホームから見つめ、学習者一人ひとりが、これからの豊かなライフスタイルを創造していくことをねらいとして、余暇生活の概要、余暇生活のデザインを創造していく。	
到達目標	(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。 (2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。 (3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業ガイダンス自らのライフスタイルを振り返る	ライフスタイルをふり返る	2時間	余暇時間の活動を考察する	2時間
2	少子高齢社会における余暇生活について	戦後日本の産業構造を確認する	2時間	高齢者の余暇時間の活用を考察する	2時間
3	余暇生活とレクリエーション①	レクリエーション活動の種類を考察する	2時間	余暇時間にできるレク活動を調べる	2時間
4	余暇生活とレクリエーション②	幼児に対応できる活動を報告する	2時間	講義を離れて実践する	2時間
5	余暇生活とレクリエーション③	高齢者に対応できる活動を報告する	2時間	講義を離れて実践する	2時間
6	余暇生活能力の向上に必要なこと①	ライフステージから余暇生活を考察する	2時間	自分の一日の達成感を感じられたか	2時間
7	余暇生活能力の向上に必要なこと②	身体能力が向上できる運動を考察する	2時間	誰もが参加できるかどうか考察する	2時間
8	余暇生活能力の向上に必要なこと③	机上で活動可能な余暇活動を報告する	2時間	余暇時間に実践する	2時間
9	自らのライフスタイルを振り返る報告会	日々の生活に取り入れたことを報告する	2時間	報告で生かせることを実践する	2時間
10	余暇生活を創造する①個人・グループ作業 テーマ「豊かな学生生活を送るために」	意見が表現できるように準備する	2時間	これまでの学生生活をふり返る	2時間
11	余暇生活を創造する②個人・グループ作業 参考文献・先行研究の調査	先行研究を調べておく	2時間	余暇生活が創造できるかふり返る	2時間
12	余暇生活を創造する③個人・グループ作業 これまでの情報・調査収集のまとめ	これまでの余暇生活の工夫を報告する	2時間	ライフスタイルに変化が表れていることが認識できる	2時間
13	今後の創造的な余暇生活をめざして	これからも創造ができるこ	2時間	みなさんの報告から取り入	2時間

			とを確認する		れることを確認する	
	14	授業の感想・振り返りプレゼンテーション①	これまでの報告を参考に自分の発表の準備をしておく	2時間	先行研究や参考文献が報告できるように準備しておく	2時間
	15	授業の感想・振り返りプレゼンテーション② 総括	ライフスタイルに生かせる発表の準備をしておく	2時間	生涯学習や地の関連科目との連携を理解する	2時間
成績評価		課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		毎時間の、授業振り返りシートにコメントを記載し、次の授業時に返却します。定期レポート結果は、ルーブリック評価にあわせて結果を返却します。課題についての振り返りと、フィードバックについては課題レポート提出後に解説します。				
テキストおよび参考文献		参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付していく。配付した資料を各自のファイルに整理し課題を振り返り、提出に備えてください。 【持参物】 記録用ファイル ※オープン教材を使用することがあります。				
メッセージなど		入学してきた学生のみなさんと、豊かな余暇生活（学生生活）を送っていくためさらに、充実した人生のプログラムを開発しながら、自らの創造的な余暇生活を創造していきましょう。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できている。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	40%
(2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、説明できている。	間違いはいくつかあるが最低限の説明ができている。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見をプレゼンテーションすることができる。	ほぼ完璧に自分の考えや意見を述べている。	大きな間違いがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力・プレゼンテーション）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture	全学科 （一般学生対象）	25BAHU1004	1 年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本の文化や習慣を知り、外国の文化や習慣との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。どりらの文化が優れているかということではなく、違いを認め合うことが必要。	
到達目標	(1)自文化、他文化について、共通点と相違点を説明することができる。 (2)周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、価値観の違いを認め合うことができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学において、大型ディスプレイまたは大型スクリーンによる視聴覚授業用の機器を準備し、パワーポイントによる映像と文字情報を活用した授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction 、「異文化理解とは何か」「比較文化の視点」	Day 2 の資料を読む。	2 時間	Day 1 の振り返り。	2 時間
2	「色の文化差とは」	Day 3 の資料を読む。	2 時間	Day 2 の振り返り。	2 時間
3	「お風呂文化の違い」	Day 4 の資料を読む。	2 時間	Day 3 の振り返り。	2 時間
4	「縦書き文化と横書き文化」	Day 5 の資料を読む。	2 時間	Day 4 の振り返り。	2 時間
5	「省略する文化と明示する文化」行動様式	Day 6 の資料を読む。	2 時間	Day 5 の振り返り。	2 時間
6	「違いに気づく－順勝手と逆勝手－」	Day 7 の資料を読む。	2 時間	Day 6 の振り返り。	2 時間
7	「異文化の認識－非言語コミュニケーション」	Day 8 の資料を読む。	2 時間	Day 7 の振り返り。	2 時間
8	「差別を考える」	Day 9 の資料を読む。	2 時間	Day 8 の振り返り。	2 時間
9	「世界の価値観」	Day 10 の資料を読む。	2 時間	Day 9 の振り返り。	2 時間
10	「異文化トレーニング」	Day 11 の資料を読む。	2 時間	Day 10 の振り返り。	2 時間
11	「異文化受容」	Day 12 の資料を読む。	2 時間	Day 11 の振り返り。	2 時間
12	「自分を知る」	Day 13 の資料を読む。	2 時間	Day 12 の振り返り。	2 時間
13	「非言語コミュニケーション」	Day 14 の資料を読む。	2 時間	Day 13 の振り返り。	2 時間
14	「アサーティブコミュニケーション」	Day 15 の資料を読む。	2 時間	Day 14 の振り返り。	2 時間
15	「多文化共生社会の実現に向けて」	Day 1-15 の資料を読む。	2 時間	Day 1-15 の振り返り、最終レポートに備える。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、ペアワーク・グループワーク・リレー朗読（50%） 原則として 3 回以上の無断欠席は認めない。レポートのペナルティが発生する。

課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	ポートフォリオと振り返りシート、レポートの下書きにはコメントを書いて返却
テキストおよび 参 考 文 献	資料は配布します。【参考文献】「縦書き文化と横書き文化－順勝手と逆勝手の方向性」「絵本を見て考える間関係論―ヤングケアラーの問題」「ウクライナ民話の紹介―日本の昔話との比較」「核のタブーとアーサー・ビナード作品」ほか
メ ッ セ ー ジ な ど	クラスメートとの協同学習（ペアワーク）に積極的に取り組む態度を求めます。内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたいと思いますので、学生の皆さんのご協力をお願いします。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 自文化、他文化ついて説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく､説明できる。	間違いはいくつかあるが､説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	50%
(2) 周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、価値観の違いを認め合うことができる。	周りにいる人を理解し、自身の価値観を探求できる。	ある程度､周りにいる人を理解し､自身の価値観を探求できる。	ある程度周りにいる人を理解し､ある程度自身の価値観を探求できる。	周りにいる人を理解しようとせず、自身の価値観も探求できない。	ペアワーク･グループワーク･リレー朗読（関心･意欲･態度･技能･表現力）	50%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年次	期別
日本国憲法 The Constitution of Japan	全学科	25BASO1001	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員
講義	2	選択	古澤　裕二

ディプロマ・ポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本国憲法の基本原理や具体的な条文の解釈だけではなく、憲法に関連するような法規や国内外の様々な社会問題等を取り上げ、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、その望ましいあり方について考えを深めていきます。憲法に対する自分なりの見解をもつことによって、これまで以上に社会参画する力を身に付けることを目指します。	
到達目標	(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。 (2) 日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日本国憲法の概要	概要把握	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
2	第一章「天皇」	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
3	第二章「戦争の放棄」①	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
4	第二章「戦争の放棄」②	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
5	第三章「国民の権利と義務」①	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
6	第三章「国民の権利と義務」②	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
7	第三章「国民の権利と義務」③	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
8	第四章「国会」①	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
9	第四章「国会」②	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
10	第五章「内閣」	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
11	第六章「司法」	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間
12	第七章「財政」①	最近の社会ニュースを収集	2時間	本時の学習内容を復習	2時間

	13	第七章「財政」②	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	14	第八章「地方自治」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	15	前文、第九章「改正」、第十章「最高法規」、第十一章「補足」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
成　績　評　価		定期試験（50%）、授業の取り組み（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		課題に対する模範解答や考え方を提示する。				
テキストおよび参　考　文　献		テキスト：授業で参考資料を提示・配付 参考文献：第１回授業にて紹介　『百田尚樹の日本国憲法』百田尚樹著（祥伝社新書）　『超訳日本国憲法』池上彰著（新潮新書）				
メッセージなど		日本国憲法の公布以来、これまで何度も憲法改正の議論があったものの、実際には一度も改正されないまま今日を迎えています。そこで、憲法に関連するような法規や国内外の様々な問題等を学ぶことを通じて、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、自分なりの「憲法改正私案」を考えてみましょう。きっと、憲法解釈だけではわからない憲法の問題点や自分たちがおかれている社会情勢についても認識が深まることと思います。当然、「これが正解だ！」と言えるものはありません。正解ではなく自分なりの納得解を追究していきましょう。 幼稚園教諭二種、小学校教諭二種：「必修」				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。	授業で理解した内容を十分記述できる。	授業で理解した内容を概ね記述できる。	授業で理解した内容を最低限記述できる。	授業で理解した内容を記述できない。	授業の取り組み（知識・理解）	25%
	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、十分説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、概ね説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、最低限説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できない。	定期試験（知識・理解）	25%
(2) 日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	授業で考えが深まったことを十分記述できる。	授業で考えが深まったことを概ね記述できる。	授業で考えが深まったことを最低限記述できる。	授業で考えが深まったことを記述できない。	授業の取り組み（思考・判断）	25%
	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき十分提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき概ね提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき最低限提案できる。	憲法の望ましいあり方について、提案できない。	定期試験（思考・判断）	25%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代社会問題 Issues in Modern Society		全学科	25BASO1002	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	今川 晋平		

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	子どもや保護者はみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか？そして、それぞれの課題の子どもの姿を捉えながら、現代の子どもの問題について考える。	
到達目標	(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。 (2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる。 (3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
2	子どもを育む現代社会文化	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
3	子どもの脳の発達とスマホの影響	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
4	人と人をつなぐｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ課題①	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
5	人と人をつなぐｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ課題②	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
6	他者との価値観の違い	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
7	子どもの依存症（スマホ）	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
8	子どもの依存症（人間関係）	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
9	児童虐待	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
10	学校に行けない子ども、行かない子ども	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
11	特別な支援の必要な子どもと保護者たち	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
12	特別養子縁組と赤ちゃんポスト	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
13	未成年の出産	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間
14	女性の社会進出と保育ニーズ	配布資料を読んでおく	2 時間	振り返りシートの記入	2 時間
15	自己理解とは	配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間

※授業内容を一部変更する場合があります。

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（15%）、授業への取り組み（30%）、発表・グループワーク（15%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等) に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	授業時にプリント配布
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間です。自覚して頑張りましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。	子どもの問題の変化を的確に説明できる。	子どもの問題の変化について大体のことを説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を間違いはあるが説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を説明できていない。	定期試験 （知識・思考力・表現力）	40%
(2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる	子どもに関わる問題について的確に認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について大体のことを認識し、自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識の間違いはあるが、最低限の自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識できておらず、自分の考えを述べていない。	課題・レポート （知識・思考力・判断力・表現力）	30%
(3) マスコミ（新聞､テレビ等）のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する	的確な問題意識を持って協議している。	問題意識を持ち、協議している。	間違いはいくつかあるが、協議に参加している。	身近な問題に触れようとせず、協議していない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
行動科学 Behavioral Science	全学科	25BASO1004	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	田原　浩章	

ディプロマポリシーとの関係	(1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとる ことができる社会人としてふさわしい人間性を有す。専門的職業人の資質と能力 を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する	○
概　要	心理学がどのような学問であるかを紹介し、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といった各領域の基礎的な内容を概説する。授業は、パワーポイント資料や動画などを通して解説する。また、各授業中に講義内容について考えたことについて記入する授業課題を課す。	
到達目標	(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。 (2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。 (3) 心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション行動科学・心理学とは	―	―	心理学の中で学んでみたい内容をまとめる。	2時間
2	感覚・知覚	人間独自の感覚や知覚の機能ついて調べる。	2時間	知覚と感覚の違いについてまとめる。	2時間
3	記憶	人間の記憶の機能について調べる。	2時間	短期記憶・長期記憶の過程の違いについてまとめる。	2時間
4	学習	人間や動物の学習するメカニズムについて調べる。	2時間	オペラント／レスポンデント条件付けの違いについてまとめる。	2時間
5	感情	感情を構成する要素や付随する生理的反応について調べる。	2時間	感情が社会生活にもたらす意味についてまとめる。	2時間
6	動機づけ	人の行動と動機づけの関係について調べる。	2時間	動機づけの各理論と概要をまとめる。	2時間
7	知能	知能とは何かについて調べる。	2時間	知能の定義の歴史的変遷や代表理論をまとめる。	2時間
8	パーソナリティ	パーソナリティや性格とは何かについて調べる。	2時間	パーソナリティに関する代表理論や検査法についてまとめる。	2時間
9	発達	人の発達過程の中で興味のある時期について調べる。	2時間	人の心身の発達の過程について概要をまとめる。	2時間

	10	発達障害	発達障害とは何かについてまとめる。	2時間	特に興味のある発達障害についてまとめる。	2時間
	11	ストレス	ストレスとは何かについて自分の考えをまとめる。	2時間	代表的なストレス理論とその概要についてまとめる。	2時間
	12	社会・組織心理学	集団規範や集団心理についてイメージするものを書き出す。	2時間	集団心理の理論に基づき身近な現象を考察する。	2時間
	13	心理療法	心理療法や心理治療ついて調べる。	2時間	各種心理療法なかから興味のある領域をまとめる。	2時間
	14	心理カウンセリング	カウンセリングとは何かについて調べる。	2時間	受容・共感・自己一致について、まとめる。	2時間
	15	まとめ	これまでの配布資料を読み返し、復習する。	2時間	心理学に関して特に興味を持ったテーマをまとめる。	2時間

成績評価	毎回の授業課題（関心・意欲・態度）30%、定期試験（知識・理解）35%、 定期試験：記述問題（思考力・判断力・表現力）35%
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業課題への回答は必要に応じてフィードバックを行う。 定期試験と授業課題はルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび参考文献	テキスト：資料を配布する 参考書：黒木俊秀　監修（2019）ひと目で分かるこころの仕組みとはたらき図鑑 有斐閣
メッセージなど	各授業の終わりの課題は一部成績に反映します。また、定期試験では、授業課題に関連した記述問題についても出題する予定です。日頃から、心理学に関連する該当のテーマについてアンテナを立て、考えておくことをおすすめします。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。	心理学の各領域の基礎用語を十分に説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を概ね説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を説明することができない。	定期試験　知識問題（知識・理解）	35%
(2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出し、説明した上で自分の考えを述べることができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連を見出し、説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出しが不十分である。	毎時の内容を通して、自分や他者の行動を説明できない。	定期試験　記述問題（思考力・判断力・表現力）	35%
(3)心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現したうえで実際に取る組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現することができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができるが、表現が不十分である。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	30%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
物理学 Physics		全学科	25BANA2002	２年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	吉村 洋輔		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　要	物理学の基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。				
到達目標	(1) 力の表し方 合力、分力の求め方２力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。 (2) 重さ（N）と質量（kg）の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。 (3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。 (4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。 (5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。 (6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。 (7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス□と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。 (8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。 (9) 気体の熱的性質について　気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。 (10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。 (11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。 (12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。				

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	力の合成と分解	力の表し方、合力、分力の求め方。	2 時間	２力のつりあいと作用反作用の違いが説明できる。	2 時間
2	重さと質量	重さは測定する場所によって異なり質量は不変の量であるがわかる。	2 時間	重さと質量の関係が正しく理解できる。	2 時間
3	いろいろな力	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく図示できる。	2 時間	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく理解できる。	2 時間
4	剛体のつりあい	大きさのある物体について、力のモーメントが理解できる。	2 時間	力のモーメントのつりあいを使って大きさのある物体のつりあいを求めることができる。	2 時間
5	速度と加速度	速度と加速度の概念が正しく理解できる。	2 時間	等速度運動、等加速度運動についてグラフに表し、グラフから速度、加速度、移動距離を求めることができる。	2 時間

	6	落体の運動	真上に投げた物体、水平に投げた物体の運動が正しく解説できる。	2 時間	等加速度直線運動の４つの公式を使って落体の運動を解説できる。	2 時間
	7	慣性力	電車内で天井からつるした物体にはたらく力を正しく図示でき、みかけの力慣性力を正しく説明できる。	2 時間	慣性力＝－質量×加速度を電車の運動、等速円運動において説明できる。	2 時間
	8	仕事と仕事率	仕事と仕事率を正しく理解できる。仕事の原理がわかる。	2 時間	ジュール、ワット単位次元についても理解する。	2 時間
	9	仕事量と力学的エネルギー	運動エネルギー、位置エネルギー。力学的エネルギーについて理解する。	2 時間	保存力だけがはたらく場合力学的エネルギーは保存されることを使って、真上に投げた物体の運動、水平に投げた物体の運動を解説できる。	2 時間
	10	熱とエネルギー	熱の本性について正しく理解し、様々な熱現象を原子、分子の概念を用いて説明できる。	2 時間	セルシウス度､絶対温度、熱の仕事当量について理解を深める。また熱量計算ができる。	2 時間
	11	気体の熱的性質	気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則を正しく理解する。	2 時間	気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則断熱変化について理解する。	2 時間
	12	波の伝わり方	波の伝わり方を媒質の概念から説明できる。	2 時間	横波、縦波、ドップラー効果について理解を深める。	2 時間
	13	電気と電圧、電流と電子	電流回路、抵抗、電圧降下、抵抗率、オームの法則を理解する。	2 時間	抵抗を直列、並列接続した回路で抵抗を流れる電流を求める。	2 時間
	14	電気エネルギー	ジュールの法則、電力、電力量、電力の単位を理解する。	2 時間	電気器具を消費した時間から消費電力を求めることができる。	2 時間
	15	問題演習	問題演習課題プリント	2 時間	プリントの問題が確実に解けるようにする。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%)、課題・レポート（20%）
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	ルーブリック評価をフィードバックする。
テキストおよび 参　考　文　献	作成プリントを使用
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	日常生活でよく出会う物理事象を取り上げ、おもしろく興味ある授業にする。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 力の表し方 合力、分力の求め方２力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。	ベクトル作図を使ってほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(2) 重さ（N）と質量（kg）の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。	力のベクトル作図を使って説明でき、ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。応用力もみにつけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身についている。	基礎・基本的事項が大きな間違いがなく、ほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	8%
(7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス□と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、応用力も身についている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、応用力も身についている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	7%
(9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%

(10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	10%
(12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	課題・レポート	20%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生物学 Biology		全学科	25BANA2003	２年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	安藤 稔朗		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　要	生物学への興味と関心が遠ざかった学生や、高校で生物を履修してこなかった学生も考慮に入れながら、生物学の基礎的・基本的事項について学習し、生物学的思考力を養う。 生物学の基礎となる理論、現象について学習する。				
到達目標	(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。 (2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。 (3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。				

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	テキスト 1～5 ページを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
2	生物学のあゆみ	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
3	生命とは何か －生命とその特徴－	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
4	生命の基本単位 －細胞－	テキスト6～11ページを調べておく	2 時間	単細胞生物と多細胞生物をまとめる	2 時間
5	植物の構成と機能	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
6	植物の成長	テキスト 12～13P を調べておく	2 時間	植物の成長について特色を整理する	2 時間
7	環境と植物	用意したプリントを読んでおく	2 時間	環境と植物のかかわりをまとめる	2 時間
8	動物の働き －生理作用－	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
9	動物の行動	テキスト 20～25P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容を復習する	2 時間
10	生殖と発生	テキスト 14～16P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
11	遺伝	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
12	生物の多様性と進化	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
13	生物の生活と生産	テキスト 26～30P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
14	生物界のつりあいと自然環境保全	テキスト 31～32P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
15	地球環境と生命	テキスト 33～34P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、教材作成（40%）

課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：安藤稔朗「生物学」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布
メッセージなど	講義で学び取る学習から、講義を契機に自分の頭で思考する学習への転換をはかることが肝要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、内容を説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲）	30%
(3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	ほぼ完璧に授業を工夫できる。	大きな間違いがなく、授業を工夫できる。	間違いはいくつかあるが、授業を工夫できる。	工夫できていない。	教材作成（思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
データサイエンス入門 Introduction to Data Science	全学科	25BANA1001	1 年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	横山 修	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	数理・データサイエンス・AI は、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールである。この講義では、数理・データサイエンス・AI がどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明する。また、数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり、留意すべき事項についても解説する。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行う。	
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。 (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。 (3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。 (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション —数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化—	AI の定義について調べる	2 時間	AI により社会で起きている変化をまとめる	2 時間
2	社会で利活用されているデータとその活用法および活用領域	調査データ、実験データ等、データの種類について調べる	2 時間	データの種類およびデータ処理の流れをまとめる	2 時間
3	データ・AI の利活用のための技術	予測、グルーピング等、データ解析の方法について調べる	2 時間	データ解析における AI の活用方法をまとめる	2 時間
4	現場におけるデータ・AI 利活用の事例紹介	データ駆動型社会について調べる	2 時間	データ解析による意思決定方法をまとめる	2 時間
5	データ・AI 利活用の最新動向	デジタルトランスフォーメーション(DX)について調べる	2 時間	AI によるビジネスモデルの変革をまとめる	2 時間
6	情報セキュリティ、データ・AI 利活用における法と倫理	仮名加工情報・匿名加工情報について調べる	2 時間	データを扱う際の留意事項をまとめる	2 時間
7	データを読む① —量的データと質的データ、データの分布と代表値—	代表値の種類について調べる	2 時間	代表値の長所･短所をまとめる	2 時間
8	データを読む② —データのばらつき—	データのばらつきを測る尺度について調べる	2 時間	分散･標準偏差を導出する方法をまとめる	2 時間

	9	データを読む③ ―誤差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱い―	誤差の種類について調べる	2 時間	打ち切り誤差・脱落誤差の具体例をまとめる	2 時間
	10	データを読む④ ―データの相関―	2 変数の関係を読み解く方法について調べる①	2 時間	相関係数を導出する方法をまとめる	2 時間
	11	データを読む⑤ ―クロス集計―	2 変数の関係を読み解く方法について調べる②	2 時間	クロス集計表・散布図を作成する方法をまとめる	2 時間
	12	データを読む⑥ ―母集団と標本―	母集団と標本の関係について調べる	2 時間	標本を抽出する方法をまとめる	2 時間
	13	データを説明する ―データのグラフ・チャート化―	グラフの種類について調べる	2 時間	グラフの長所・短所をまとめる	2 時間
	14	データを扱う① ―データ解析ツールの使用方法―	資料整理のための関数の種類について調べる	2 時間	実データを用いて資料を整理する	2 時間
	15	データを扱う② ―データの可視化―	データの可視化について調べる	2 時間	実データを用いて資料を可視化する	2 時間
成績評価		定期試験（50%）、課題（50%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		ルーブリック評価に基づき結果を示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：なし				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修、情報メディア学科：卒業必修				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	20%
(2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%

(5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。	ほぼ完璧に、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	大きな間違いがなく、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限のデータ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	データの処理・分析ができない。	授業への取り組み（知識・理解・技能・思考力・判断力）	20%
					課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings	全学科	25BAGE1001	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	柴田 道信・佐藤 嘉倫	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。	
到達目標	(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
2	本学を知る　～建学の精神と３つのポリシー～	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
3	学生生活について①学生生活の心得	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
4	学生生活について②安全・安心な生活	消費者問題について調査する	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
5	大学での学びとキャリアデザイン	大学での学びの意義を考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、自己分析を行う	2 時間
6	Google Classroom の利用①基本的な使用方法	Google Classroom について調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
7	Google Classroom の利用②課題等の提出方法	どのような提出方法があるか調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
8	レポートの書き方①レポートとは？	レポートとは何かを調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
9	レポートの書き方②原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
10	レポートの書き方③論理的な書き方	論理的な書き方とは何か考える	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
11	レポートの書き方④引用のルール	引用のルールについて調べる	2 時間	課題レポートを作成する	2 時間
12	グループ討議について	グループ討議の発散・収束手法を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
13	グループ討議①選択型	選択型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間

	14	グループ討議②課題解決型	課題解決型グループ討議について調べる	2時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2時間
	15	まとめ	授業全体を振り返る	2時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2時間

成績評価	課題・レポート（30%）、授業への取り組み（40%）、グループワーク・グループ討議（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。
テキストおよび参考文献	必要に応じてプリント配布
メッセージなど	

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来を十分に関連付け、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来をある程度関連付け、主体的に学ぶことができる。	最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。	主体的な学びの姿勢が見られない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	40%
(2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。	ほぼ完璧にアカデミック・スキルが身に付いている。	大きな間違いもなく、アカデミック・スキルが身に付いている。	最低限のアカデミック・スキルは身に付いている。	アカデミック・スキルが身に付いていない。	課題・レポート（思考力・判断力･表現力）	30%
(3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考えを大きく発展させることができる。	コミュニケーションを図り、自らの知識や考え方をある程度広げることができる。	最低限のコミュニケーションは図ることができる。	コミュニケーションを図ることができない。	グループワーク・グループ討議（態度・思考力･表現力･協働性）	30%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国際交流 International Activities		全学科	25BAGE2002	2年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	必修	中津 愛子・柴田 道信・木橋 奏子		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　要	文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的とする。				

到達目標

(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。

(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。

(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 私と国際交流 1（まとめる）	国際交流ときいて思い浮かぶことを調べる	2時間	自分の人生における国際交流をまとめる	2時間
2	私と国際交流 2（共有する）	国際交流活動を広げる方法を考える	2時間	グループ活動の結果をまとめる	2時間
3	私の国際交流体験記 1 （日常生活）	日常生活における常識と非常識を考える	2時間	体験記を聴いた感想文	2時間
4	私の国際交流体験記 2 （食文化）	自国の食文化の特徴をまとめる	2時間	海外の食文化を調べる	2時間
5	私の国際交流体験記 3 （コミュニケーション）	日常使うジェスチャーを考える	2時間	様々な言語について調べる	2時間
6	私の国際交流体験記 4 （価値観）	自身の価値観を考える	2時間	体験記を聴いた感想文	2時間
7	海外の生活文化や習慣を知る 1	国際交流員の出身国について調べる	2時間	国際交流員の話の感想文	2時間
8	海外の生活文化や習慣を知る 2	国際交流員の出身国について調べる	2時間	国際交流員の話の感想文	2時間
9	海外の生活文化や習慣を知る 3	国際交流員の出身国について調べる	2時間	国際交流員の話の感想文	2時間
10	海外の生活文化や習慣を知る 4	国際交流員の出身国について調べる	2時間	国際交流員の話の感想文	2時間
11	海外の生活文化や習慣を知る 5	国際交流員の出身国について調べる	2時間	国際交流員の話の感想文	2時間
12	国際交流活動について調べよう 1	国際交流活動に関するテーマ設定	2時間	各自のテーマで調べる内容を考える	2時間
13	国際交流活動について調べよう 2	設定したテーマに沿って調べる	2時間	テーマに沿って調べる	2時間

	14	海外で活躍する人々	海外で活躍する人々を調べる	2 時間	講義で聞いた話の感想文	2 時間
	15	まとめ	全授業内容を振り返る	2 時間	今後の展望をまとめる	2 時間
成　績　評　価		課題・レポート（30%）、授業への取り組み（70%）				
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法		授業において提示した課題については、授業内で全体に対してフィードバックする。				
テキストおよび参　考　文　献		適宜プリントを配布				
メッセージなど		海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。これをきっかけに皆さんが海外の文化に関心をもち、海外を視野に活躍する人材となることを期待しています。				

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。	外国文化へ高い興味･関心を示し､意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	外国文化へ興味・関心を持ち､学ぶ姿勢も十分見られる。	外国文化への興味･関心は低いが､最低限の学ぶ姿勢は見られる。	外国文化への興味･関心が低く､学ぶ姿勢が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。	完璧に身に付いている。	十分に身に付いている。	最低限であるが身に付いている。	身に付いていない。	授業への取り組み（態度・表現力・協働性）	20%
(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。	自分の世界観を中心に異文化を見ているが､異文化を理解しようとする姿勢は見受けられる。	自分の世界観のみを通して異文化を見ており､異文化への理解・も低い。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
言葉とコミュニケーション Language and Communication	全学科	25BAGE1004	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	小河原 香代子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	英語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？英語と日本語の言語文化の違いをポライトネス（人間関係を円滑にするための表現）に焦点を当て、会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。	

到達目標

(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。

(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。

(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション Chapter 1　自己紹介・スモールトーク			Chapter 1：テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。	2時間
2	Chapter 2　オフィスの案内	Chapter 2: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。	2時間	Chapter 2: テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。	2時間
3	Chapter 1、 2の復習 ポライトネスについて	Chapter 1、2：練習問題のやっていない箇所	2時間	Chapter 1、2: テキストにある表現を復習する。音読練習する。	2時間
4	Chapter 3　電話表現１（基本表現・メモの取り方）	Chapter 3: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。	2時間	Chapter 3: テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。	2時間
5	Chapter 4　電話表現２（予定を決める・予定変更をする）	Chapter 4: 同上	2時間	Chapter 4: 同上	2時間
6	Chapter 5　簡単なスピーチ・プレゼンテーション１ スピーチの構成	Chapter 5: 同上	2時間	Chapter 5: 同上	2時間
7	Chapter 6　ビジターの来日・旅程の確認	Chapter 6: 同上	2時間	Chapter 6: 同上	2時間
8	Chapter 7　観光のアドバイス	Chapter 7: 同上	2時間	Chapter 7: 同上 プレゼンテーションの準備	2時間
9	Chapter 7　プレゼンテーション	Chapter 7: プレゼンテーションの準備	2時間	Chapter 7: プレゼンテーションの振り返り	2時間

	10	Chapter 10　会議１（賛成の仕方・司会の表現）	Chapter 10: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。Exercises をする。	2時間	Chapter 10: テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。	2時間
	11	Chapter 11　会議２（反対の仕方・司会の表現）	Chapter 11: 同上	2時間	Chapter 11: 同上	2時間
	12	Chapter 12　苦情への対応	Chapter 12: 同上	2時間	Chapter 12: 同上	2時間
	13	Chapter 13　謝罪	Chapter 13: 同上	2時間	Chapter 13: 同上	2時間
	14	Chapter 14　様々な挨拶	Chapter 14: 同上	2時間	Chapter 14: 同上	2時間
	15	復習	今までの振り返り。質問などがないか復習する。	2時間	期末試験の学習	2時間
成　績　評　価		定期試験（50%）、小テスト（20%）毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（30%）				
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートを評価し、次の授業時に返却する。				
テキストおよび参考文献		*Politeness in Business Context—*ポライトネスを考えるビジネス英語				
メッセージなど		実際にペアワークやグループワークでコミュニケーションを取りながら行うアクティブラーニング型の授業です。互いに学び合う、積極的な授業参加を望みます。予習、復習が必要です。話し言葉と書き言葉の違いや、フォーマルな表現とカジュアルな表現の違いを理解し、状況に応じた発話様式を学びます。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、基本的概念を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本的概念を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識･理解･思考力･判断力･表現力）	30%
(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に誤りや大きな論理的問題もなく、場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に間違いがいくつかあるが、場面や状況に応じた表現を最低限実践することができる。	課題に対する認識に間違いがあり、場面や状況に応じた表現ができていない。	定期試験（知識･理解･思考力･判断力･表現力） 小テスト（知識･理解･思考力･判断力･表現力）	40%

(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。	言語文化の違いについて理解し、自分の気付き、考え方を明確に述べている。	言語文化の違いについて、認識に誤りや大きな論理的問題もなく、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがいくつかあるが、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがあり、自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
英語会話 English Conversation	全学科	25BAFL1001	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	Inkster Ryan	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　要	(概要)様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。 (目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。
到達目標	(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ。 (2) 英語を聞く力を養う。 (3) さまざまなトピックで英会話を練習する。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2時間	中高英語内容の復習	2時間
2	Japanese Sports and clubs （スポーツ）	Pg. 5　読む	2時間	Pg.6　読む	2時間
3	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7　読む	2時間	Pg8-9　読む	2時間
4	Japanese Music (音楽)	Pg 11　読む	2時間	Pg12　読む	2時間
5	Japanese Music (音楽)	Pg. 13　読む	2時間	Pg. 14-15 読む	2時間
6	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17　読む	2時間	Pg. 18 読む	2時間
7	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19　読む	2時間	Pg 20-21 読む	2時間
8	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29　読む	2時間	Pg. 30 読む	2時間
9	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31　読む	2時間	Pg. 32-33 読む	2時間
10	Japanese Games	Pg. 35　読む	2時間	Pg. 36 読む	2時間
11	Japanese Games	Pg. 37　読む	2時間	Pg. 38-39 読む	2時間
12	Famous Cities (観光)	Pg. 41　読む	2時間	Pg. 42 読む	2時間
13	Famous Places (観光)	Pg. 43　読む	2時間	Pg. 44-45 読む	2時間
14	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2時間	コミュニケーションサマリー　学習	2時間
15	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2時間	コミュニケーションサマリー　学習	2時間
TEST(復習)					
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2時間	中高英語内容の復習	2時間

	17	Japanese Sports and clubs （スポーツ）	Pg. 5　読む	2 時間	Pg.6　読む	2 時間
	18	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7　読む	2 時間	Pg8-9　読む	2 時間
	19	Japanese Music (音楽)	Pg 11　読む	2 時間	Pg12　読む	2 時間
	20	Japanese Music (音楽)	Pg. 13　読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間
	21	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17　読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間
	22	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19　読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間
	23	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29　読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間
	24	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31　読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間
	25	Japanese Games	Pg. 35　読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間
	26	Japanese Games	Pg. 37　読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間
	27	Famous Cities (観光)	Pg. 41　読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間
	28	Famous Places (観光)	Pg. 43　読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間
	29	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー　学習	2 時間	コミュニケーション サマリー　学習	2 時間
	30	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー　学習	2 時間	コミュニケーション サマリー　学習	2 時間
	TEST(復習)					

成　績　評　価	その他（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	マンツーマンインタビュー
テキストおよび参　考　文　献	Explain It: Talking about Japanese Culture in English. Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	ネイティブ講師による基礎的な日常会話（コミュニケーション）授業

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ	ほぼ完璧に学ぶことができる。	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	語彙や文法を学ぶことができない。	その他	34%
(2) 英語を聞く力を養う	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	聞く力を養うことができない。	その他	33%
(3) さまざまなトピックで英会話を練習する	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	英会話ができない。	その他	33%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
ハングル Korean Language		全学科	25BAFL1002	1 年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	2	選択	朴 賢珠		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　　要	ハングルの文字や基礎文法を学びながら日韓の文化について考えるようになる。また韓国語を通して異文化コミュニケーションを図る授業になる。				
到達目標	(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 (2) 韓国語を通して日韓の文化理解を深める。 (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。				

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ハングルの仕組み① 文字の組み合わせパターン	テキスト 2〜3 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 2〜3 ページを復習する。	2 時間
2	ハングルの仕組み② 基本母音	テキスト 4〜5 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 4〜5 ページを復習する。	2 時間
3	ハングルの仕組み③ 基本子音	テキスト 6〜7 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 6〜7 ページを復習する。	2 時間
4	ハングルの仕組み④ 濃音	テキスト 8〜10 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 8〜10 ページを復習する。	2 時間
5	ハングルの仕組み⑤ 複合母音	テキスト 13〜14 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 13〜14 ページを復習する。	2 時間
6	ハングルの仕組み⑥ パッチム（1）	テキスト 15〜17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15〜17 ページを復習する。	2 時間
7	ハングルの仕組み⑦ パッチム（2）	テキスト 15〜17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15〜17 ページを復習する。	2 時間
8	日本語のハングル表記	テキスト 18〜20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 18〜20 ページを復習する。	2 時間
9	ハングルの仕組みのまとめ	テキスト 19〜20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 19〜20 ページを復習する。	2 時間
10	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく。	2 時間	テスト範囲をまとめる。	2 時間

	11	視聴覚教育・映画観賞① －前半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
	12	視聴覚教育・映画観賞② －後半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
	13	「名詞＋です」文の作り方	テキスト 36～37 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 36～37 ページを復習する。	2 時間
	14	「名詞＋ですか」文の作り方	テキスト 38～39 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 38～39 ページを復習する。	2 時間
	15	まとめ	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 23～42 ページを復習する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	前期の復習① １回目	テキスト 4～21 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習① －１回目－	2 時間
	17	前期の復習② ２回目	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習② －２回目－	2 時間
	18	動詞・形容詞の丁寧形① 「です/ます形」	テキスト 46～47 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形① －です/ます形－	2 時間
	19	動詞・形容詞の丁寧形② 「ですか/ますか形」	テキスト 54～57 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形② －ですか/ますか形－	2 時間
	20	視聴覚教育	テーマに沿って事前調査をしておく。	2 時間	視聴覚教育	2 時間
	21	助詞のまとめ	テキスト 48～49 ページを読んでおく。	2 時間	助詞のまとめ	2 時間
	22	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく	2 時間	中間テスト	2 時間
	23	指示代名詞を使った表現	テキスト 58～59 ページを読んでおく。	2 時間	指示代名詞を使った表現	2 時間
	24	人称代名詞を使った表現	テキスト 60～61 ページを読んでおく。	2 時間	人称代名詞を使った表現	2 時間
	25	「イダ」否定形	テキスト 62～63 ページを読んでおく。	2 時間	「イダ」否定形	2 時間
	26	動詞・形容詞の前置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の前置否定形	2 時間
	27	動詞・形容詞の後置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の後置否定形	2 時間
	28	否定形のまとめ	テキスト 70～71 ページを読んでおく。	2 時間	否定形のまとめ	2 時間
	29	尊敬形	テキスト 72～77 ページを読んでおく。	2 時間	尊敬形	2 時間
	30	まとめ	テキスト 46～77 ページを読んでおく。 2 時間	2 時間	まとめ	2 時間

成　績　評　価	定期試験（25%）、課題・レポート（35%）、授業への取り組み（25%）、発表・プレゼンテーション（15%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等) に対する フィードバックの方法	試験や課題及びレポートは、チェックして次の授業時に渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	朴　賢珠　他「サランヘヨ！ハングルー初級から中級へー」白帝社、2015 年
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	ハングルを学びながら日韓の文化理解をしましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	定期試験（関心・意欲・知識）	10%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	課題・レポート（関心・意欲・知識）	10%
(2) 韓国語を通して日韓の文化理解を深める。	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	課題・レポート（意欲・理解・表現力）	10%
	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	授業への取り組み（意欲・理解・思考力）	10%
(3) ハングルの基本的な文法を学び､応用できる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	定期試験（知識・理解・表現力）	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	課題・レポート 課題・レポート（意欲・理解・表現力）	15%
(4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	授業への取り組み（意欲・理解・思考力）	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	発表･プレゼンテーション（知識・理解・表現力）	15%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
日本語（留学生対象） Japanese Language		全学科	25BAFL1003	1年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
演習	2	選択	林 伸一		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　要	基本的な日常会話力、コミュニケーション能力を身につける。 日本語の特色を理解する。 日本語能力試験等の資格を取得する。 日本の生活習慣・ものの考え方・風習・文化の違いを知ることによって、自国と日本の関係への理解を深め、国際社会を生きる力を培う。				
到達目標	(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。 (2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。 (3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。 (4) 1級または2級の日本語能力試験の資格取得を目標とする。				

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、学習のすすめ方			「テキスト日常会話1課の和訳暗誦」「自己紹介文」	2時間
2	日常会話の基礎①－自己紹介、挨拶、基本会話	「日常会話 1 課和訳」「自己紹介」「目的別の自己紹介文下書」	2時間	「会話1課暗誦」「自己紹介文清書」「日常生活基本語①を覚える」	2時間
3	日常会話の基礎②－日常生活の基本語彙	「会話2課」「基本語①のテスト」	2時間	「会話2課」「基本語①誤答再学習」	2時間
4	日本語の文字－ひらかな、カタカナ、漢字、	「50 音図」「会話3課」「基本語②」	2時間	「50音図再学習プリント「会話3課」「基本語②」	2時間
5	日本語の発音・イントネーション	「会話4課」「基本語③」「漢字 1026 字への挑戦テスト①」	2時間	「会話4課」「基本語③」「漢字再問題①」	2時間
6	日常会話の基本単語①－発音練習―	「会話5課」「基本語④」「漢字②」	2時間	「会話5課」「基本語④」「漢字②」	2時間
7	日本語能力試験への対応の仕方①	「会話6課」「基本語⑤」「漢字③」「日本語能力試験2級練習問題」	2時間	「会話6課」「基本語⑤」「漢字③」「日本語能力試験2級復習①」	2時間
8	日常会話の基本文形①－5W1H	「会話7課」「基本語⑥」「漢字④」「日本語能力試験②」	2時間	「会話7課」「基本語⑥」「漢字④」「日本語能力試験②」	2時間
9	日常会話の基本文形②－動詞の活用－	「会話8課」「基本語⑦「漢字⑤」「日本語能力試験③」	2時間	「会話8課」「基本語⑦「漢字⑤」「日本語能力試験③」	2時間
10	日常会話の基本文形③－過去、現在、未来－	「会話9課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日本語能力試験④」	2時間	「会話9課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日本語能力試験④」	2時間

	11	日常会話の基本文形④－希望、意思・推量の言い方－	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間
	12	日常会話の基本文形⑤－否定、疑問	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間
	13	日常会話の基本文形⑥－使役・可能・受身・自発、経験	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間
	14	日本語の特色①－補助用語・複合語－	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間
	15	日本語の特色②－敬語－	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	学習のすすめ方、前期の学習の復習	「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」		「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」	2 時間
	17	日本語能力試験への対応②－語彙・文字－	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間
	18	日本語能力試験への対応③－聴解－	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間
	19	日本語能力試験への対応④－文法－	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間
	20	日本語能力試験への対応⑤－読解－	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間
	21	日本語の特色③－慣用語、ことわざ－	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間
	22	日本語の特色④－部首・同音異義語－	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間
	23	日本語の特色⑤－オノマトペ・ことわざ・慣用句－	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間
	24	日本語の特色⑥－方言と共通語－	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間
	25	日本の国語教科書①－教科書概観・音読－	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間
	26	日本の国語教科書②－教科書輪読－	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間
	27	日本の国語教科書③－教科書発表－	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間
	28	日本語によるスピーチ①－スピーチ原稿作成－	「漢字㉔」「教科書音読・練習」「日本語能力試験㉒」	2 時間	「漢字㉔」「教科書視写」「日本語能力試験㉒」	2 時間
	29	日本語によるスピーチ②－発表－	「漢字㉕」「スピーチ原稿下書」「日本語能力試験㉓」	2 時間	「漢字㉕」「スピーチ原稿暗誦」「日本語能力試験㉓」	2 時間

	30	日本語によるスピーチ③－発表－	「スピーチ練習」（「日本語能力試験㉔」	2時間	「スピーチ原稿清書」「日本語能力試験㉔」	2時間
成績評価	定期試験、発表・プレゼンテーション（70%）、小テスト（30%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業の小テストを自己採点し、結果を記録表に記録。誤答を再試験する。ルーブリック評価に基づいて、再指導・再テストを行う。					
テキストおよび参考文献	テキスト：テキスト・プリントをその都度配布					
メッセージなど	日本での生活を充実したものにするためには、日本語の習得がなにより大事です。日常会話力を身につける中で、日本の文化や風習、日本人の国民性などへの理解を深め、国際交流を楽しんでほしいと願っています。					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	定期試験（態度・創造性・判断力）	30%
	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	発表・プレゼンテーション（態度・創造性・判断力）	
(2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる。	間違いはあるがほぼできる。	間違いは多いが、最低限の基本的なことはできる。	平易な文章の取の読み書きも難しい。	小テスト（知識・理解）	30%
(3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。	意味を理解し、積極的に会話の中で使うことができる。	基本的なことは理解しているが、使いこなすことはできない。	聞き取ることはできるが使うことはできない。	会話の中で使うことはできない。	定期試験（知識・理解）	20%
(4) 最低2級の日本語能力試験の資格を取得する。	能力試験2級に合格している。	校内2級試験に合格している。	3級レベルには到達している。	3級レベルにも到達していない。	定期試験（知識・理解）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
健康科学 Health Science	全学科	25BAHP1001	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	1	必修	佐伯 里英子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　要	身体の構造と諸機能について学び、運動、睡眠、食などの健康行動が発達や健康に及ぼす影響について理解を深める。また、いのちや生と性の健康について若者や若者を取り巻く現状を知り、自らの生き方を問いつつ生きていくことの大切さを知る。
到達目標	(1) 身体の構造や諸機能について理解する。 (2) 運動、睡眠、食などの健康行動が、健康に及ぼす影響を説明できる。 (3) 生と性の健康について若者が置かれている現状や行動の実際を知り、自らの生き方を問うことができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康科学を学ぶ意義 健康とは	健康に関する身近な情報の収集	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
2	睡眠と健康	睡眠のセルフモニタリング週間	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
3	食べ物と栄養 時間栄養学と体内時計	食事のセルフモニタリング１週間	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
4	排便と生活習慣	排便のセルフモニタリング１週間	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
5	悩みとストレス　交流分析	自分のストレス確認	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
6	多様な性	ジェンダーについて	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
7	生殖の性・性感染症	体の生殖機能について	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間
8	からだの権利と同意・合意	性の権利について	1時間	授業内容のまとめ ノート整理	1時間

成績評価	課題・レポート　70%　　授業態度　30%
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	事前学習で行わせる課題については，授業中に実施状況を確認し，授業の中で活用する．毎時振り返りレポートを課す
テキストおよび参考文献	テキストの購入は必要ない
メッセージなど	健康で幸せな人生を送るために何が重要か、深く考えてほしい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身体の構造や諸機能について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	ほぼ理解できている。	理解できていないところが多い。	理解できていない。	レポート（知識・理解）	30%
(2) 運動、睡眠、食などの健康行動が、健康に及ぼす影響を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	レポート（知識・理解）	30%
(3) 生と性の健康について若者が置かれている現状や行動の実際を知り、自らの生き方を問うことができる。	生と性の健康と自分の生き方を関連付けて、詳しく説明できる。	生と性の健康と自分の生き方を関連付けて、概ね説明できる。	生と性の健康と、自分の生き方について説明できる。	生と性の健康を自分の生き方と関連づけることができない。	レポート（知識・理解）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
スポーツ教育 Sport Education	全学科	25BAHP1002	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実技	1	必修	三輪　治彦	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識をもち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力をもち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	スポーツというと、自分が何かの運動種目を行うイメージが中心だが、スポーツには「するスポーツ」だけでなく「みる」「つたえる」「つくる」と新たな視点が考えられ、生涯を通じてスポーツに参加できる幅が広くなっている。そこで本授業では、仲間と協力してスポーツに取り組むことで、生涯に渡ってスポーツに参加できる意識を高め、誰もが楽しめるスポーツの基本的な知識や考え方等を修得する。	
到達目標	(1) 自ら積極的にスポーツを楽しむことができる。 (2) 誰もが生涯にわたりスポーツを楽しむことのできる知識や考え方を修得する。 (3) 誰もがスポーツを楽しめる方法（自分の想いやカタチ）が表現できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	どんな授業かをイメージする。	1時間	授業のスポーツについて調べる。	2時間
2	ボッチャ①（基本内容等を確認して、ゲームで体験）	ボッチャを調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
3	ボッチャ②（試合で勝てる方法を考え、練習・体験）	チームで戦術を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
4	ボッチャ③（誰もが出来る方法を考え、練習・体験）	誰もが楽しめる方法を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
5	ボッチャ④（山口短期大学杯：オリジナルな大会を開催）	ボッチャの授業を振り返る。	2時間	学習内容の復習。	2時間
6	グラウンドゴルフ①（基本内容等を確認して、ゲームで体験）	グラウンドゴルフを調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
7	グラウンドゴルフ②（試合で勝てる方法を考え、練習・体験）	チームで戦術を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
8	グラウンドゴルフ③（誰もが出来る方法を考え、練習・体験）	誰もが楽しめる方法を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
9	グラウンドゴルフ④（山口短期大学杯：オリジナルな大会を開催）	グラウンドゴルフを振り返る。	2時間	学習内容の復習。	2時間
10	ふうせんバレー①（基本内容等を確認して、ゲームで体験）	ふうせんバレーを調べる。	2時間	学習内容の復習。	2時間
11	ふうせんバレー②（試合で勝てる方法を考え、練習・体験）	チームで戦術を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間
12	ふうせんバレー③（誰もが出来る方法を考え、練習・体験）	誰もが楽しめる方法を考える。	2時間	学習内容の復習。	2時間

	13	ふうせんバレー④（山口短期大学杯：オリジナルな大会を開催）	ふうせんバレーを振り返る。	2時間	学習内容の復習。	2時間
	14	まとめ（これまでの学習の成果を実技で表現する）	前期の学習内容を整理する。。	2時間	整理した内容を振り返る。	2時間
	15	まとめ（これまでの学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2時間	整理した内容を振り返る。	2時間
成績評価		授業への取り組み（40%）、毎回の授業の振り返り（20%）、期末の実技・レポート（40%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		基本的には実技であるため、活動中（授業の終わりや種目の終わり毎）に振り返りの時間を設け、フィードバックする。				
テキストおよび参考文献		必要があれば、適宜プリントを配布する。				
メッセージなど		まずは自らがスポーツを楽しみ、一手間加えることで、誰もが生涯にわたってスポーツを楽しめる方法等を考え・実感してほしい。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 自ら積極的にスポーツを楽しむことができる。	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてある程度スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じて最低限スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	40%
(2) 誰もが生涯にわたりスポーツを楽しむことのできる知識や考え方を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) 誰もがスポーツを楽しめる方法（自分の想いやカタチ）が表現できる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業でのパフォーマンスや期末の実技やレポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	40%

専門教育科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国語（書写を含む。） Japanese Language (including Calligraphy)	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1001	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	1　小学校の教壇実践の対象となる教科「国語」の〔知識及び技能〕を整理・把握する。 2　学習指導要領国語の「書写に関する事項」を基に書写指導の実際を学習する。 3　上代から近代に至るまでの「日本文学史」を、代表的な作品をたどりながら概観する。	
到達目標	(1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。	
	(2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。	
	(3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語ることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「国語」の学習の意味と内容	これまでの学習を振り返る。	2 時間	ワークシートに授業後の感想を書く	2 時間
2	国語科の目標 －３つの内容と構成－	学習指導要領の目標を読む	2 時間	学力観の推移を整理する	2 時間
3	国語科の〔知識及び技能〕の概観	学習指導要領の内容を読む	2 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
4	国語の音韻に関する事項	資料を基に音韻の特色を考える	2 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
5	文字に関する事項 ①漢字と仮名	仮名の発明の歴史を調べる	2 時間	万葉仮名の特色をまとめる	2 時間
6	文字に関する事項 ②漢字の成り立ち	六書について調べる	2 時間	六書を基に漢字の例を調べる	2 時間
7	文字に関する事項 ③漢字の部首・熟語	二字熟語の特色を調べる	2 時間	部首熟語について例示する	2 時間
8	表記に関する事項	漢字仮名交じりの問題点を考える。	2 時間	表記上の問題点をまとめる	2 時間
9	文及び文章の構成に関する事項	文節相互の関係について調べる	2 時間	単文複文重文について整理する	2 時間

	10	言葉遣いに関する事項	敬語の種類について調べる	2 時間	これからの敬語について考える	2 時間
	11	語句に関する事項 ①語彙の種類	資料を基に語句の分類を調べる	2 時間	慣用句の例を基に特徴をまとめる	2 時間
	12	語句に関する事項 ②語彙の学習	資料を基に言葉の由来を調べる	2 時間	美しい言葉和語についてまとめる	2 時間
	13	言葉の働きや特徴に関する事項	言葉の働きの二面性について調べる	2 時間	多義語対義語等の用語を整理する	2 時間
	14	方言に関する学習	教科書の方言の取り上げ方を調べる	2 時間	方言の発声に関する考えをまとめる	2 時間
	15	言語文化に関する事項	資料の例文を音読する	2 時間	音読を重視する効果についてまとめる	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	「書写」学習の意義と内容	資料に沿って意義を考える。	2 時間	ワークシートに基づき整理する。	2 時間
	17	硬筆による書写（低学年）	手本に基づき「試書」する。	2 時間	学習の要点を基に書く。	2 時間
	18	フエルトペンによる書写（中学年）	「字形」を念頭に「試書」する。	2 時間	テキストの手本で練習する。	2 時間
	19	毛筆による書写 ①楷書・漢字（中学年）	毛筆の書写の注意点を調べる。	2 時間	「止め」と「払い」を復習する。	2 時間
	20	毛筆による書写 ②楷書・仮名（中学年）	資料を基に運筆について調べる。	2 時間	手本以外の字の練習をする。	2 時間
	21	毛筆による書写 ③漢字と仮名（高学年）	学習指導要領の運筆の要点を掴む。	2 時間	之雨天に基づき再度書いてみる。	2 時間
	22	毛筆による書写 ④行書（高学年）	楷書と行書の違いを考える。	2 時間	行書を段階別に書いてみる。	2 時間
	23	筆ペンによる書写 ①平仮名	資料を基に筆ペンに慣れる。	2 時間	「いろは歌」を楷書・行書で書く。	2 時間
	24	筆ペンによる書写 ②日常の書式	資料により地名を書いてみる。	2 時間	葉書の様式に沿って練習する。	2 時間
	25	筆ペンによる書写 ③連綿	資料を基に「連綿」を知る。	2 時間	テキストに基づき「連綿」で書く。	2 時間
	26	「日本文学史」上代の文学	資料を基に「上代」を概観する。	2 時間	上代の作品を読む。	2 時間
	27	「日本文学史」中古の文学	資料を基に「中古」を概観する。	2 時間	中古の作品を読む。	2 時間
	28	「日本文学史」中世の文学	資料を基に「中世」を概観する。	2 時間	中世の作品を読む。	2 時間
	29	「日本文学史」近世の文学	資料を基に「近世」を概観する。	2 時間	近世の作品を読む。	2 時間
	30	「日本文学史」近代の文学	資料を基に「近代」を概観する。	2 時間	近代の作品を読む。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、作品（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	① 授業後提出された感想カードやレポートにコメントを書き、次時に返却する。その際幾つかのものは全体に紹介する。 ② 書写の作品を提出させ、添削・評価をし、次時に返却する。 ③ 文学史は、毎時間レポートさせ、最後に総括的なレポートを書かせて提出させる。それにコメントと評価を示し、後日返却する。
テキストおよび参　考　文　献	演習用テキスト「国語（前期）」「国語（後期）」（和田征文編著） 文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 秋山　虔・三好　行雄「新日本文学史」文英堂 「国語便覧」浜島書店・教研出版・東京書籍
メッセージなど	1　２年次生での学習の基になる授業・教員採用試験必出の授業 2　書写の実地指導・日本の古典への読書指導を可能にする授業「必修」 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。	具体例を使ってわかるように説明できる。	術語の意味を間違いなく説明できる。	国語科の中での働きと関わりなく語としての意味が言える。	各術語の説明が適切にできない。	定期試験（知識・理解）	50%
(2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。	それぞれの道具の特徴を生かした書写ができる。	トメ・ハネ・ハライ等を手本に沿って書くことができる。	筆の特徴や各字の運筆に関係なく手本通りに書ける。	毎時間の作品がきちんと提出できない。	作品（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	30%
(3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語ることができる。	各時代の時代的な特徴と作品との関係を語ることができる。	各時代の特徴、代表的な文学作品の説明ができる。	各時代を代表する作品の概略や特徴の説明ができる。	時代の特徴への意識なく作品の説明をする。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国語表現学 Expression in Japanese Language	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2002	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	「音声言語」と「文字言語」による表現方法について、小学校における実践を念頭に置いた教材の開発とその指導法について実践的に学習する。 併せて、国語科の今日的な課題を意識した国語科の授業者としての素養と指導力を醸成する。	
到達目標	(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれに適した音読・朗読・群読をすることができる。	
	(2) 題材の設定・情報の収集・内容の検討・構成の検討・考えの形成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Ⅰ「音声言語」による表現方法 「小学校学習指導要領・国語」における「表現」の指導	学習指導案の「表現」に関わる内容を読む	2時間	テキストの「まえがき」とからめて本授業の意図を考える	2時間
2	「音読」の意義	資料にある音読の「解説」を読む	2時間	授業を振り返り、意義を整理する	2時間
3	音読による授業づくり	音読と朗読の違いを考えておく	2時間	音読を重視する訳を整理する	2時間
4	「発音チェック」と詩の音読	資料に沿って発音の予習をする	2時間	詩の音読に挑戦する	2時間
5	一斉音読・役割音読、群読	音読の授業の流れを考えておく	2時間	実例に基づき学習指導案を創る	2時間
6	朗読「声を読もう・声で描こう」	資料を読み、音読の練習をする	2時間	「日本語一音一音法」の感想を書く	2時間
7	朗読・読み方を考えよう	資料中の詩の読み方を考える	2時間	他の班の朗読について感想を書く	2時間
8	朗読・相手に聞かせる工夫	資料中の散文の読み方を考える	2時間	授業で取り組んだ朗読を繰り返す	2時間
9	Ⅱ「文字言語」による表現方法 句読点の打ち方・原稿用紙の使い方	資料中の句読点の打ち方を考える	2時間	原稿用紙の書き方の例題をする	2時間

	10	新聞コラムや先輩の作品による「随想」の実際と創作上のヒント	３つの例の感想を書いておく	2 時間	「ネタとテーマ」観点で整理する	2 時間
	11	書き出しの効用と実作 ―「書き出しは読者への誘惑である」―	資料に沿って考えをメモする	2 時間	自分の書き出し例を数点書く	2 時間
	12	実作へのアプローチ ①「テーマとネタ」（主題・取材）を考える。	「テーマとネタ」を考える	2 時間	自分の作品について準備する	2 時間
	13	実作へのアプローチ ②「文章の構成」（構想）を考える。	例を参考に「構成」について考える	2 時間	自分の作品の下書きを考える	2 時間
	14	実作へのアプローチ ③「説明と描写の効果」（叙述・推敲）を考える。	例文を比較し考えをメモする	2 時間	自分の作品の下書きを考える	2 時間
	15	「随想」への挑戦 ―「今の自分」を「外部視点」をもって書く。―	例示された「随想」の感想を書く	2 時間	自分の随想を清書する。	2 時間

成 績 評 価	作品（25%）、授業への取り組み（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（25%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	① 授業のねらいに沿った活動（音読・朗読、話し合い等）からの意見や感想について、それぞれコメントし、次時に返却する。 ② 授業中の書く活動や感想の提出に対してコメントする。提出された随想を評価し、後日返却する。
テキストおよび参 考 文 献	上條 晴夫　編著「音読・朗読・群読の授業づくり」学事出版 家本 芳郎　編・脚色「群読・ふたり読み」高文研 「美しい日本語のしらべ」東京出版 和田 征文　監修・山口県中学校国語教育研究会「中学校国語表現ノート」新学社 その他授業の内容に合わせて紹介したもの
メ ッ セ ー ジ な ど	国語教室づくりへのヒント、「随想」を書き上げる経験を得る授業 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読･朗読･群読をすることができる。	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読･朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読･朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
(2) 題材の設定・情報の収集・内容の検討・構成の検討･考えの形成･記述･推敲･共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	作品（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
社会 Social Studies		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1003	1 年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家 教員
演習	2	選択	加藤 浩久		○

実務家教員の詳細	中学校社会科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマポリシーとの関係	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身に付け、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4)教育実習、学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5)様々な教育課題について意欲的に学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6)他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いのよさを学ぼうとしながら、グループやペア片有働に積極的に参加することができる。	○
概　　要	社会科全般についての基礎的な知識を身につけるとともに、社会的な見方や考え方ができるようになり、よりよき市民・国民としての自覚をもつことができるようになる。併せて、社会科教師として使命感・責任感をもって教壇に立つ心構えを醸成する。	
到達目標	(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。	
	(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。	
	(3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会科の目標と構造	社会科の目標の確認	2 時間	授業内容の振り返り	2 時間
2	指導案から考える社会科の構造	自分が受けてた授業の想起	2 時間	作成方法の確認	2 時間
3	地理的な見方・考え方から考える社会科の構造	地理的な見方・考え方の確認	2 時間	見方・考え方の振り返り	2 時間
4	歴史的な見方・考え方から考える社会科の構造	歴史的な見方・考え方の確認	2 時間	見方・考え方の振り返り	2 時間
5	現代社会に対する見方・考え方から考える社会科の構造	現代社会の見方・考え方の確認	2 時間	見方・考え方の振り返り	2 時間
6	第 6 学年の社会科 現代の日本と世界	日本の現代史の俯瞰	2 時間	第二次世界大戦の処理の振り返り	2 時間
7	第 6 学年の社会科 近代の日本と世界	日本の近代史の俯瞰	2 時間	帝国主義の振り返り	2 時間
8	第 6 学年の社会科 近世の日本と世界	日本の近世史の俯瞰	2 時間	町人の活躍の振り返り	2 時間

	9	第６学年の社会科 中世の日本と世界	日本の中世史の俯瞰	2時間	産業の発達の振り返り	2時間
	10	第６学年の社会科 古代の日本と世界	日本の古代史の俯瞰	2時間	律令制度の振り返り	2時間
	11	第６学年の社会科 古代以前の日本と世界	日本の原始時代の俯瞰	2時間	国家成立までの振り返り	2時間
	12	第６学年の社会科 日本国憲法	日本国憲法の俯瞰	2時間	日本国憲法の三大原則の振り返り	2時間
	13	第５学年の社会科 日本の国土	日本地図の俯瞰	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	14	第５学年の社会科 日本の食糧生産	日本の農業の俯瞰	2時間	日本の農業の特色の振り返り	2時間
	15	第５学年の社会科 日本の工業生産	日本の工業の俯瞰	2時間	日本の工業の特色の振り返り	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	第５学年の社会科 日本の第３次産業	日本の第３次産業の俯瞰	2時間	情報化を中心とした振り返り	2時間
	17	第５学年の社会科 環境問題	日本社会が直面している環境問題の俯瞰	2時間	生活との関連に注目した振り返り	2時間
	18	第４学年の社会科 自分が住む県の大観	自分の出身県の大観	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	19	第４学年の社会科 住みよさに注目した考察	住みよさに注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	20	第４学年の社会科 防災に注目した考察	防災に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	21	第４学年の社会科 郷土の伝統、文化、先人	伝統・文化に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	22	第４学年の社会科 地域の特色	特色に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	23	第３学年の社会科 市町村規模の地域	自分の出身市町村の大観	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	24	第３学年の社会科 市町村における生活	産業に注目した出身県考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
	25	社会科における指導と評価	これまで作成した指導案の確認	2時間	評価の観点の振り返り	2時間
	26	総合的な学習の時間と社会科	社会科と総合学習の共通点の確認	2時間	共通点の振り返り	2時間
	27	特別の教科道徳と社会科	社会科と道徳科の共通点の確認	2時間	共通点の振り返り	2時間

	28	特別活動と社会科	社会科と特別活動の共通点の確認	2時間	共通点の振り返り	2時間
	29	主体的、対話的で深い学びと社会科Ⅰ	作成した学習過程の主体的、対話的、深い学びの三つの観点からの見し	2時間	深い学びに必要な要件の振り返り	2時間
	30	主体的、対話的で深い学びと社会科Ⅱ	作成した学習過程の主体的、対話的、深い学びの三つの観点からの見し	2時間	深い学びに必要な要件の振り返り	2時間
成　績　評　価		定期試験（40%）、課題・レポート（10%）、授業への取り組み（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参　考　文　献		テキスト：小学校社会科用教科書「新しい社会（３～６年）」東京書籍 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」東洋館出版社				
メッセージ　な　　ど		社会科好きの子どもを一人でも多く育てるために、社会科の授業づくりを創意工夫する科目 小学校教諭二種免許状：選択必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、社会的事象の考察を中心とした授業構想を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	50%
(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。	様々な角度から考察できる。	いくつかの角度から考察できる。	１つ以上考察できる。	考察できない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。	ほぼ完璧に発表できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて発表できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を発表できる。	発表できない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
算数 Arithmetic	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1004	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	西　田　　稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	算数科の各領域6学年にわたるそれぞれの指導内容、系統、関係等について学び、算数を指導するための基礎的な知識を習得する。また、学習内容に合わせた課題に取り組むことを通して、数学的な見方･考え方の重要性や指導者として把握が必要な数学的な背景について理解を深め、今後の実践的な学習や算数科指導の在り方等の学習に生きて働く力を養う。	
到達目標	(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。	
	(2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取組むことができる。	
	(3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション･数と四則演算	数と四則演算について調べ分かったことをまとめる	2時間	数の分類、演算の可能性のまとめをする。	2時間
2	数(整数)概念の形成	整数概念について調べ考えをまとめる。	2時間	数概念に関する提示課題への回答。	2時間
3	命数法と記数法	命数法、記数法について調べ分かったことをまとめる。	2時間	各国の命数法、記数法の特徴について整理する。	2時間
4	十進数、非十進数	十進数以外の記数法の仕組みについて調べる。	2時間	練習課題を通してn進数への理解を深める。	2時間
5	加法の意味と計算	学習指導要領解説の加法の意味と計算について調べる。	2時間	加法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2時間
6	減法の意味と計算	学習指導要領解説の減法の意味と計算について調べる。	2時間	減法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2時間
7	乗法の意味と計算	学習指導要領解説の乗法の意味と計算について調べる。	2時間	乗法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2時間

	8	除法の意味と計算	学習指導要領解説の除法の意味と計算について調べる。	2 時間	除法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
	9	整数の性質	学習指導要領解説の整数の性質について調べる。	2 時間	整数の諸性質をもとにした定義、定理を整理する。	2 時間
	10	概数、概算	学習指導要領解説の概数・概算について調べる。	2 時間	概数、概算についてまとめ、演習課題を解く。	2 時間
	11	小数の意味と計算	学習指導要領解説の小数の意味と計算について調べる。	2 時間	小数の意味、標記の仕組み、演算法を整理する。	2 時間
	12	分数の意味と加法、減法	学習指導要領解説の分数の意味と加法減法について調べる。	2 時間	分数の意味、標記の仕組み、加減算について整理する。	2 時間
	13	分数の乗法、除法	学習指導要領解説の分数の乗法と除法について調べる。	2 時間	分数の乗法、除法の意味、演算法を整理する。	2 時間
	14	量概念の形成と測定	学習指導要領解説の量概念の形成と測定について調べる。	2 時間	量の類型、比較方法、度量衡の歴史について整理する。	2 時間
	15	長さ、重さ、時間、容積、角度	学習指導要領解説の量の種類や測定単位について調べる。	2 時間	量の種類や測定や単位との関連等を整理する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	平面図形､平面図形の性質	学習指導要領解説の平面図形について調べる。	2 時間	定義･性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。	2 時間
	17	立体図形､立体図形の性質及び展開図	学習指導要領解説の立体図形について調べる。	2 時間	定義･性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。	2 時間
	18	図形の合同	学習指導要領解説の図形の合同について調べる。	2 時間	合同の証明に関する課題プリントをやる。	2 時間
	19	図形の対称、拡大、縮小	学習指導要領解説の図形の拡大縮小について調べる。	2 時間	拡大、縮小に関する課題プリントをやる。	2 時間
	20	円と正多角形	学習指導要領解説の円と正多角形について調べる。	2 時間	円と正多角形に関する課題プリントをやる。	2 時間
	21	平面図形の面積	学習指導要領解説の平面図形の面積について調べる。	2 時間	平面図形の面積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	22	円周と円の面積	学習指導要領解説の円について調べる。	2 時間	演習と縁の面積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	23	立体の体積	学習指導要領解説の立体の体積について調べる。	2 時間	立体の体積や容積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	24	平均、単位量、速さ	学習指導要領解説の平均､単位､速さについて調べる。	2 時間	平均､単位､速さに関する課題プリントをやる。	2 時間
	25	割合とグラフ、比	学習指導要領解説の割合について調べる。	2 時間	割合､グラフ､比に関する課題プリントをやる。	2 時間
	26	比例、反比例	学習指導要領解説の比例、反比例について調べる。	2 時間	比例､反比例に関する課題プリントをやる。	2 時間

	27	量の単位とメートル法	学習指導要領解説の単位に関することについて調べる。	2 時間	単位の換算に関する課題プリントをやる。	2 時間
	28	計算法則と演算の工夫	学習指導要領解説の計算法則や演算の工夫について調べる。	2 時間	計算法則や法則利用に関する課題プリントをやる。	2 時間
	29	資料の整理とグラフ	学習指導要領解説の資料の整理に関わることを読んでおく。	2 時間	柱状グラフ等に関する課題プリントをやる。	2 時間
	30	場合の数	学習指導要領解説の場合の数について調べる。	2 時間	場合の数や確率に関する課題プリントをやる。	2 時間

成績評価	定期試験（40%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（15%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへのコメント記入や採点を行い、必要に応じて再提出を求めたり発展的な課題を課したりすることにより、理解定着と達成感、成就感の醸成を図る。
テキストおよび参考文献	テキスト：講義資料はその都度、プリント類は必要に応じて配付する。 文部科学省「小学校指導要領解説　算数編」　　小学校算数教科書　各学年　啓林舘
メッセージなど	小学校 6 年間の算数科学習内容の重要事項を領域・系統に沿って体系的に学習し、算数の有用性や数学的な考え方のよさを見出しましょう。 小学校教諭二種免許:選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる	大きな間違いがなく内容に関する基礎知識の説明ができる。	間違いはあるが、最低限の基礎知識の説明ができる。	基礎知識が身についておらず、説明ができない。	定期試験（知識・理解・技能・思考力・判断力）	40%
(2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取組むことができる。	主体的に取り組み、ほぼ完璧に成し遂げることができる。	主体的に取り組み、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。	主体性に課題はあるがほぼ成し遂げることができる。	主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
	主体的に取り組み、ほぼ完璧に成し遂げることができる。	主体的に取り組み、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。	主体性に課題はあるがほぼ成し遂げることができる。	主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。	発表･プレゼンテーション（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。	ほぼ完璧な解決ができる。	単純ミスはあるが、大きな間違いをせずに解決できる。	いくつかの間違いはあるが、ほぼ的確に解決できる。	間違いが多く、ほとんど的確な解決ができていない。	課題・レポート（技能･思考力･判断力･表現力･問題解決力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
理科 Science	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1005	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	西田 稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物や現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する小学校理科教育について学び、学校現場で役立つ教育実践力を身につける。	
到達目標	(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。	
	(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。	
	(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教科「理科」について理科の目標と内容	学習指導要領理科編の理科の目標を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、理科の目標と内容をまとめる。	2時間
2	「理科」でつけるべき学力について	学習指導要領理科編の学力について調べる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、理科でつけるべき学力についてまとめる。	2時間
3	第3学年の理科の目標及び「風とゴムの力の働き」	3年理科教科書の「風とゴムの力のはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「風とゴムの力のはたらき」についてまとめる。	2時間
4	第3学年の理科「光と音の性質」	3年理科教科書の「光と音の性質」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「光と音の性質」についてまとめる。	2時間
5	第3学年の理科「磁石の性質」	3年理科教科書の「磁石の性質」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「磁石の性質」についてまとめる。	2時間

	6	第3学年の理科「電気の通り道」	３年理科教科書の「電気の通り道」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「電気の通り道」についてまとめる。	2時間
	7	第3学年の理科「身の回りの生物植物」	３年理科教科書の「身の回りの生物植物」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「身の回りの生物 植物」についてまとめる。	2時間
	8	第４学年の理科の目標及び「空気と水の性質」	４年理科教科書の「空気と水の性質」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「空気と水の性質」についてまとめる。	2時間
	9	第４学年の理科「月と星」	４年理科教科書の「月と星」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「月と星」についてまとめる。	2時間
	10	第4学年の理科「月と星　観察の仕方」	４年理科教科書の「観察の仕方」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「月と星　観察の仕方」についてまとめる。	2時間
	11	第4学年の理科「電流のはたらき」	４年理科教科書の「電流のはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「電流のはたらき」についてまとめる。	2時間
	12	第4学年の理科「ものづくり」	４年理科教科書の「ものづくり」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「ものづくり」についてまとめる。	2時間
	13	第4学年の理科「もののあたたまりかた」	３年理科教科書の「もののあたたまりかた」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「者の温まり方」についてまとめる。	2時間
	14	第4学年の理科「人の体のつくりとはたらき」	４年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「人の体とはたらき」についてまとめる。	2時間
	15	第4学年の理科「季節と生物」	４年理科教科書の「季節と生物」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「季節と生物」についてまとめる。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	第５学年の理科の目標及び「物の溶け方」	５年理科教科書の「物の溶け方」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「物の溶け方」についてまとめる。	2時間
	17	第5学年の理科「振り子の運動」	５年理科教科書の「振り子の運動」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「振り子の運動」についてまとめる。	2時間
	18	第5学年の理科「電流がつくる磁力」	５年理科教科書の「電流がつくる磁力」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「電流が作る磁力」についてまとめる。	2時間

	19	第5学年の理科「植物の発芽、成長、結実」	5年理科教科書の「植物の発芽、成長、結実」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「植物の発芽、成長、結実」についてまとめる。	2時間
	20	第5学年の理科「動物の誕生　魚」	5年理科教科書の「魚の誕生」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「動物の誕生　魚」についてまとめる。	2時間
	21	第5学年の理科「動物の誕生　人」	5年理科教科書の「人の誕生」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「動物の誕生　人」についてまとめる。	2時間
	22	第5学年の理科「流れる水の働き」	5年理科教科書の「流れる水の働き」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「流れる水の働き」についてまとめる。	2時間
	23	第5学年の理科「天気の変化」	5年理科教科書の「天気の変化」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「天気の変化」についてまとめる。	2時間
	24	第6学年の理科の目標及び「燃焼の仕組み」	6年理科教科書の「燃焼の仕組み」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「燃焼の仕組み」についてまとめる。	2時間
	25	第6学年の理科「水溶液の性質」	6年理科教科書の「水溶液の性質」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「水溶液の性質」についてまとめる。	2時間
	26	第6学年の理科「人の体のつくりとはたらき」	6年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき「人の体の作りと働き」についてまとめる。	2時間
	27	第6学年の理科「生物と環境」	6年理科教科書の「生物と環境」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「生物の環境」についてまとめる。	2時間
	28	第6学年の理科「てこの規則性」	6年理科教科書の「てこの規則性」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「てこの規則性」についてまとめる。	2時間
	29	第6学年の理科「土地のつくりと変化」	6年理科教科書の「土地のつくりと変化」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「土地のつくりと変化」についてまとめる。	2時間
	30	第6学年の理科「月と太陽」	6年理科教科書の「月と太陽」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、「月と太陽」についてまとめる。	2時間
成　績　評　価		定期試験（30%）、課題・レポート（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業後実施する振り返りを確認するとともに、毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。				

テキストおよび参考文献	講義資料はその都度配布する 小学校理科教科書 3 年、4 年、5 年、6 年 文部科学省「小学校学習指導要解説　　理科編」
メッセージなど	理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践と理科授業におけるアクティブラーニングについて学習します。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。	目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。	目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。	目標や内容を理解しておらず、説明もできない。	課題・レポート（知識・理解）	15%
	目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。	目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。	目標や内容を理解しておらず、説明もできない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。	理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。	理解しておらず、説明もできない。	課題・レポート（知識・理解）	15%
	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。	理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。	理解しておらず、説明もできない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。	心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。	身にはつけているが、完璧な説明ができない。	十分とは、言えないが、何とか説明はできる。	身についてないため、説明もできない。	課題・レポート（思考力･判断力･技能）	20%
	心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。	身にはつけているが、完璧な説明ができない。	十分とは、言えないが、何とか説明はできる。	身についてないため、説明もできない。	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	20%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活 Life Environments		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2006	２年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	2	選択	川上 認		○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校１、２年生対象の総合的な教科である生活科の特設的な意義を知り、その目標や内容の理解を深める。 「直接的な活動や体験重視」の教科であり、３学年以上の「理科や社会科の基礎」を培うという特質的性格を究明していく。	
到達目標	(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	
	(2) 生活科の 4 つの目標と 9 つの内容とその扱い方が分かり、指導できるようになる	
	(3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる	
	(4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	生活科設置の背景と趣旨	生活科の誕生の歴史を読む	2 時間	理由をまとめる	2 時間
	2	生活科の目標	目標の全体構成を読む	2 時間	改訂点をまとめる	2 時間
	3	生活科の内容１～３	内容構成を図示する	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	4	生活科の内容４～６	内容の階層性を図示する	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	5	生活科の内容７～９	学習対象を読み取る	2 時間	内容構成図を書く	2 時間
	6	自然との触れ合い計画立案	自然の教材をさがす	2 時間	計画案を検討する	2 時間
	7	春の遠足実習	実施上の配慮を書く	2 時間	報告書を書く	2 時間
	8	栽培活動（１）畑づくり	春野菜の種類を調べる	2 時間	植栽方法を書く	2 時間
	9	栽培活動（２）野菜の植栽	植付の仕方を調べる	2 時間	自己評価表を書く	2 時間
	10	飼育活動（１）メダカの飼育方法	メダカの特徴を調べる	2 時間	注意点をメモする	2 時間
	11	飼育活動（２）飼育の実際	メダカ新聞をつくる	2 時間	感想文を書く	2 時間

	12	交流授業の計画（対）～小学校参観	訪問時の挨拶を書く	2 時間	日程表を作る	2 時間
	13	交流授業の実践	指導案を読んでおく	2 時間	令状を書く	2 時間
	14	遊び教材づくり（例）空気鉄砲	子供の遊びを調べる	2 時間	関連教材を調べる	2 時間
	15	遊びの実際	指導上の留意点を調べる	2 時間	相互評価する	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	生活科の全体計画・年間計画	指導の特質を読みとる	2 時間	模擬計画を作る	2 時間
	17	生活科の単元計画の作成	単元計画を読む	2 時間	計画を修正する	2 時間
	18	指導案の作成（1）作成上の留意点	指導案事例を読む	2 時間	案を作成する	2 時間
	19	指導案の作成 （2）指導案の作成	指導案の作成	2 時間	案を修正する	2 時間
	20	生活科の評価の基本	配布プリントを読む	2 時間	自己評価してみる	2 時間
	21	評価基準と評価規準	テキスト 3P を読む	2 時間	違いをまとめる	2 時間
	22	自然との触れ合い体験計画	注意点を調べる	2 時間	準備物を整える	2 時間
	23	秋の野山の散策 例）右田ケ岳	持ち物等を整える	2 時間	感想文を書く	2 時間
	24	栽培活動の実際（1）秋植えの野菜	秋野菜の種類を調べる	2 時間	野菜の絵を描く	2 時間
	25	栽培活動の実際（2）秋の収穫体験	収穫物の活用を書く	2 時間	自己評価する	2 時間
	26	交流活動の計画 （対）小学校	計画書を作製する	2 時間	形式を調べる	2 時間
	27	交流活動の実際	訪問マナーをメモする	2 時間	相互評価する	2 時間
	28	自然物を使った遊び （例）糸電話等	糸電話につて調べる	2 時間	遊びを絵にする	2 時間
	29	季節的行事の計画	伝統行事を調べる	2 時間	発表材料を作る	2 時間
	30	季節的行事の実際 （例）もちつき	餅つきについて調べる	2 時間	正月行事を調べる 1 時間	2 時間

成 績 評 価	定期試験（25%）、課題・レポート（25%）、指導案（10%）、教材作成（15%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	・過去の活動体験時に作成した累積成果物等によりフィードバックする
テキストおよび参 考 文 献	文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」（4 版）　東洋館出版 山口短期大学授業用テキスト「生活」　山口短期大学
メッセージなど	体験活動を重視した教科なので、大学キャンパスより外に学習の場を設けることもあり、広く実践的に社会や自然に働きかける活動をします。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる	まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない	定期試験（理解）	10%
	ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる	まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない	課題・レポート（知識）	10%
(2) 生活科の 4 つの目標と 9 つの内容とその扱い方が分かり、解できるようになる	ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる	十分に生活科の目標と内容を記述できる	おおむね生活科の目標と内容を記述できる	まったく生活科の目標と内容を記述できない	定期試験（理解）	15%
	ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる	十分に生活科の目標と内容を記述できる	おおむね生活科の目標と内容を記述できる	まったく生活科の目標と内容を記述できない	課題・レポート（知識）	15%
(3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる	ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる	十分に指導計画や指導案が作成できる	おおむね指導計画や指導案が作成できる	まったく指導計画や指導案が作成できない	指導案（技能）	10%
	ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる	十分に指導計画や指導案が作成できる	おおむね指導計画や指導案が作成できる	まったく指導計画や指導案が作成できない	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる	ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる	十分に学習指導・評価の在り方を説明できる	おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる	まったく学習指導・評価の在り方を説明できない	教材作成（意欲）	15%
	ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる	十分に学習指導・評価の在り方を説明できる	おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる	まったく学習指導・評価の在り方を説明できない	授業への取り組み（関心）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
音楽 Music	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1007	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	松田 和寛	○

実務家教員の詳細	中学校音楽科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　要	小学校の教員として児童の音楽的感性と表現力を育てていくためには、教員自身の音楽的な知識と基礎能力が必要である。そのために、ここでは音楽理論と歌唱の基礎、リズム奏の基礎・基本を習得し、音楽的感性と音楽的技能を養う。 グループ演習をとおしてアンサンブルをする技能を習得する。	
到達目標	(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。	
	(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。	
	(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義の全体目標及び概要説明	「概要説明」テキスト P1 を読んでおく	2時間	理解して自分の考えをまとめる。	2時間
2	音の長さ・音符と休符について	「音の長さ」テキスト P27 を読んでおく	2時間	プリントパート 1 でまとめる	2時間
3	音の高さ・音名と階名	「音の高さ」テキスト P28 を読んでおく	2時間	プリントパート 2 でまとめる	2時間
4	音の強さ・音の色・味わいの考察	「音の強さ・音の色」テキスト P30 を読む	2時間	プリントパート 3 でまとめる	2時間
5	音楽用語と各種記号の意味するところ	「音楽用語と各種記号」教科書 P242,243 を読む	2時間	用語を暗記する	2時間
6	リズムと速度、リズムと拍子について	「リズムと速度」教科書 P244,245 を読んでおく	2時間	プリントパート 2 でまとめる	2時間
7	ソルフェージュ・聴音	「ソルフェージュ」テキスト P7 を読んでおく	2時間	添削指導の復習練習	2時間
8	リズムの変化、反復、終止感	「リズムの変化」テキスト P31,32 を読んでおく	2時間	プリントパート 6 でまとめる	2時間
9	曲想、アンサンブル ―グループ演習―	「曲想、アンサンブル」教科書 P2 を読んでおくグループで練習する	2時間	プリントパート 7 でまとめる	2時間
10	指揮の仕方、指揮者の役割	「指揮の仕方」テキスト P34、教科書 P 141 を読んでおく	2時間	プリントパート 5 でまとめ､会得する	2時間

	11	ハ長調の音階とイ短調の音階	「音階」テキスト P33 を読んでおく	2 時間	プリントパート 3,4 でまとめる	2 時間
	12	アンサンブルと指揮者の務め	「アンサンブル」教科書 P 143 を読んでおく 自分の割り当てを練習しておく	2 時間	実習、演習し会得する	2 時間
	13	音楽の歴史の概要をつかむ	「音楽の歴史」テキスト P4,5 を読んでおく	2 時間	記憶、暗記し、まとめる	2 時間
	14	形式美・鑑賞教材のとらまえ方	「鑑賞教材」テキスト P34,35,36 を熟読する	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	15	移調・転調、楽典総論	「楽典総論」テキスト P37,38 を読んでおく	2 時間	プリントパートまとめ 1 から 3 でまとめる	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	ハ長調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	「ハ長調主要三和音」テキスト P14 を読む	2 時間	実際に演習する	2 時間
	17	コードネームについて	「コードネーム」テキスト P14 を読んでおく	2 時間	振り返りシートによりまとめる	2 時間
	18	ヘ長調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	「ヘ長調主要三和音」テキスト P16 を読む	2 時間	鍵盤で会得する	2 時間
	19	ト長調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	「ト長調主要三和音」テキスト P17 を読む	2 時間	鍵盤で会得する	2 時間
	20	メジャーコード・マイナーコード	「コード」テキスト P16 を読む	2 時間	検眼で実習する	2 時間
	21	イ短調の主要三和音Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音	「イ短調主要三和音」テキスト P14 を読む	2 時間	実際に演習する	2 時間
	22	セブンのコード C7.F7.G7.D7.E7	「セブンのコード」テキスト P14 を読む	2 時間	鍵盤で会得する	2 時間
	23	コードによる平易な伴奏	「コードによる伴奏」テキスト P18 を読み鍵盤奏をしておく	2 時間	練習し会得する	2 時間
	24	ハ長調→ト長調、ハ長調→ヘ長調への移調奏	「移調奏」教科書 P139 の鍵盤奏をしておく	2 時間	練習し会得する	2 時間
	25	旋律を歌い、コードによる伴奏をつける	「伴奏をつける」テキスト P25,26 を読む	2 時間	練習し会得する	2 時間
	26	コードのみの伴奏で旋律を歌う	「コードのみの伴奏」テキスト P29 を読む	2 時間	練習し会得する	2 時間
	27	弾き歌いを人前で発表する	「弾き歌い」テキスト P30 の鍵盤奏をする	2 時間	他人のを聞いて自分へ取り込む	2 時間
	28	和音の教え方 アクティブラーニング	「和音・AL」テキスト P19 を読み、考える	2 時間	自分の考えをまとめる	2 時間
	29	グループによるＡＬの成果発表	前時のまとめをしておく	2 時間	発表シートをまとめる	2 時間
	30	コードを使って即興演奏に挑戦	自由課題に取り組む	2 時間	演習・実践あるのみ	2 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、その他（40%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	プリント 10 パートの習得及び繰り返しの実技検定やレッスンをとおし、課題を段階的にクリアさせる。やる気を引き出し技能の習得を目指させる。
テキストおよび参　考　文　献	初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用（音楽之友社） 小学校学習指導要領　第６節　音楽
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	義務教育で学んだ音楽知識を体系化し、さらに楽典を総括的に学びましょう。 演習の楽しさを体験し、将来の活動に生かせる素地をつくりましょう。 能力にあった器楽伴奏法を習得し、楽しく児童をリードする力を養いましょう。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。	音楽の三要素（旋律・リズム・和音）を記号化した楽典を全体的にほぼ完璧に理解し活用できる。	理論として理解でき、活用の段階で実用できる程度に習得できる。	ほぼ理解でき、実用実践の段階で混乱せずに活用できる理論が習得できる。	合理性に富む楽典理論が理解習得できていない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び､その基礎力の体得ができる。	鍵盤楽器を中心として、弾き歌いの技量など、ほぼ完璧に出来る	器楽と歌唱の別々でなら、ほぼ完璧に表現できる。	基本的、基礎的な演奏力がほぼ身に着いている。	基礎的、基本的技量が全く身に着かない。	その他 (技能・表現力)	30%
(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	定期試験 (知識・理解)	10%
	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	その他 (技能・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
声楽 Vocal Music		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1008	２年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	1	必修	宮本 千穂		

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	初等科音楽教育における歌唱共通教材の音楽的歌唱方法の基本を習得し、現場で必要な伴奏法を学ぶとともにピアノでの弾き歌いができる。
到達目標	(1) 歌唱共通教材 24 曲の内容を理解し、歌うことができる。 (2) コードや和音を修得し、伴奏に活用できる。 (3) 歌唱共通教材の曲をピアノで弾き歌いが演奏できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	歌唱演習 １学年共通教材より	テキスト 136～142 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
2	歌唱演習 ２学年共通教材より	テキスト 144～150 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
3	歌唱演習 ３学年共通教材より	テキスト 152～158 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
4	歌唱演習 ４学年共通教材より	テキスト 160～168 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
5	歌唱演習 ５学年共通教材より	テキスト 170～180 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
6	歌唱演習 ６学年共通教材より	テキスト 182～188 を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
7	簡単な声楽アンサンブル	指定された楽譜を譜読みする。	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
8	ピアノによる伴奏法 ①	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間

	9	ピアノによる伴奏法 ②	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	10	ピアノによる伴奏法 ③	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	11	ピアノによる弾き歌い ①	指定した曲の譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	12	ピアノによる弾き歌い ②	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	13	ピアノによる弾き歌い ③	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	14	ピアノによる弾き歌い ④	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	15	ピアノによる弾き歌い ⑤	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）授業への取り組み(50%)
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回の授業の曲を復習する。
テキストおよび参　考　文　献	初等科音楽研究会　編「最新　初等科音楽教育法」音楽之友社
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 歌唱共通教材 24 曲の内容を理解し、歌うことができる。	ほぼ完璧に、歌うことができる。	大きな間違いがなく、歌うことができる。	最低限で、歌うことができる。	習得していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
(2) コードや和音を修得し伴奏に活用できる。	ほぼ完璧に、活用できる。	大きな間違いがなく、基本を活用できる。	間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。	活用できていない。	授業での取り組み（技能・意欲・態度）	15%
(3) 歌唱共通教材の曲をピアノで弾き歌いが演奏できる。	ほぼ完璧に、弾き歌いが演奏できる。	大きな間違いがなく、弾き歌いが演奏できる。	最低限で、弾き歌いが演奏できる。	弾き歌いができていない。	定期試験（技能･表現力･作品の完成度）	50%
	ほぼ完璧に、弾き歌いが演奏できる。	大きな間違いがなく、弾き歌いが演奏できる。	最低限で、弾き歌いが演奏できる。	弾き歌いができていない。	授業での取り組み（関心・意欲）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
器楽Ⅰ Instrumental Music I	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1009	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	必修	宮本 奈奈・宮本 千穂	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	初等科音楽教育に必要なピアノ演奏技術の修得を目指す。 それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。 個人レッスンの形態で演習する。

到達目標	(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。
	(2) 正しい楽譜の読み方を学べる。
	(3) 学んだことを応用し、表情豊かに演奏できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ピアノの扱い方 演奏の方法 演奏楽曲の説明	テキストを読んでおく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
2	ピアノ演奏① バイエル15番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
3	ピアノ演奏② バイエル15番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
4	ピアノ演奏③ バイエル28番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
5	ピアノ演奏④ バイエル28番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
6	ピアノ演奏⑤ バイエル48番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
7	ピアノ演奏⑥ バイエル48番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
8	ピアノ演奏⑦ バイエル51番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
9	ピアノ演奏⑧ バイエル51番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
10	音階について① ハ長調、ニ長調、ヘ長調	譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
11	音階について② ト長調、イ短調	譜読みしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
12	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ25の練習曲」以上の教材より選択 −1週目−	課題曲の練習をしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間
13	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ25の練習曲」以上の教材より選択 −2週目−	課題曲の練習をしておく	2時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2時間

	14	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ 25 の練習曲」以上の教材より選択 −3 週目−	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	15	「ﾌﾞﾙｸﾞﾐｭｰﾗｰ 25 の練習曲」以上の教材より選択 −4 週目−	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
成　績　評　価	定期試験（66%）、授業への取り組み（34%）					
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	日々の練習の成果を復習練習でフィードバックし、実技試験の場で発表する。					
テキストおよび参　考　文　献	「バイエル教則本」全音出版社 「ブルグミューラー25 の練習曲」全音出版					
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	小学校教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	定期試験（関心・意欲・態度)	18%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み（知識･技能）	17%
(2) 正しい楽譜の読み方を学べる。	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基礎を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基礎を学んでいる。	学べていない。	定期試験（関心・意欲・態度)	30%
(3)　学んだことを応用し、表情豊かに演奏できる。	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	定期試験（関心・意欲・態度)	18%
	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	授業への取り組み（知識･技能）	17%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
器楽Ⅱ Instrumental Music Ⅱ	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2010	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	安部 浩信	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	器楽合奏法は初等音楽教育に必要な様々な楽器の知識を習得し、合奏方法とその指導法を学ぶ。 また、歌唱教材のピアノ伴奏法を習得する。
到達目標	(1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。
	(2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。
	(3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	リコーダー演習法 ―１週目―	リコーダーの運指を教科書を見ながら練習しておく	2時間	授業で練習した音階と曲を練習する	2時間
2	リコーダー演習法 ―２週目―	♯、♭の指使いを予習しておく	2時間	授業で練習した音階と曲を練習する	2時間
3	リコーダー演習法 ―３週目―	指定された曲を練習しておく	2時間	授業で練習した音階と曲を練習する	2時間
4	合奏楽器の特徴と扱い方 ―１週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2時間	授業で練習した楽器の練習をする	2時間
5	合奏楽器の特徴と扱い方 ―２週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2時間	授業で練習した楽器の練習をする	2時間
6	合奏① ―１、２、３年生対象曲１週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2時間	授業で練習した楽器の練習をする	2時間
7	合奏② ―１、２、３年生対象曲２週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2時間	授業で練習した楽器の練習をする	2時間
8	合奏③ ―１、２、３年生対象曲３週目―	合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく	2時間	授業で練習した楽器の練習をする	2時間
9	合奏（創作）① ―４、５、６年生対象曲１週目―	合奏曲のリズムを工夫しておく	2時間	授業で創作したリズムを練習する	2時間
10	合奏（創作）② ―４、５、６年生対象曲２週目―	創作したリズムを発展させておく	2時間	授業で創作したリズムを練習する	2時間

	11	合奏（創作）③ ―４、５、６年生対象曲３週目― （発表会）	創作リズムの練習をしておく	2時間	合奏曲の仕上げ練習をする	2時間
	12	ピアノ伴奏法① ―歌唱教材伴奏法１、２年	指定された曲を練習しておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
	13	ピアノ伴奏法② ―歌唱教材伴奏法３、４年	指定された曲を練習しておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
	14	ピアノ伴奏法③ ―歌唱教材伴奏法５、６年	指定された曲を練習しておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
	15	ピアノ伴奏法④　まとめ	指定された曲を練習しておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間

成　績　評　価	定期試験（51%）、授業への取り組み（49%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回授業の終わりに出来ているか個別に確認をする。
テキストおよび参　考　文　献	泉 靖彦　他「初等科　音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領　第６節　音楽
メッセージなど	初等科音楽教育の実践的指導法を学びます。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	定期試験（知識・理解）	18%
	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	授業への取り組み（技能）	17%
(2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	定期試験（技能）	18%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み（関心・理解）	17%
(3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。	ほぼ完璧に合奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を合奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を合奏できる。	合奏ができていない。	授業への取り組み（知識・技能）	15%
	ほぼ完璧に合奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を合奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を合奏できる。	合奏ができていない。	定期試験（作品の完成度）	15%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
図画工作 Arts and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1011	1年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	2	必修	佐古 淳子		○

実務家教員の詳細	中学校美術科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	図画工作における領域の中で、絵画・デザインを主におこなう。工作は教材研究に、鑑賞は美術史に託しながら相互に行っていく。絵画ではデッサン・水彩画を、デザインはポスターを作製する。採用試験対策のため、持ち込み不可の試験を行う。色彩関係について知識を得られるような内容にする。	
到達目標	(1) 水彩画、ポスター の制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。	
	(2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。	
	(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	
	(4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・人物クロッキー	テキスト P.3～P.7 から鉛筆画の概要をつかむ。	2時間	授業を振り返り、人物クロッキーの自己評価をする。	2時間
2	鉛筆デッサン・ものの見方 －手・器と視点－	テキスト P.11、P.8、P.9 の演習 1),2)を予習し透視図法と陰影のつけ方を理解する。	2時間	授業を振り返り、２つのデッサンの完成度を高め、自j子評価をして次時提出する。	2時間
3	鉛筆デッサン －人物の顔－ 配置とトレース	テキスト P.10 を読んで実践し人物の顔についての理解を深める。	2時間	授業を振り返り、デッサンの途中段階の自己評価をする。	2時間
4	鉛筆デッサン －人物の顔－ 陰影の技法	P.6~P.10 を振り返り人物の顔の陰影について理解を深める。	2時間	授業を振り返り、制作の自己評価および見直しをする。	2時間
5	鉛筆デッサン －人物の顔の仕上げ－	顔の凹凸を理解し、起伏に沿った陰影のつけ方を追究、制作を進める。	2時間	デッサンの完成度を高め、自己評価をして次時提出する。	2時間

	6	水彩画の制作 －モチーフの選択・レイアウト－	テキスト P.11～P.18 からアングル、画面構成の理解を深める。	2 時間	授業を振り返り、制作の見直し、自己評価をする。	2 時間
	7	下描き① －構図決定（鉛筆）－	身近なモチーフを探し組み合わせを試しておく。プリントを確認する。	2 時間	授業を振り返り、制作の自己評価、および手直しをする。	2 時間
	8	下描き② －細部描画（鉛筆）－	テキスト P.13~P.18 からモチーフの隣接、前後関係、上下遠近を確認する。	2 時間	授業を振り返り空間の描き方について理論的にまとめる。	2 時間
	9	着彩① －薄塗り－	テキスト P.19～P.21 を読み透明水彩の重色の効果を理解する。	2 時間	透明水彩と不透明水彩の違いについてまとめる。	2 時間
	10	着彩② －画面全体を見ながら色を重ねていく－	テキスト P.20~P.21 の重色の効果に関連して水彩の技法を理解しておく。	2 時間	重色の効果に関連して点描やドライブラッシュ、ハッチング、ぼかし、洗い出しなどを復習しておく。	2 時間
	11	着彩③ －色を重ねて深みを出す－	陰影や遠近の考察とともに暖色や寒色の効果について考える。（色価について）	2 時間	授業を振り返り、制作の自己評価をする。	2 時間
	12	評価・講評	これまでの学習の観点からお互いの批評ができるように考えておく	2 時間	授業を振り返り、鑑賞内容や言葉の表現が適切だったか感想をまとめる。	2 時間
	13	演習グラデーション① －色について－	テキスト P.24～P.27 を読んで色の学習について理解しておく。	2 時間	授業を振り返り、疑問点などをまとめる。	2 時間
	14	演習グラデーション② －ポスターカラーの使い方－	明度変化と色相変化の構想をまとめておく。	2 時間	授業を振り返り、課題の制作状況の補足をする。	2 時間
	15	演習グラデーション③	色の学習の用語について説明できるようにしておく。	2 時間	修正箇所を見直し、課題の完成度を高め、提出する。	2 時間

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	ポスターについて	テキスト P.22,P.23, P.30 を読んでポスターについて理解を深める。	2 時間	授業を振り返り、自分の主題、構想、資料収集に取り掛かる。	2 時間
17	レタリング －ゴシック体と明朝体①－	テキスト P.28、P.29 を読んで演習１）、2）を予習する。	2 時間	授業を振り返り、予習した内容を見直す。	2 時間
18	レタリング －ゴシック体と明朝体②－	演習シートによって技術の向上を図る。	2 時間	授業を振り返り、演習シートを完成させ、次時提出する。	2 時間
19	資料収集・構想・アイデアスケッチ	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間

	20	下描き① －構図決定－	コピー・レタリングの考案	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も推敲する。	2 時間
	21	下描き② －レタリングのトレースや細部－	制作状況の遅れを補足	2 時間	制作状況の補足をし進捗を次時報告	2 時間
	22	着彩① －モダンテクニックについて－	テキスト P.31 を読んで吹き流し、スパッタリング、デカルコマニーなどを知る。	2 時間	**制作状況の補足をし進捗を次時報告**	2 時間
	23	着彩②	**制作状況の遅れを補足**	2 時間	**制作状況の補足をし進捗を次時報告**	2 時間
	24	着彩③	制作状況の補足をする。	2 時間	**制作状況の補足をし進捗を次時報告**	2 時間
	25	着彩④	制作状況の補足をする。	2 時間	**制作状況の補足をし進捗を次時報告**	2 時間
	26	着彩⑤	制作状況の補足をする。	2 時間	**制作状況の補足をし進捗を次時報告**	2 時間
	27	着彩⑥	制作状況の補足をする。	2 時間	授業を振り返り、自己評価をする。	2 時間
	28	評価・講評	制作状況の補足をする。完成度をより高め鑑賞の考えを深め講評に備える。	2 時間	お互いに鑑賞しあい意見交換をした内容を作品の完成に生かし、次時提出する。	2 時間
	29	美術史・東西比較	事前に配布している美術史年表を予習しておく。	2 時間	授業を振り返り、鑑賞内容や作品名作者名をまとめて次時提出。	2 時間
	30	美術史まとめ	美術資料集の内容、作品、作者、世界遺産などについて知識を深める。	2 時間	授業を振り返り、自己評価をする。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（5%）、課題・レポート（10%）、作品（40%）、授業への取り組み（40%）、発表・プレゼンテーション（5%）
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	学生は授業の振り返りシートに課題に対する疑問や感想、自己評価を記入し連絡ボックスに入れる。それに対して次時までにコメントを記入し返却する。 課題の評価は作品完成時に口頭で、試験の評価は点数（100 点中～80 点：優、79～70 点：良、69～60 点：可、60 点未満：不可）で知らせる。正解とともに返却する。場合によっては個人的に呼び出して指導することもある。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト『図画工作』　山口短期大学　佐古淳子 小学校学習指導要領　第７節　図画工作 中学校学習指導要領　第６節　美術
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	制作が主となる活動です。小学校の学習が次に何に繋がっていくのかを理解するために概ね中学校課程に準ずる内容になっています。皆さんの個性を重視しながら、創意・工夫や完成させる意欲が高まるような関わり方を模索していきます。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 水彩画、ポスター の制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	5%
	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	5%
(2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	作品（意欲・思考力・表現力・創造性・問題解決力）	20%
	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	授業への取り組み（意欲・理解・思考力・判断力・創造性）	20%
(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	作品（意欲・技能・表現力・問題解決力・作品の完成度）	20%
	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	授業への取り組み（意欲・判断力・表現力・創造性・問題解決力）	20%
(4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・知識・思考力・創造性）	5%
	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力・協働性・問題解決力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
工芸 Craft	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1012	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	西村 直記	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	粘土と木を主材料として制作過程を理解しながらその技法を身につける。前期では、付け加えながら造形する粘土を使用し、粘土の性質を理解しながらデザイン感覚を養う。土地柄、大道は萩焼きの粘土が産出する場所でもあるので、その特性を活かして萩焼きの制作をおこなう。後期では、削って造形する木を使用し、木の特性を理解しながら前期で扱った粘土との違いを学ぶ。実際に木材を使って鍋敷きやペーパーナイフを制作し、電動糸のこ盤などの工具の使用方法や木材の加工方法を学習する。	
到達目標	(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。	
	(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。	
	(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の制作意図を反映した作品を創造することができる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業の概要についての説明と心構え	—	—	授業の概要と心構えをまとめる。	2時間
2	概要及び焼物用粘土の取扱いについて	本時の内容に該当する資料の項目を読む。	2時間	焼物用粘土の取り扱いについて振り返り、まとめる。	2時間
3	粗練りと菊練りの練り方	前時に指定した資料の項目を読む。	2時間	粗練りと菊練りの注意事項をまとめる。	2時間
4	土鈴の制作	土鈴のデザインを考える。	2時間	土鈴を作る時の注意事項をまとめる。	2時間
5	玉づくりの制作方法と制作	玉づくりの器のデザインを考える。	2時間	玉づくりで器を作る時の注意事項をまとめる。	2時間
6	玉づくりの底削り方法	底削りに該当する資料の項目を読む。	2時間	底削りの注意事項をまとめる。	2時間
7	板づくりの制作方法と制作	板づくりの器のデザインを考える。	2時間	たたら板を使用する板づくりの注意事項をまとめる。	2時間
8	板づくりの制作	板づくりに該当する資料の項目を読む。	2時間	板づくりのパーツの組み立ての注意事項をまとめる。	2時間

	9	板づくりの底削り方法	板づくりの底削りに該当する資料の項目を読む。	2時間	板づくりならではの底削りの注意事項をまとめる。	2時間
	10	ひもづくりの制作方法と制作	ひもづくりの器のデザインを考える。	2時間	ひもづくりで器を作る時の注意事項をまとめる。	2時間
	11	ひもづくりの制作（1）成形	ひもづくりに該当する資料の項目を読む。	2時間	自らのデザインに近づけるための注意事項をまとめる。	2時間
	12	ひもづくりの制作（2）仕上げ	自らのデザインを形にするための制作方法を考える。	2時間	大きな器を作る時の注意事項をまとめる。	2時間
	13	ひもづくりの底削りの方法	ひもづくりの底削りに該当する資料の項目を読む。	2時間	ひもづくりならではの底削りの注意事項をまとめる。	2時間
	14	施釉	釉薬を掛けて仕上げた状態の器のデザインを考える。	2時間	釉薬を掛ける時の注意事項をまとめる。	2時間
	15	鑑賞・評価	焼成の方法に該当する資料の項目を読む。	2時間	陶芸の作業を振り返り、注意事項をまとめる。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	概要及び木工について	資料の木工編を読む。	2時間	概要と木工についての説明を振り返り、まとめる。	2時間
	17	鍋敷き作品のデザインを決定	鍋敷きのデザインを考える。	2時間	木材の製材方法とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。	2時間
	18	ペーパーナイフのデザインを決定	ペーパーナイフのデザインを考える。	2時間	木の種類とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。	2時間
	19	糸のこ盤の使用方法	糸のこ盤の使用方法に該当する資料の項目を読む。	2時間	糸のこ盤の使用にあたっての注意事項をまとめる。	2時間
	20	切削手順と方法	自らのデザインを形にするための切削方法を考える。	2時間	切削の方法と手順についての注意事項をまとめる。	2時間
	21	彫刻刀による切削方法	彫刻刀の使用に該当する資料の項目を読む。	2時間	彫刻刀の種類と使用に関する注意事項をまとめる。	2時間
	22	鍋敷きの切削（1）荒彫り	浮き彫り（レリーフ）をイメージしてデザインを考える。	2時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2時間
	23	鍋敷きの切削（2）中彫り	荒彫りから仕上げ彫りに該当する資料の項目を読む。	2時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2時間
	24	鍋敷きの切削（3）仕上げ彫り	立体的なデザインを考え、本時の作業の進行方法を考える。	2時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2時間
	25	ペーパーナイフの切削（荒・中彫り）	ペーパーナイフを立体的にイメージして本時の作業を考える。	2時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2時間
	26	ペーパーナイフの切削（仕上げ彫り）	作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。	2時間	彫刻刀の切削作業全般を振り返り、注意事項をまとめる。	2時間
	27	サンドペーパーによる研き作業	作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。	2時間	サンドペーパーの使用に関する注意事項をまとめる。	2時間

	28	絵の具による着色	色付けのデザインを考える。	2時間	絵の具の適性と長所･短所をまとめる。	2時間
	29	仕上げ(水性ウレタン･ワックス)	水性ウレタン・ワックスに該当する資料の項目を読む。	2時間	水性ウレタン・ワックスの注意事項をまとめる。	2時間
	30	鑑賞・評価	工芸の授業全般を振り返り、疑問点･質問事項をまとめる。	2時間	工芸の授業全般の注意事項をまとめて、定期試験に備える。	2時間

成　績　評　価	レポート（知識・理解・判断力）（10%） 作品（関心・意欲・態度・技能・発想・表現力）（90%）
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	作品の評価・改善方法及びレポートについては授業の中で随時指導する。
テキストおよび 参　考　文　献	「工芸」山口短期大学 小学校学習指導要領　第７節　図画工作
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	毎回の授業への取り組みとやる気が作品の良し悪しに関わってきます。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が十分に身についている。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が概ね身についている。	粘土と木の素材の特性を概ね理解し、技法及び道具の使用方法は理解している。	粘土と木の素材の特性を理解できず、技法及び道具の使用方法も理解していない。	レポート (知識･理解･判断力)	10%
(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。	課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができている。	課題の内容を概ね理解し、自分なりのデザインを考案することができている。	課題の内容を概ね理解し、一般的なデザインであれば考案することができる。	課題の内容を理解できず、一般的なデザインを考案することができてない。	作品 (関心･意欲･態度･発想･表現力)	45%
(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図を反映した作品を創造することができる	素材の違いを理解し、自らの制作意図のとおりの作品を創造することができている。	素材の違いを理解し、自らの制作意図のとおりの作品を概ね制作することができている。	素材の違いを概ね理解し、自らの制作意図に近い作品を制作することができている。	素材の違いを理解できず、作品を制作することができていない。	作品 (関心･意欲･態度･技能･表現力)	45%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
体育Ⅰ Physical Education　Ⅰ	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2013	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	田中 邦明	○

実務家教員の詳細	中学校保健・体育科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	

概　要	
	小学校免許修得にふさわしい力を身に付けることを主眼に授業を行う。主に、小学校の体育科教育において学習指導要領に示されている学習内容の指導ができるということが中心である。 子どもの教育に責任をもつためにふさわしい資質能力を身に付けることができるように授業を進めていく。そのために、「体育の見方・考え方」、「運動の系統的指導」、「豊かなスポーツライフの実現」という言葉をキーワードにして行う。

到達目標	
	(1) 全学年に渡ってできるだけ多くの運動領域の内容を経験し、基本的な知識及び技能を習得する。
	(2) 運動種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、段階的な指導方法を習得する。
	(3) 指導案の作成に慣れ、指導案に基づいて実際に模擬授業を行うことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　ー前期授業の概要と見通しについてー学習指導要領をどう捉えるか	―	―	学習指導要領解説資料を読み返す	2時間
2	低学年：体つくりの運動遊び1	「あそび・ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂの資料」を読んでおく	2時間	運動遊びのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを振り返る	2時間
3	低学年：体つくりの運動遊び2	縄跳びの練習	2時間	縄跳びの練習	2時間
4	中学年：体つくり運動と折り返しリレー	学習指導案「体つくり運動と折り返しリレー」に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
5	中学年：マット・跳び箱運動Ⅰ	学習指導案「マット・跳び箱運動Ⅰ」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
6	中学年：マット・跳び箱運動Ⅱ	習指導案「マット・跳び箱運動Ⅱ」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
7	中学年：マット・跳び箱運動Ⅲ	習指導案「マット・跳び箱運動Ⅲ」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
8	全学年：水遊びと水泳学習 (資料研究)	水泳指導資料に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間

	9	中学年：マット・跳び箱運動 まとめ	学習指導案に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	10	低学年：パスパスゲーム　作戦の立て方	学習指導案「パスパスゲーム」に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	11	ワークショップ：体育科指導案の作り方	指導案作り資料を読んでおく	2時間	指導案の作成	2時間
	12	演習：指導案の推敲と準備	指導案作成	2時間	指導案の推敲	2時間
	13	演習：模擬授業Aと振り返り	指導案作成	2時間	指導案の推敲	2時間
	14	演習：模擬授業Bと振り返り	指導案作成	2時間	授業の振り返り	2時間
	15	前期授業のまとめ レポート作成	ﾚﾎﾟｰﾄへの対応資料を読んでおく	2時間	ﾚﾎﾟｰﾄの振り返り	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	オリエンテーション－後期授業の概要と見通しについて－ 中学年：表現運動「忍者」 イメージつくり	―	―	忍者の動きのｲﾒｰｼﾞを描いてくる	2時間
	17	中学年：表現運動「忍者」 動きつくり、動きの構成	学習指導案「忍者」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
	18	中学年：表現運動「忍者」 動きの完成	忍者の動きを考えておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	19	中学年：鉄棒運動Ⅰ	学習指導案「鉄棒運動Ⅰ」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
	20	中学年：体つくり運動	学習指導案「体つくり運動」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
	21	中学年：宝集め鬼ごっこと 鉄棒運動Ⅱ（連続技）	学習指導案「宝集め鬼ごっこ」に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	22	低学年：ドッジボール (工夫したゲームを考える)	教材開発と授業の創造を考えておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	23	高学年：ソフトバレーボール	学習指導案「ソフトバレーボール」を読む	2時間	授業の振り返り	2時間
	24	低学年：ならびっ子ゲーム	学習指導案「ならびっ子ゲーム」に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	25	高学年：バスケットボール	学習指導案「バスケットボール」に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	26	高学年：バスケットボール	学習指導案バスケットボールに目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	27	中学年：持久走と キックベースボール	学習指導案「持久走とキックベースボール」に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	28	中学年：ポートボール	ﾙｰﾙと学習指導案に目を通しておく	2時間	授業の振り返り	2時間
	29	高学年：陸上運動「ﾊｰﾄﾞﾙ走」と 「走り高跳び」	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	30	高学年：陸上運動「リレー」 ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄへの対応	試験勉強	2時間	試験勉強	2時間
成　績　評　価		課題レポート（20%）、授業への出席率及び取組態度（40%）、演習：模擬授業（30%）、ペーパーテスト（10%）				

課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートはコメントをつけて返却 ペーパーテストの内容は、授業の中で重点的に取り上げ指導
テキストおよび参考文献	小学校学習指導要領　第９節　体育 授業時に次時の予告資料を含め、随時資料を配布
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 全学年に渡ってできるだけ多くの運動領域の内容を経験し、基本的な動作を習得する。	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	授業への取組（関心・意欲・理解・技能・表現力）	20%
	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	発表（関心・意欲・理解・技能・表現力）	10%
(2) 運動種目に応じた段階的指導のあり方を理解し、指導方法を習得する。	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	授業への取組（関心・意欲・理解・技能・思考力）	20%
	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	課題レポート（知識・理解・判断力・創造性・協働性）	30%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく表現できる。	最低限のことは表現できる。	ほとんど表現できない。	グループワーク（理解・知識・思考力・表現力・協働性）	10%
(3) 指導案の作成に慣れ、指導案に基づいて（模擬）授業を行うことができる。	ほぼ完璧に行うことができる。	大きな間違いがなく行うことができる。	最低限のことは行うことができる。	ほとんど行うことができない。	授業への取組（知識・理解・判断力・創造性・協働性）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
体育Ⅱ Physical Education Ⅱ	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2014	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	大本 学司	○

実務家教員の詳細	中学校保健･体育科教員としての実務経験を生し､到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ･ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	「体育科」において、目標や内容とともに子どもの実態に合わせた教材選択が大切である。本授業では、様々な教材を選択することや運動やスポーツの文化的視野を広げることを目標にする。主な内容は、フライングディスクを教材とした運動やスポーツの体験、体づくり運動や陸上運動などにおける教具づくりとする。また、保健の授業や障碍者スポーツについても実践報告を通して授業づくりをする上での着眼点を学ぶ。

到達目標	
	(1) フライングディスクを使用した運動・スポーツの教材価値を理解し、実践できる。
	(2) 体育科の運動理解や意欲につながる教具づくりができ、改善点や工夫点を述べることができる。
	(3) 保健の授業の１つの指導案が作成でき、提案・検討できる。
	(4) 障害者スポーツの実践報告から、障害者にとってのスポーツの意義を理解し、大切を説明できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －授業の概要について－	―	―	授業の振り返りと今後の見通し	2時間
2	フライングディスクを使った運動・スポーツの歴史と実践（ディスタンス・TRC）	フライングディスクの資料を読んでおく	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
3	アルティメットのルールと実践	アルティメットの資料を読む	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
4	アルティメットの実践（攻めと守り）と教材価値	前時を振り返り資料を読む	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
5	教材の選択と教具づくりの計画	教材教具の資料を読んでおく	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
6	材料あつめと教具製作	材料を収集し、事前資料を読んでおく	2時間	授業の要点をまとめる	2時間

	7	教具を使用した活動の計画	教具の活用の資料を読んでおく	2時間	計画の完成と実践の練習	2時間
	8	教具を使った実践①②	実践計画の資料を読んでおく	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
	9	教具を使った実践③④	実践計画の資料を読んでおく	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
	10	障害者スポーツついて（大本の実践報告書から学ぶ）①	障碍者スポーツの資料を読む	2時間	授業の要点をまとめる	2時間
	11	障害者スポーツついて（大本の実践報告書から学ぶ）②	障碍者スポーツの資料を読む	2時間	授業づくりの構想をする	2時間
	12	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から授業案の作成①	保健の授業づくりの資料を読む	2時間	授業づくりの計画を見直す	2時間
	13	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から授業案を作成②	保健の授業づくりの資料を読む	2時間	授業づくりの計画を見直す	2時間
	14	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から発表①	保健の授業づくりの資料を読む	2時間	課題レポート	2時間
	15	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から発表②	保健の授業づくりの資料を読む	2時間	課題レポート	2時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、教材作成（15%）、指導案（15%）グループワーク・グループ討議（30%）、 課題・レポート（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用します。
テキストおよび参　考　文　献	小学校学習指導要領　第９節　体育 資料は随時配布
メ　ッ　セ　ー　ジ　など	学びたいことを出し合って、教具づくりや提案、検討会が協力しながらできるように取り組みましょう

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)フライングディスクを使用した運動・スポーツの教材価値を理解し、実践できる。	教材価値を理解し、数多く実践できる	大きな間違いがなく理解でき、実践できる	最低限のことは説明でき、実践できる	教材価値を理解できず、実践できない	授業への取り組み（関心・意欲、技能、・協同性）	30%
(2)体育科の運動理解や意欲につながる教具づくりができ、改善点や工夫点を述べることができる。	教具づくりができ、数多く改善や工夫点を述べることができる	教具づくりがある程度でき、改善や工夫点を述べることができる	最低限度の教具づくりができる	教具づくりができない	教材作成（理解・思考力・創造力）	15%
	教具づくりができ、数多く改善や工夫点を述べることができる	教具づくりがある程度でき、改善や工夫点を述べることができる	最低限度の教具づくりができる	教具づくりができない	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 保健の授業の１つの指導案が作成でき、提案・検討できる。	指導案の作成と提案・検討ができる	大きな間違いがなく指導案の作成と提案・検討ができる	最低限の指導案の作成と提案・検討ができる	指導案の作成ができず、検討できない	指導案（知識・理解・思考力、創造性）	15%
	指導案の作成と提案・検討ができる	大きな間違いがなく指導案の作成と提案・検討ができる	最低限の指導案の作成と提案・検討ができる	指導案の作成ができず、検討できない	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	15%
(4) 障害者スポーツ実践報告から学び、教具の意味を理解し工夫点が説明できる。	教具の意味を理解し、多くの工夫点が説明できる	大きな間違いがなく、教具の意味を理解し、工夫点が説明できる	最低限度の教具の意味を理解し、工夫点が説明できる	説明できない	課題・レポート（知識・理解・思考力）	20%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
リズム運動 Rhythmical Movement		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1015	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	1	必修	田村　千代子		

ディプロマポリシーとの関係	(1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。	○
	(2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。	○
	(3) 子ども理解に深い関心をもち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。	○
	(4) 様々な教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけていること。	○
概　　要	新学習指導要領の内容を踏まえ、各学年の運動発達段階に応じた表現運動の指導について理解する。なかでも世界のフォークダンスを中心に、曲調を捉え特徴的な踊りを学びながらそれぞれの国の文化を理解する。また、表現の楽しさを追求するとともに、ペア学習、グループ学習などの学習方法やその有効性を学びながら、基本的な指導法を修得する。	
到達目標	(1) 歴史や文化・風習を理解しながら、世界のフォークダンスを踊り、基本動作を習得する。	
	(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解し、構成できる。	
	(3) 模擬授業を通して、表現運動の基本的な指導法について、学習者、指導者の立場から意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学習指導要領におけるフォークダンスの位置づけ	―	2 時間	学習指導要領のダンスの領域を読む	2 時間
2	学校フォークダンスを踊る。（低学年 1）	資料（低学年１）を読みステップを練習する。	2 時間	ジェンカ・春駒の練習	2 時間
3	学校フォークダンスを踊る。（低学年 2）	資料（低学年２）を読みステップを練習する。	2 時間	キンダーポルカの練習	2 時間
4	学校フォークダンスを踊る。（低学年 3）	資料（低学年３）を読みステップを練習する。	2 時間	タタロチカの練習	2 時間
5	学校フォークダンスを踊る。（高学年 1）	資料（高学年１）を読みステップを練習する。	2 時間	マイム・マイムの練習	2 時間
6	学校フォークダンスを踊る。（高学年 2）	資料（高学年２）を読みステップを練習する。	2 時間	コロブチカの練習	2 時間
7	学校フォークダンスを踊る。（高学年 3）	資料（高年３）を読みステップを練習する。	2 時間	ダフタフス・スコールの練習	2 時間
8	指導案づくり (1)	指導案の作成方法	2 時間	指導案の校正	2 時間
9	指導案づくり (2)	指導案の作成と練習	2 時間	指導案の確認	2 時間

	10	模擬授業	欧州国の風土・風習や歴史を調べる。	2 時間	授業の反省	2 時間
	11	世界のフォークダンスを踊る。（一人踊り）	資料を読み踊り方を確認する。	2 時間	踊りの特徴をまとめる。	2 時間
	12	世界のフォークダンスを踊る。（パートナーと一緒に）	資料を読み踊り方を確認する。	2 時間	踊りの特徴をまとめる。	2 時間
	13	世界のフォークダンスを踊る。（セットを組んで）	資料を読み踊り方を確認する。	2 時間	踊りの特徴をまとめる。	2 時間
	14	発表会の計画	役割やプログラムの決定をする。	2 時間	役割の確認と準備物の用意をする。	2 時間
	15	フォークダンスの発表会をする。	学習してきた世界各国の踊りを練習する。	2 時間	授業のまとめをレポートに書く。	2 時間
成　績　評　価		授業での取り組み 40%、模擬授業 30%、グループワーク・グループ討議 20%、課題・レポート 10%				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業中に踊りについての良い点、改善点を伝えていく。踊りの発表と模擬授業では、学生同士が互いに評価しフィードバックする。また教員からも同様に行う。課題レポートは授業外で返却する。				
テキストおよび参　考　文　献		小学校学習指導要領 学習指導要領　体育編 フォークダンス・スクール　フォークダンス科　テキスト　公益社団法人　日本フォークダンス連盟 授業時に随時配布資料				
メ　ッ　セ　ー　ジ　など		小学校の現場で自信を持ってフォークダンスの指導が出来るようになりましょう。また、踊りが生まれた地域の風土や歴史を学び、独特の踊り方を仲間と一緒に楽しみましょう。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)歴史や文化・風習を理解しながら世界のフォークダンスを踊り、基本動作を習得する。	歴史や文化について理解し、基本動作を習得し、自分なりに表現し踊ることができる。	ほぼ基本動作を習得し、前に出て踊ることができる。	多少の間違いはあるが、基本動作を覚え、踊ることができる。	部分的には踊れるが、全体を通して踊ることができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	40%
(2) 個人練習からグループ練習、そして発表会までの授業づくりの流れを理解し、構成できる。	クラス全体での発表会の構想がイメージでき、提案できる。	ペア学習、グループ学習の取り組み方がわかり、良い視点で踊りを評価できる。	ペア学習の取り組みがわかり、自分や他者の良い点を評価することができる。	個人練習はできるが、ペア以上の取り組みができない。自分や他者の良い点を見つけることができない。	グループワーク・グループ討議(意欲・思考力・創造性)	20%
(3) 模擬授業を行うことを通して、表現運動の基本的な指導法について学習者、指導者の立場から意見を述べることができる。	動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。	指導者の向きや位置がわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	部分的な踊りの指導案を計画することができ、大まかに指導することができる。	指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。	模擬授業（知識・理解・思考力・判断力 表現力・協同性 創造力）	30%
	動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。	指導者の向きや位置がわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	部分的な踊りの指導案を計画することができ、大まかに指導することができる。	指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。	課題・レポート（知識・理解・問題解決力）	10%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
家庭 Home Economics		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1016	1年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
演習	2	選択	三時 貴久子		○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　要	小学校学習指導要領の「家庭」の目標および内容を理解する。教育実践に必要な知識と技術を習得する。全領域の教材を扱い、指導案の作成を練習し、模擬授業を体験する。模擬授業への検討・反省を通して教育実践への力を培いたい。	
到達目標	(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。	
	(2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	
	(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「家庭」の目指すもの	指導要領解説（以下解説）5～10P 家庭の趣旨・要点を読む	2時間	家庭科の目指すものについてまとめる	2時間
2	家庭科の目標・内容	解説 12～19P 家庭の目標内容を読む	2時間	家庭の目標と内容をまとめる。	2時間
3	指導計画の作成・内容の取扱い	解説 71～81P 指導計画の作成・内容を読む	2時間	指導計画の作成上の配慮事項や内容の取扱いと配慮事項をまとめる	2時間
4	「家庭・家庭生活」の内容	解説 20～31P「家庭・家族生活」を読む	2時間	家庭・家庭生活の内容構成ををまとめる	2時間
5	「家族・家庭生活」の指導	教科書「家族・家庭生活」の該当ページを読む	2時間	家庭・家庭生活に関わる指導上の配慮事項をまとめる	2時間
6	食事の役割と調理の基礎	解説 34～43P「食生活」を読む	2時間	食事の役割と調理の基礎に関する内容をまとめる	2時間

	7	「食領域」の教材を使った調理実習① ・調理器具の取扱いとゆで方	児童用教科書の該当ページを読み、安全上の留意点をまとめる	2 時間	実習で学んだ指導上の留意点をまとめる	2 時間
	8	「食領域」の教材を使った調理実習② ・ゆで野菜	児童用教科書の「調理実習」のページを読む	2 時間	素材によるゆで方・出来上がりの違いをまとめる	2 時間
	9	「食領域」の教材を使った調理実習③ ・ごはんとみそ汁	児童用教科書の該当ページを読んで指導上の留意点をまとめる	2 時間	実習で学んだ指導上の留意点をまとめる	2 時間
	10	栄養を考えた食事	「食育」について解説 43～48P を読む	2 時間	栄養の種類や働きについてまとめる	2 時間
	11	「消費生活・環境」の構成	「消費生活・環境」について解説 64～70P を読む	2 時間	消費生活・環境の内容や構成についてまとめる	2 時間
	12	「物や金銭の使い方と買い物」の指導	「家庭での買い物」に関する児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	買い物の仕組みや身近な買い物の買い方についてまとめる	2 時間
	13	「環境に配慮した生活」の指導	「環境と生活」について児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	環境に配慮した生活の実践化についてまとめる	2 時間
	14	家族・家庭生活についての課題の設定	解説 29～31P を読み、課題の設定例を考える	2 時間	家族・家庭生活の課題設定の指導方法についてまとめる	2 時間
	15	「家庭」と他教科との関連	解説 76～77P と児童用教科書の関連ページを読む	2 時間	「家庭」と他教科の関連についてまとめる	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	「衣料域」の構成	解説 49～57P「衣生活」を読む	2 時間	「衣生活」の指導内容についてまとめる	2 時間
	17	「衣料域」の実技演習①	児童用教科書の該当ページを読んで安全上の留意点をまとめる	2 時間	安全上の留意点を再度まとめる	2 時間
	18	「衣領域」の実技演習② 手縫いの基礎	「衣領域」について児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	授業で学んだ実践内容を再度実践する	2 時間
	19	「布を用いた製作」材料と手順	「布を用いた製作」の児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	材料と手順を分かりやすくまとめる	2 時間
	20	「布を用いた製作」ミシンの基礎	児童用教科書の該当ページを読み、ミシン操作の手順を予習する	2 時間	ミシン操作の手順をまとめる	2 時間
	21	「布を用いた製作」袋の製作①	児童用教科書の該当ページを読み、製作上の留意点をまとめておく	2 時間	製作上で学んだ留意点や安全上の留意点をまとめる	2 時間

	22	「布を用いた製作」袋の製作②	児童用教科の該当ページを読み、作品完成までの手順をまとめる	2 時間	製作上で学んだ留意点や安全上の留意点をまとめる	2 時間
	23	「住領域」の構成と内容	解説 58～63P「住生活」を読む	2 時間	住生活に関わる指導事項をまとめる	2 時間
	24	「快適な住まい方」の指導	「快適な住まい方」の児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	実践上の配慮事項についてまとめる	2 時間
	25	「食領域」の教材を使った調理実習④ いためる調理	「いためる調理」の児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	炒める調理の長所や安全上の留意点をまとめる	2 時間
	26	「食領域」の教材を使った調理実習⑤ じゃがいも料理	「じゃがいも料理」の児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	茹でると炒めるの違いをまとめる	2 時間
	27	指導案の作成の手順と演習	配付資料を読む	2 時間	模擬授業の準備をする	2 時間
	28	模擬授業の実践と改善点の討議	共通課題の指導案を作成する	2 時間	模擬授業で学んだことと改善点をまとめる	2 時間
	29	模擬授業の実践と改善点の討議	共通課題の指導案を作成する	2 時間	模擬授業で学んだことと改善点をまとめる	2 時間
	30	「食領域」と家族のだんらん	「食領域と家族のだんらん」の児童用教科書の該当ページを読む	2 時間	家庭科授業の意義と重要性をまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（４０%）、課題・レポート（10%）、作品（35%）、指導案（１０%）、授業への取り組み（５%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	評価できる点や改善点を、口頭又は文書で指導する。
テキストおよび参　考　文　献	小学校家庭科教科書・「小学校学習指導要領解説　家庭編」文部科学省 適宜、プリントを配布する。
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	小学校家庭科は、誰の実生活にも役立つ基本を学びます。 小学校教諭二種免許：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を説明できる。	内容・指導上の留意点をほぼ完璧に説明できる。	内容・指導上の留意点を大きな間違いなく、説明できる。	内容・指導上の留意点を最低限説明できる。	内容・指導上の留意点を説明できない。	定期試験（知識・理解）	20%
	内容・指導上の留意点をほぼ完璧に説明できる。	内容・指導上の留意点を大きな間違いなく、説明できる。	内容・指導上の留意点を最低限説明できる。	内容・指導上の留意点を説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	10%
(2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	基礎的な知識・技能を十分身に付けている。	基礎的な知識・技能を身に付けている。	基礎的な知識・技能は最低限身に付けている。	基礎的な知識・技能を十分身に付けていない。	定期試験（知識・理解）	20%
	実習に積極的に参加し、基礎的な知識・技能を生かした作品を製作できる。	基礎的な知識・技能を使った作品を製作できる。	基礎的な知識・技能は身に付けているが、作品製作には個別指導が必要である。	基礎的な知識・技能を十分身に付けておらず作品製作ができない。	作品（関心・意欲・態度・技能・作品の完成度）	35%
(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。	家庭科の特性を生かした模擬授業の指導案を書くことができる。	模擬授業の指導案を書くことができる。	他者のアドバイスをもらえれば模擬授業の指導案を書くことができる。	模擬授業の指導案を書くことができない。	指導案（思考力・表現力・問題解決力）	10%
	模擬授業を行い、授業後の協議で改善点を提案できる。	模擬授業を行い、授業後の協議に参加できる。	模擬授業を行い授業後の協議への参加意欲が不足している。	模擬授業を行うことができない。	授業への取り組み（思考力・表現力・問題解決力）	5%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
外国語 Foreign Language（English）		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1017	1年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
演習	2	選択	熊　谷　　仁		○

実務家教員の詳細	中学校英語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。	
	(1)-2) 授業実践に必要な話す力［やり取り・発表］を身に付けている。	
	(1)-3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。	
	(1)-4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。	
	(2)-1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。	
	(2)-2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。	
	(2)-3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。	
	(2)-4) 異文化理解に関する事柄について理解している。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	オリエンテーション、シラバスを参照し、評価方法などを確認する。小学校における外国語活動・外国語科とはどのような内容か。外国語教育教科化の経緯と目的・理念など、これまでの歴史的背景も含めて学ぶ。	“Let’s Try! 1” Unit1 Hello!を読んでくる。	2時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2時間
	2	授業実践に必要な、聞く、話す、読む、書く力とはどのようなものなのか。またどのように身につけるのか、今後の授業展開と見比べながら知る。	“Let’s Try! 1” Unit 2 How are you?を読んでくる。	2時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2時間
	3	英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法）の基本を知る。また、今後の授業内容と照らし合わせながら、どの内容がどの学習内容に対応するのかの説明を聞き本講義を通じて基本的な事柄をどのように身につけるかイメージできるようになる。	“Let’s Try! 1” Unit3 How many? を読んでくる。	2時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2時間

	4	第二言語習得理論に触れながら、第二言語の発達を学び、コミュニケーション（やりとりによる学習）の大切さを知る。	“Let’s Try! 1” Unit4 I like blue を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	5	教材研究① Let’s Try! 1 大文字の指導、文字の名称を正しく発音できるようになる。文字には音があることを知る（フォニックス）。	“Let’s Try! 1” Unit6 ALPHABET を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	6	小学校における外国語指導助手とのティーム・ティーチングについて理解する。クラスルームイングリッシュを知る。	“Let’s Try! 2” Unit1 Hello, world! を読んでくる	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	7	外国語の授業で活用できる指導方法と指導技術について学ぶ。児童の発達段階と学習段階に合った望ましい指導について考える。	“Let’s Try! 2” Unit3 I like Mondays.を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	8	英語の歌・チャンツの必要性とその指導について学ぶ。授業でどのような活動ができるか考える。	“Let’s Try! 2” Unit4 What time is it?を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	9	教材や教具の選定・活用法を学ぶ。小学校のクラスサイズ、また児童の発達段階を踏まえた教材や教具を考える。 教材研究② Let’s Try! 2 既習事項や学習時期を考慮してどのような指導ができるか考える。	“Let’s Try! 2” Unit5 Do you have a pen?を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	10	英語の絵本を使った指導とその目的を学ぶ。異文化の指導と理解について知る。	絵本を探して内容を研究、授業に持参する。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	11	学習指導案の構成と作成について学び、模擬授業の準備をする。	Let’s Try! 1 のうち授業で取り上げていない Unit に目を通してくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。模擬授業準備。	2 時間
	12	外国語活動模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	2 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	2 時間
	13	外国語活動模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	2 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	2 時間
	14	外国語活動模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	2 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	2 時間
	15	外国語活動模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。 学期の総復習。	模擬授業準備	2 時間	文法や表現を復習する。模擬授業と学期で学んだことのふり返り。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	既習事項のふり返りとシラバス・評価方法・授業の進め方などを再確認する。 小・中・高の外国語教育における小学校英語の役割について考える。	Here We Go! 6 Let’s Start 1 を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	17	発達心理学と学習者要因について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 1・This is me. を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	18	シラバスとテキストの構成と内容について学ぶ。他国のテキストを知る。	Here We Go! 6 Unit 2・Welcome to Tapan.を読む。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間

	19	指導目標、年間指導計画の立て方を具体例を参照するなどして学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 3・What time do you get up? を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	20	４技能習得の指導について学ぶ。文字指導について知る。	Here We Go! 6 Unit 4・My summer vacation,を読む。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	21	児童の学齢に合った望ましい活動について知る。条件や改善点、コミュニケーション・自己表現活動について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 5・We live to gather,を読む。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	22	アクティブ・ラーニングと協働学習、学級担任による単独授業やティーム・ティーチングにおける留意点について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 6/・ want to go to Italy,を読む。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	23	評価のあり方、進め方について学ぶ。様々な評価方法について知る。	Here We Go! 6 Unit 7・My Dream を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	24	授業づくりを学ぶ。事前準備、授業中、ふり返りに必要なこと、また教材研究、ALT や特別非常勤講師等の外部講師との打ち合わせの留意点を知る。	Here We Go! 6 Unit 8・My Best Memory,を読む。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	25	外国語の授業に適した歌・チャンツ・ゲーム、絵本指導を考える。	Here We Go! 6 Unit 9・を読んでくる。	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	2 時間
	26	外国語の模擬授業で使用する Unit を決め、各自で準備する	Here We Go 6 全体の内容を確認してくる	2 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。模擬授業の準備。	2 時間
	27	外国語模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	2 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	2 時間
	28	外国語模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	2 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	2 時間
	29	外国語模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	2 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	2 時間
	30	外国語模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。 学期・１年間の学習事項の総復習	模擬授業の準備。	2 時間	文法や表現を復習する。既習事項のふり返り。	2 時間

成績評価	小テスト(40%), 模擬授業 (30%), 指導案 (20%), 授業への取り組み (10%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	一人一人確認する。
テキストおよび参考文献	『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』開隆堂出版、Let's Try! 1, Let's Try! 2 （児童用）、Here We Go! 6（児童用）、『新編 小学校英語教育法入門（樋口忠彦他）』研究社 ISBN 978-4-327-41098-8
メッセージなど	外国語活動・外国語は、児童が学校で始めて英語に触れる大変重要な時間・時期です。みなさんが、言語の指導に留まらず、文化や積極性、価値観、など多くのことを伝える授業ができるようになるお手伝いをしたいと思っています。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
(1)-2) 授業実践に必要な話す力［やり取り・発表］を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業（技能・表現力）	10%
	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
(1)-3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、読む力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業（技能）	10%
(1)-4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、書く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業（技能）	10%
(2)-1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	指導案（知識・理解）	10%
(2)-2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	10%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	指導案（知識・理解）	10%
(2)-3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	5%
(2)-4) 異文化理解に関する事柄について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	テスト（知識・理解・技能）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別講義 Special Lecture	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPSL1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	中村 浩・加藤 浩久	○

実務家教員の詳細	中学校教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	本講義では、今の自分に何ができるかを問い、自分自身を多角的に分析し自己理解を深めることを目的とする。また、集団討論や小論文、面接を通して、将来の教育者としての基礎的な態度を養う。さらに、他者と対話することを通して、自己を表現する技術を身につけていく。	
到達目標	(1) 現在の教育課題について基礎的な知識を説明することができる	
	(2) 課題や他者との対話を通して、自分の意見を述べることができる	
	(3) 課題や他者との対話に対して、主体的に取り組むことができる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（中村）	―		本時の内容を振り返る。	2時間
2	情報収集、情報整理について（中村）	資料を読む。	2時間	時事問題を調べる。	2時間
3	教育に関する時事問題を紹介する（加藤）	発表資料を用意する。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
4	集団討論(1)　教育課題全般について①（加藤）	教育の現代的課題について調べる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
5	集団討論(2)　教育課題全般について②（加藤）	教育の現代的課題について調べる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
6	小論文(1)　書き方を知る（中村）	教育用語について調べる。	2時間	もう一度書く。	2時間
7	小論文(2)　試作する①（中村）	教育用語について調べる。	2時間	もう一度書く。	2時間
8	小論文(3)　試作する②（中村）	小論文のテーマを考えておく。	2時間	もう一度書く。	2時間
9	小論文(4)　試作する③（中村）	小論文のテーマを考えておく。	2時間	もう一度書く。	2時間
10	集団討論(3)　道徳・学級活動について（加藤）	学習指導要領の関連個所を読む。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
11	集団討論(4)　教採で出題されたテーマ（加藤）	過去問に取り組む。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
12	自己推薦書を書く(1)（加藤）	自分の良さについて考える。	2時間	もう一度書く。	2時間

	13	自己推薦書を書く(2)（加藤）	自分の短所の克服法を考えてくる。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
	14	講義・講師＝防府市教育委員会（中村）	資料を読む。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
	15	本授業を振り返って（加藤）	授業内容を振り返る。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
成績評価		課題・レポート（20%）、グループワーク・グループ討議（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（60%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		計画書や振り返りレポートは、コメントを書いて返却する。提出物には、コメントを書いて返却する。				
テキストおよび参考文献		プリントを配布する。				
メッセージなど		主体的に学ぶ学生を求めています。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育課題について基礎的な知識を説明することができる	テーマについて、具体例を挙げながら説明することができる。	テーマについて、基礎的な意味を間違いなく説明することができる。	テーマについて、基礎的な意味を何とか説明することができる。	テーマについて、説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解）	30%
(2) 課題や他者との対話を通して、自分の意見を述べることができる	自分の意見を十分に述べることができる。	自分の意見を概ね述べることができる。	自分の意見を何とか述べることができる。	自分の意見を述べることができない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%
	相手の意見を受け止め、自分の意見を十分に述べることができる。	相手の意見を受け止め、自分の意見を概ね述べることができる。	相手の意見を受け止め、自分の意見を何とか述べることができる。	自分の意見を述べることができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力・協働性）	20%
(3) 課題や他者との対話に対して、主体的に取り組むことができる	主体的に取り組むことができる。	概ね主体的に取り組むことができる。	最低限、課題に主体的に取り組むことができる。	主体的に取り組むことができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	30%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
卒業研究 Graduation Research		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPGR2001	２年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	2	必修	中村 浩・加藤 浩久		

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	子どもの教育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定する。調査した結果をまとめ、検討する。さらに、今後の課題を見つけ出す。その成果を卒業研究発表会で、展示もしくは舞台で発表する。最後に、報告集にまとめる。
到達目標	(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。
	(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。
	(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。
	(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。
授業内容と進め方	授業内容
	令和６年度は、下記のようなテーマで研究が行われた ①　若い先生向け―保護者の方々と良好な関係を築くために― ②　集団登下校の在り方 ③　安全教育について―大川小と池田小を題材に― ④　学校の統廃合―適正規模に注目して― 　研究室ごとに、個人が興味関心をもつ内容について研究を進めると共に、同じ研究室の仲間と意見交流をしながら質の向上に努めていく。発表は基本的にパワーポイントを使用した口頭発表を行う。

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（50%）、発表・プレゼンテーション（10%）、その他（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	研究活動の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや発表は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	必要に応じて自分自身で選択、購入すること
メッセージなど	２年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出の提出がない。	課題・レポート（知識・理解）	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていこうとする力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	授業への取り組み（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字があり、記述内容が不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。	報告集原稿提出なし。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代教師論 Teaching Modern Teachers	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を認識するとともに、その担い手としての教職の意義・役割・職務内容、教育をとりまく現況や今日的課題などを明確に理解することを通して、教員に求められる基礎的な資質能力を身に付け、教職をめざす者としての確固たる覚悟を培う。	
到達目標	(1)-1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。	
	(1)-2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。	
	(2)-1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。	
	(2)-2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。	
	(3)-1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。	
	(3)-2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。	
	(3)-3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション ―現代教師論でなにを学ぶか―	シラバスを通して、現代教師論での学びのイメージを持つ。	2時間	授業を受けて自分なりの教師論について考える	2時間
2	教員の身分① ―法的な身分、資格、免許状・免許更新制―	法的な身分等についてテキストを読む	2時間	法令問題等のプリントで復習する。	2時間
3	目指す教師像① ―子どもたちにどう向き合うか―	子どもとの向き合う例話についてテキストを読む。	2時間	子どもに向き合うために自分に足りないものは何かまとめる。	2時間
4	目指す教師像② ―演習「わたしの出会った先生」―	テキスト 18 ページ「好きだった先生嫌いだった先生」について考えをまとめてくる。	2時間	仲間の意見を振り返り自分の経験と比べる。	2時間

	5	目指す教師像③ ―求められる教師像・教師力―	採用試験を受ける県の「求める教師像」を調べる。	2時間	「求める教師像」に近づくための戦略を整理する。	2時間
	6	目指す教師像④ ―教師観の確立のために―	教師像に関する例話についてテキスト165～180 ページまで読む。	2時間	どのような教師を目指すか、考えを整理する。	2時間
	7	教師の職務① ―勤務実態と教職の特殊性、教員の多忙―	「１日の教師の仕事」について想像し、メモしてくる。	2時間	教師の多忙感について考えをまとめる。	2時間
	8	教師の職務② ―「チーム学校」の一員・組織における役割―	「チーム学校」についてテキストを読む。	2時間	「チーム学校」について考えをまとめる。	2時間
	9	教育をとりまく現状と課題① ―不易の課題と流行の課題―	教育をとりまく問題について考え、メモしてくる。	2時間	教育をとりまく多くの問題について分類し整理する。	2時間
	10	教育をとりまく現状と課題② ―演習「課題に対応する力」１―	テキスト 185～218 ページにある教育課題を読む。	2時間	自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。	2時間
	11	教育をとりまく現状と課題③ ―演習「課題に対応する力」２―	自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。	2時間	課題への対応について、書物やインターネット等で調べる。	2時間
	12	教育をとりまく現状と課題④ ―演習「課題に対応する力」３―	よりよい発表ができるように準備する。	2時間	発表会を通して不足の部分や良さを整理する。	2時間
	13	教員の身分② ―教員の任免―	教員の任免についてテキスト91～105ページまで読む。	2時間	法令問題等のプリントで復習する。	2時間
	14	教員の身分③ ―研修・服務―	教員の研修・服務についてテキスト 91～105 ページを読む。	2時間	法令問題等のプリントで復習する。	2時間
	15	まとめ ―教師をめざして―	現代教師論を終えるにあたって、今思うことを書いてくる。	2時間	自己評価をもとに、今後の在り方について、考えをまとめる。	2時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、課題・レポート（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：『現代の教師論　　ミネルバ書房　佐久間亜紀・佐伯胖（編書）　』 資料プリントはその都度配布
メッセージなど	「教師とはなにか」という原点に立ち、教職を目指す上での皆さん自身の課題の解明を中心に、「主体的で、対話的な、深い学び」を通して、自分の中にめざす教師像を創りあげていってほしいと願っています。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2)-1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。	ほぼ完璧にイメージできる。	認識に大きな間違いがなく、具体的にイメージできる。	認識の間違いはいくつかあるが、イメージできる。	イメージができていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	10%
(3)-1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3)-2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。	ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(3)-3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる。	大きな間違いがなく、具体的に述べることができる。	間違いはいくつかあるが、具体的に述べることができる。	具体的に述べることができていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学校教育の制度と経営 School Education System and School Management	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE2002	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

実務家教員の詳細	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	・学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いをとおして、子ども達に豊かな成長を保障する場でもある。学校教育の制度と経営は教育実践と密接に関連しており、これを深めていくにはさまざまな学問への広い知識も求められる。それは日本国憲法や教育基本法、学校教育法など多数の法規や教育制度をとおして具体化されていくため、いわば教育の現場の基盤を担っている。そこで、現代の教育制度に関するさまざまな課題を取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などがどのように関わっているのかを理解することで、教員としての基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、教育実習で経験した現状をいかに改善するかというデザイン力を身につけることも目的としている。こうして、教育実践に興味があるみなさんと、教育実習をとおして実証的に取り組んできた体験をふり返りながら考察していく。また同時に、地域にとって学校がどのような役割を果たしていく期待に沿えるような、学校と地域との連携および学校安全への対応などに関わる事象から教育問題を視野に入れ講義をすすめる。

到達目標	
	(1) 教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。
	(2) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかプレゼンテーションをする。
	(3) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善が考察できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	現代社会の課題が学校に及ぼす影響	現在の教育に関する課題を調べる	2時間	現代社会が教育に求めていることについて考察する	2時間
2	子どもを取り巻く生活環境の変化とこれに応じた教育政策の動向	経済の発展と並行して考察する	2時間	生活環境の変化をまとめる	2時間
3	日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、海外の教育政策と照し合せる	学校施行規則第１条を確認する	2時間	学校制度の変遷をまとめる	2時間
4	教育行政と教育関連法規	教育関連法規を調べる	2時間	多様な児童生徒に対応している事象をまとめる	2時間
5	学校組織のマネジメント　ー学校評価ガイドラインを基にー	組織のマネジメントについて調べる	2時間	地域と学校の協働をまとめる	2時間

	6	学級経営の基本・学級経営のあり方と課題	情報の共有化を考察する	2時間	早期の対応手順をまとめる	2時間
	7	教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題 －よりよい学校経営を目指して－	地域住民参加のマネジメントを考察する	2時間	教育・保健・福祉の連携を理解する	2時間
	8	地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正	多職種協働を考察する	2時間	協働に至らない場合の検証	2時間
	9	地域学校協働活動とコミュニティ・スクール	他の教育機関との連携を学ぶ	2時間	出席日数について考察する	2時間
	10	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の理念・役割	補完する期間を確認する	2時間	学校長の権限を知る	2時間
	11	学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、 学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標	安全・安心・あったかな環境を整備する	2時間	危機管理能力の計測を学ぶ	2時間
	12	地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例	日常活動を見る	2時間	安全な経路の整備をする	2時間
	13	学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、 学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定	事象に対するマニュアル化を見る	2時間	危機管理に備えての安全確保をまとめる	2時間
	14	危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに	多業種連携コンサルテーションを学ぶ	2時間	平時の取り組みを理解する	2時間
	15	「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応	地域のだれもが主人公	2時間	学校はプラットホームを知る	2時間

成　績　評　価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	・履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題のフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。 ・Google Classroom を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
テキストおよび参　考　文　献	【テキスト】 参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】　記録ファイル
メッセージなど	学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いを通じて、子どもたちに豊かな成長を保障する場でもあるのです。ですから、教育実践としての教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返りながら、積極的に自分の意見を発表しながら考察していきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善案がプレゼンテーションできる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・知識・理解）	20%
(2)教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明でき	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	40%

を中心に知識を深める。			る。			
(3) 学校教育の営みから地域との共存を考察する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育原論 Principles of Education	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE1003	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	教育の基本的概念や教育の理念について学び、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解する。また、教育の歴史、思想や制度等を学び、これまでの教育及び学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解し、学校を取り巻く今日的な教育課題について自分の考えや意見を述べることができる教師としての資質・能力を養う。	
到達目標	(1)-1) 教育や教育原論とは何かを、パスカルの言葉等をもとに、説明できる。	
	(1)-2) 現代の学校・園制度の発生や教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	
	(2)-1) これまでの日本の教育の歴史や、現在の教育の基本的なスタンスについて、説明できる。	
	(2)-2) 学校・園経営、生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	
	(2)-3) 教育評価、社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育原論とは何か」が明確になる。	「教育は、何のためにあるのか」の資料を読む。	2時間	教育原論の概要について、内容をまとめる。	2時間
2	パスカルや孔子の言葉をもとに「教育とは何か」を考える。	「教育とは何か」の資料を読む。	2時間	カントや孔子の教育に関する考えについて、内容をまとめる。	2時間
3	古代から現代までの教育の歴史を「学校・園はどのようにしてできたのか」の視点で探ることで理解する。	教育の歴史(欧米)の資料を読む。	2時間	欧米の教育の歴史の概要について、内容をまとめる。	2時間
4	ソクラテスからデューイまで「教育の先人たち」の概要を学ぶことで、教育方法の歴史を理解する。	教育方法の歴史(欧米)の資料を読む。	2時間	教育方法の歴史(欧米)の概要について、内容をまとめる。	2時間
5	古代から現代の教育基本法に至る「日本の教育」の歴史の概要を学ぶことで、日本の教育の目的を理解する。	日本の教育の歴史の資料を読む。	2時間	日本の教育の歴史の概要をまとめる。	2時間
6	日本の学校教育・幼児教育の法的根拠を、演習問題を解くことで理解する。	学校教育と法規の資料を読む。	2時間	学校教育に関する諸法規についてまとめる。	2時間

	7	学校・園制度のあり方について、日本とドイツの違いから考察する。文部科学省と教育委員会、学校・園の関係を理解する。	学校制度と教育行政の資料を読む。	2時間	学校制度のあり方について、内容をまとめる。	2時間
	8	学校・園の責任者としての校長・園長の視点を通して、学校・園経営の仕組みや運営のあり方について理解する。	学校経営の資料を読む。	2時間	学校経営のしくみや学校運営について、内容をまとめる。	2時間
	9	学級担任になったつもりで「安心安全でいじめのない学級づくり」について、グループ学習で考えをまとめる。	学級経営の資料を読む。	2時間	いじめのない学級づくりについて考え、内容をまとめる。	2時間
	10	グループ学習での成果を発表し合うことで､担任としてもつべき｢学級経営の基本的な構えと手だて」について理解する。	子どもの学級力の育成の資料を読む。	2時間	学級経営の基本についてまとめる。	2時間
	11	生徒指導の原理と方法について生徒指導提要をもとに学び、「生徒指導とは何か｣について理解する。	生徒指導提要を読む。	2時間	生徒指導とは何かについてまとめる。	2時間
	12	学習指導や保育指導の原理と方法について具体的な授業例から学び、「授業とは何か」について理解する。	授業研究の資料を読む。	2時間	授業づくりの基本について、内容をまとめる。	2時間
	13	教育評価にまつわる基礎知識を学び、絶対評価と相対評価の考え方の違いやＰＤＣＡの意味について理解する。	教育評価の資料を読む。	2時間	教育評価の基本についてまとめる。	2時間
	14	教育の原点としての家庭教育のあり方について、具体的な事例をもとに考える。	家庭教育のあり方の資料を読む。	2時間	家庭教育のあり方について、自分のことにあてはめて考え、内容をまとめる。	2時間
	15	社会教育についての考え方の変遷について学び、生涯学習時代を生き抜く知恵について考える。	社会教育の資料を読む。	2時間	社会教育についての基本をまとめる。	2時間

成績評価	定期試験（49%)、授業への取り組み（51%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省）』東洋館出版、『幼稚園教育要領解説　（平成30年3月　文部科学省）』フレーベル館 『問いからはじめる教育学』有斐閣ストゥディア
メッセージなど	教育の根本的な理論について、その概要を学ぶ。授業 教育の未来について、考える楽しみを味わいながら、理解を深める授業 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育や教育原論とは何かを、パスカルの言葉等をもとに、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	7%
(1)-2) 現代の学校・園制度の発生や教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。スカルの	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-1) これまでの日本の教育の歴史や、現在の教育の基本的なスタンスについて、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-2) 学校・園経営、生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-3) 教育評価、社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育心理学 Educational　Psychology	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE1004	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	心理学の中でも教育分野に関連する内容を学ぶ。 学習・記憶・発達など教育に関連する基本的な内容を学習する。 学校内の様々事象・問題を心理学的視点から考える。
到達目標	(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。
	(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。
	(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育心理学とは何か概要を知る	―	―	教育心理学を学ぶ目的について整理する。	2時間
2	教育心理学の歴史を理解する	教育心理学の歴史の概要につい調べる。	2時間	教育心理学に大きな影響を与えた人物達を整理する。	2時間
3	学習理論について理解する	代表的な学習理論について調べる。	2時間	ワトソンの学習心理学の功罪についてまとめる。	2時間
4	動機づけの種類と重要性を理解する	動機づけに関係する身近な現象について調べる。	2時間	内発的/外発的動機づけの違いについてまとめる。	2時間
5	教育と発達（レディスネス）について理解する	発達の最近接領域について調べる。	2時間	発達の最近接領域の活用例をまとめる。	2時間
6	学習方法について学ぶ	学習方法の具体例について調べる。	2時間	効果的な学習方法についてまとめる。	2時間
7	記憶のメカニズムについて学ぶ	人間の記憶の種類について調べる。	2時間	長期記憶と短期記憶の違いについてまとめる。	2時間
8	教師・児童関係の重要性を理解する	自分自身の教師ー児童関係について振り返る。	2時間	望ましい教師ー児童関係についてまとめる。	2時間

	9	学童期の発達特徴と課題を学ぶ	学童期の子どもたちの発達課題を調べる。	2時間	学齢期の発達段階ごとの課題をまとめる。	2時間
	10	児童の評価方法を学ぶ	児童を的確に評価する方法について調べる。	2時間	各評価法のメリットデメリットについてまとめる。	2時間
	11	基本的な統計法を学び評価を実践する。	統計解析の種類について調べる。	2時間	興味を持った統計法の一つについてまとめる。	2時間
	12	教育現場でのカウンセリング的かかわりについて学ぶ	カウンセリング・マインドについて調べる。	2時間	傾聴について身近な人との間で練習する。	2時間
	13	学校で起こる様々な問題（不登校・いじめ）について学ぶ	いじめや不登校の統計資料を読む。	2時間	いじめを減らすための自分の考えをまとめる。	2時間
	14	学校で起こる様々な問題（非行・その他）について学ぶ	非行の定義や内容について調べる。	2時間	非行の子どもへの対応にういて	2時間
	15	特別な支援が必要な児童への対応を学ぶ	特別支援が必要な児童について調べる。	2時間	特別な支援について学校で行われる対応についてまとめる。	2時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等)に対するフィードバックの方法	毎時の感想は成績評価に一部加味しますので、積極的な記入をお願いします。 試験はルーブリック評価に基づき結果を示します。
テキストおよび参　考　文　献	参考図書：『小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省』東洋館出版・鎌原　雅彦ら(2016)　やさしい教育心理学【第4版】　有斐閣アルマ　中澤潤（2022）よくわかる教育心理学(第2判)　ミネルヴァ書房
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から眺め、把握する力を身につけ理解を深めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修，ピアヘルパー受験資格：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。	教育心理学の理論や基礎知識について十分に説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について概ね説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について最低限の説明ができる。	教育心理学の理論や基礎知識について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	20%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について十分に説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について概ね説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について最低限の説明ができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%

	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から十分に説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から概ね説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から最低限の説明ができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
児童心理学 Child Psychology		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE1005	２年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
講義	2	選択	田原　浩章		

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	児童期における児童の心身の発達、発達課題について学ぶ。発達の連続性、幼児期からの継続、青年期への移り変わりについて理解する。児童の子どもの心の、問題、関わりの基礎について学ぶ。
到達目標	(1)児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。
	(2)児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて学ぶ。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	児童心理学とは何かその特徴を理解する	ー	ー	児童心理学で学びたいことについてまとめる。	2時間
2	乳幼児期の発達を理解する	乳幼児期の心身の発達について復習する	2時間	乳幼児期の発達の特徴についてまとめる	2時間
3	児童の身体的発達について理解する	児童期の身体的発達の特徴を調べる	2時間	スキャモンの発達曲線について復習する	2時間
4	現代の児童の生活特徴を理解する	現代における児童の生活特徴を整理する	2時間	社会的背景と児童の生活との関連をまとめる	2時間
5	児童期の運動機能の発達を理解する	粗大運動と微細運動の違いについて調べる	2時間	児童期の運動発達の特徴についてまとめる	2時間
6	代表的な発達段階と児童期の位置づけを学ぶ	代表的な発達理論を調べる	2時間	代表的な発達理論についてまとめる	2時間
7	言語・思考の発達について学ぶ	ピアジェやヴィゴツキーの功績について調べる	2時間	ピアジェやヴィゴツキーの理論をまとめる。	2時間

	8	認知の特徴を理解する	児童期の認知発達について調べる	2時間	児童期の認知発達についてまとめる。	2時間
	9	自己・自我の発達を理解する	自己や自我とは何かについて調べる。	2時間	児童期の自我の発達の特徴をまとめる	2時間
	10	仲間関係と集団行動(遊びの発達)を学ぶ	児童期の仲間関係の思い出を記す。	2時間	児童期の仲間関係・遊びの特徴をまとめる。	2時間
	11	学校生活と児童の発達の関連を知る	児童期の学校生活の思い出を記す。	2時間	児童期に生じやすい学校生活の諸問題をまとめる。	2時間
	12	学年ごとの発達の違いを知る（低学年を中心に）	特に低学年の発達の特徴を調べる。	2時間	低学年の心身の発達の特徴をまとめる。	2時間
	13	学年ごとの発達の違いを知る（高学年を中心に）	特に高学年における発達の特徴を調べる。	2時間	高学年の心身の発達の特徴をまとめる。	2時間
	14	青年期への接続について学ぶ	思春期の心身の変化や特徴について調べる。	2時間	思春期・青年期までに達成すべき課題を整理する。	2時間
	15	児童を取り巻く環境の変化と子どもの変化について考える	現代の児童を取り巻く社会問題を挙げる。	2時間	児童を取り巻く社会問題を解決する方法を提案する。	2時間

成　績　評　価	定期試験（50%)、授業への取り組み（50%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	課題はコメントを書いて返却する。 定期試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。
テキストおよび 参　考　文　献	プリントを配布する。 購入図書は第１回オリエンテーションにてお伝えします。＊ピアヘルパーの受験希望者は，日本教育カウンセラー協会が出版しているハンドブックとワークブックの購入が必要です。
メッセージ な　　ど	児童期の子どもの心身面の発達特徴を知るとともに、生涯における児童期の重要性を眺めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：選択科目、ピアヘルパー受験資格：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。	児童の心身の発達の課程および特徴について十分に説明することができる。	児童の心身の発達の課程および特徴について概ね説明することができる。	児童の心身の発達の課程および特徴について最低限の説明はできる。	児童の心身の発達の課程および特徴について説明することができない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	25%
	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べ	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけているが、自分の考えを述べ	これまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べる	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%

	ることができる。		ることが不十分である。	ことができない。		
(2) 児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて学ぶ。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて十分に説明することができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて概ね説明することができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて最低限の説明をすることができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ，発達を踏まえた上での関わりについて説明することができない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	25%
	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけているが、自分の考えを述べることが不十分である。	これまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
初等教育課程論 Lecture on Curriculum Theory		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE1006	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	加藤 浩久		○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマポリシーとの関係	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身に付け、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4)教育実習、学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5)様々な教育課題について意欲的に学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6)他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いのよさを学ぼうとしながら、グループやペア片有働に積極的に参加することができる。	○
概　　要	教育課程の原理及び教育課程の編成と管理について学び、学校における教育指導計画の価値がわかり、その作成方法について理解する。 小学校教育を法的根拠や学習指導要領からとらえるとともに、教育課程編成をめぐる今日的な教育課題についての認識を深める。	
到達目標	(1)戦後の学習指導要領の変遷について説明できる。	
	(2) 現行の学習指導要領を「育成したい資質・能力」の面から説明できる。	
	(3)現行の学習指導要領を「習得させたい見方・考え方」の面から説明できる。	
	(4)現行の学習指導要領を「主体的・対話的で深い学び」の面から説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育課程をめぐる様々な問題の中でも学力との関係について理解する。	学力の定義を可能な限り列挙する。	2時間	改訂の主旨について振り返る。	2時間
2	教育課程の基準、編成及び実施の概要について理解する。	教育課程編成の主体という視点から考察する。	2時間	教育課程編成の法的根拠について確認する。	2時間
3	教育課程を通して育成すべき資質・能力について理解する。	教科ごとに、育成する資質・能力をまとめる。	2時間	知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう人間性等	2時間
4	教育課程における道徳教育の位置づけについて理解する。	道徳教育の目標と各教科の目標を比較する。	2時間	道徳科の内容項目教科における道徳教育の在り方を振り返る。	2時間
5	経験主義からの影響を受けた戦後最初の教育課程について理解する。	問題解決学習の中で実施が可能な道徳の学習について考察する。	2時間	社会科、家庭科、自由研究について振り返る。	2時間

	6	経験主義から系統性重視への転換について理解する。	問題解決学習と系統学習の違いについて考察する。	2時間	特設道徳や学力論争について振り返る。	2時間
	7	系統学習の問題点について理解する。	工学的アプローチの意味を調べる	2時間	学力テストと能力論争、教育内容の精選について振り返る。	2時間
	8	教育の現代化から人間性重視への転換について理解する。	羅生門的アプローチの意味を調べる。	2時間	基準の大綱化とゆとり、知・徳・体の調和について振り返る。	2時間
	9	人間性重視から新しい学力観の追求への転換について理解する。	関心・意欲・態度の重視の意義について考察する。	2時間	新しい学力観、選択教科について振り返る。	2時間
	10	新しい学力観から確かな学力への転換について理解する。	新しい学力観が衰退した理由を調べる。	2時間	総合的な学習の時間や選択幅の拡大について振り返る。	2時間
	11	確かな学力から活用能力への転換について理解する。	習得・活用・探究の順序性について考える。	2時間	活用能力重視、国際水準のリテラシーについて振り返る。	2時間
	12	活用能力から主体的・対話的で深い学びへの転換について理解する。	主体的学び、対話的学び、深い学びの重要度を比較する。	2時間	キーコンピテンシーと資質・能力の三つの柱について振り返る。	2時間
	13	主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントとの関係について理解する。	マネジメントを、４５分１単位で考える。	2時間	授業の重要性について振り返る。	2時間
	14	諸外国の教育課程改革の動きから日本の教育課程について理解する。	日本の改革が遅れ気味になる理由を考察する。	2時間	「優秀性」を求める改革、資格試験等を振り返る。	2時間
	15	具体例を基に、教育課程の今日的課題について理解する。	文理融合という新しいキーワードについて調べる。	2時間	市民性、環境教育について振り返る。	2時間

成　績　評　価	定期試験（28%）、授業への取り組み（32%）、グループワーク・グループ討議（40%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）』東洋館出版
メッセージ　な　　ど	小学校教育について、教育課程の編成（指導計画の作成）の観点から、基本的なことを学ぶ授業 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)戦後の学習指導要領の変遷について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%

	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2) 現行の学習指導要領を「育成したい資質・能力」の面から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)現行の学習指導要領を「習得させたい見方・考え方」の面から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%
(4)現行の学習指導要領を「主体的・対話的で深い学び」の面から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国語科指導法 Teaching Methods of Japanese Language	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2018	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	授業を実践に際しての指導事項との関連を踏まえた教材分析上の観点を学ぶ。 典型的な教材を例に、教材の構造と内容の把握、精査と解釈について実践的に学ぶ。 〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの柱を意識して授業を設計する。 「言語による見方・考え方」を念頭に置いた授業実践のあり方を、ＩＣＴを適宜活用しながら、具体的な方法として身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 教材に対する学習者の初発の捉え方を分類・考察することができる。	
	(1)-2) 学習者の初発の感想を基に、教材の中核に迫る「問い」を予測することができる。	
	(1)-3) 学習者相互の対話を成立させる教材のキーワードを捉えることができる。	
	(1)-4) 授業の流れを「板書計画」という形で構想することができる。	
	(2)-1) 対象をどういう言葉で表現しているかで教材の特質を説明できる。	
	(2)-2) 話し手や作者・筆者がなぜそのような表現をしているのかその意図が説明できる。	
	(2)-3) 伏線やオノマトペ等の表現技法で登場人物のどういう状況を表しているか説明できる。	
	(2)-4) 文章の論展開のためにどういう工夫をしているか表現の仕方を基に説明できる。	
	(3)-1) 「導入部」における「問い」を学習者に意味づけできる。	
	(3)-2) 「展開部」における「対話」が成立するための条件を整えることができる。	
	(3)-3) 授業全体の学習の流れが学習者に理解できる「板書」を作成することができる。	
	(3)-4) 学習過程での「形成的評価」で様々な手立てを工夫することができる。	
	(3)-5) 「終末部」における「授業評価（自己評価）」を具体的に講じることができる。	
	(4)-1) どの言葉（表現）で話や文章が理解できたとしているかを掴むことができる。	
	(4)-2) 話や文章の中で言葉の価値に気付いた発言をしているかを掴むことができる。	
	(4)-3) 既習の言葉に新たな意味を見出した発言をしているかを見定めることができる。	
	(4)-4) 「振り返り」の中でだれの言葉で考えが深まったとしているかを見取ることができる。	

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	教材研究って何？①―新見南吉「あめだま」の構造を考える。	教材文を読み、授業内容を概観する。	2時間	「あめだま」の結末の予測ができた訳を表現に求める。	2時間
	2	教材研究って何？②―新見南吉「あめだま」における「問いづくり」を中心にして「アクティブ・ラーニング」を体験する。	前時に書いた考えを基に予測の理由が説明できるよう準備する。	2時間	「教材を教材として捉える」ことを整理する。	2時間
	3	「国語」を教える意味？―国語科の目標、三つの構造を復習する。	学力の三層との関係で「目標」について考えておく。	2時間	「学力観の変遷」と関わらせ整理する。	2時間
	4	低学年教材「お手紙」―登場人物の背負っている表現を掴む。	学習指導要領を基に「説明」について考えておく。	2時間	教材構造図に沿って「お手紙」の特徴を整理する。	2時間
	5	低学年教材「どうぶつの赤ちゃん」―「説明」とは何かを掴む。	学習指導要領の「指導事項のウ」を読んでおく。	2時間	教材文中から「説明」に気付かせる発問を考える。	2時間
	6	中学年教材「ありの行列」―キーワードで段落相互の関係を掴む。	段落相互の関係を掴むキーワードを探しておく。	2時間	ワークシートを軸に「学習の流れ」を考える。	2時間
	7	中学年教材「つり橋わたれ」―心情・情景の「変化」を掴む。	「変化」をキーワードに音読し、概観しておく。	2時間	教材構造図に沿って発問を考える。	2時間
	8	高学年教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」―「問題提起」の答え―文章全体の論理の展開の仕方を掴む。（電子黒板の活用）	「問題提示の解答はどこに」の答えとその理由を考えておく。	2時間	内容読解に際してのキーワードを、教材構造図を基に説明できるように復習する。	2時間
	9	高学年教材「海のいのち」―「クライマックス」の場面を見つけその根拠を語り合うことで「精査と解釈」の仕方を学ぶ。（電子黒板の活用）	「クライマックスはどこか」を考えながら音読しておく。	2時間	電子黒板の利用法や利用場面について考えを整理する。	2時間
	10	教材研究から学習指導案の作成へ①学習指導案のしくみを知る。	例示された学習指導案」を読み特徴を掴んでおく。	2時間	授業の三要素を踏まえ「指導案のしくみ」を整理する。	2時間
	11	教材研究から学習指導案の作成へ②低学年教材「ニャーゴ」で教材構造図を作成する。	学習指導案づくりの対象となる「ニャーゴ」の教材研究をしておく。	2時間	授業中に示された構造図作成の手順を基に作成する。	2時間
	12	教材研究から学習指導案の作成へ③低学年教材「ニャーゴ」で学習指導案を作成する。	先例をヒントにして自分の学習指導案の素案を考えておく。	2時間	授業中の班別の話し合いを参考に指導案を作成する。	2時間
	13	学習指導案の作成から授業実践へ①各自の作成した学習指導案を基にプロジェクターでプレゼンテーションを行う。	一人 10～15 分で要点発表の準備をする。	2時間	仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。	2時間
	14	学習指導案の作成から授業実践へ②各自の作成した学習指導案をもとにプロジェクターでプレゼンテーションを行なう。	一人 10～15 分で要点発表の準備をする。	2時間	仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。	2時間
	15	授業の総括―望ましい反応の取り上げ方の映像と各プレゼンテーションを比較し、教師による「反応喚起・反応解釈・反応組織」についてレポートする。	教師と児童との遣り取りの例を軸に、「教師の出番」について考えておく。	2時間	最後の指導者の解説を基に「教師の出番」についてレポートを書く。	2時間

成　績　評　価	毎回の授業の感想・振り返り（48%）、毎回の授業課題（52%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	①授業後の感想を提出させ、それへのコメントを書き、次時に返却する。 ②各自の提出した「教材構造図」「学習指導案」「授業全般の感想レポート」等を提出させ、それへのコメント・評定を示して、後日返却する。
テキストおよび参　考　文　献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編（平成 29 年 7 月文部科学）』 和田征文・渡邉亮太編著『教育実習の研究』山口短期大学 『平成 29 年度小学校学習指導要領ポイント総整理・国語』吉田裕久･水戸部修治東洋館出版社
メッセージなど	今日的な教育課題の「アクティブ・ラーニング」を意識した授業展開。後期の教育実習に繋がる授業技術を実践的な形で学ぶ授業。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)「言葉による見方・考え方」を軸に授業を構想する要件を理解することができる。	授業を構想する要件を十分に理解することができる。	授業を構想する要件を凡そ理解することができる。	授業を構想できるが、要件を理解することが不十分である。	授業を構想する要件を理解することができない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	授業を構想する要件を十分に理解することができる。	授業を構想する要件を凡そ理解することができる。	授業を構想できるが、要件の理解が不十分である。	授業を構想する要件を理解することができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(2)「思考力･判断力・表現力等」を育成することに繋がる教材の捉えができる。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉えが十分できる。	諸能力を育成することを意識した教材の捉えができる。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉え方に努めている。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉えが十分でない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	諸能力の育成に繋がる教材の捉えが十分できる。	諸能力の育成を意識した教材の捉えができる。	諸能力の育成に繋がる教材の捉え方に努めている。	諸能力の育成に繋がる教材の捉えが十分でない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(3)「主体的･対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計することができる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を十分設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」に触れた学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計できない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を十分設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」に触れた学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計できない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(4)「言葉による見方・考え方」が働いている学習状況を学習者の姿で捉えることができる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を意識して学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えようとしている。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えることができない。	毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を意識して学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えようとしている。	「言葉による見方･考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えることができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現）	13%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
社会科指導法 Teaching Methods of Social Studies		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2019	2年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	加藤 浩久		○

実務家教員の詳細	中学校社会科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマポリシーとの関係	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身に付け、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4)教育実習、学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5)様々な教育課題について意欲的に学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6)他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いのよさを学ぼうとしながら、グループやペア片有働に積極的に参加することができる。	○
概　　要	社会科の教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実践と授業検討等を通して、公民的資質の基礎と養う社会科のＩＣＴを活用した「授業のつくり方」と「授業のしかた」についての基礎・基本を学ぶ。 社会科の学習指導者としての使命感と実践力を身につけて、教壇に立つ準備ができる。	
到達目標	(1) 現行の学習指導要領の趣旨を理解し社会科の学習過程を構想できる。	
	(2) 作成した指導案に基づいて、模擬授業を行うことができる。	
	(3) 現行の学習指導要領の趣旨を踏まえて、実施した模擬授業を相互評価し改善できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会科の目標を構造的にとらえるとともに、構想する学習過程への生かし方を構想する。	学習指導要領解説社会編の目標を読む。	2時間	社会科の目標の構造と意味を振り返る。	2時間
2	社会科の基本的な学習過程の構造について考察する。	学習指導要領や教科書を読む。	2時間	社会科の授業の基本構造を振り返る。	2時間
3	「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」が可能となる学習過程について構想する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	「深い学び」の実現方法について考察する。	2時間
4	「育成したい資質・能力」を意識した学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	配布された指導案の中に育成したい「資質・能力」を見付ける。	2時間
5	「習得させたい見方・考え方」を意識した学習過程につ	学習指導要領の総則編	2時間	配布された指導案の中	2時間

		いて考察する。	や教科編を読む。		に「習得させたい見方・考え方」を見付ける	
	6	社会科への接続を意識した生活科のカリキュラムについて考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	社会科と生活科の望ましい関係について考察する。	2時間
	7	小学校第３学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	学習指導案を作成する。	2時間
	8	小学校第４学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	学習指導案を作成する。	2時間
	9	小学校第５学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	学習指導案を作成する。	2時間
	10	小学校第６学年の題材を一つ選択し、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習過程について考察する。	学習指導要領の総則編や教科編を読む。	2時間	学習指導案を作成する。	2時間
	11	作成した指導案を基に、模擬授業を実施する。	学習指導案を作成し、授業のイメージトレーニングをする。	2時間	模擬授業を振り返り、指導案を修正する。	2時間
	12	作成した指導案を基に、模擬授業を実施する。	学習指導案を作成し、授業のイメージトレーニングをする。	2時間	模擬授業を振り返り、指導案を修正する。	2時間
	13	実施した模擬授業を基に、学習過程を改善する。	自分の模擬授業を振り返る。	2時間	相互評価を基に更に指導案を修正する。	2時間
	14	実施した模擬授業を基に、学習過程を改善する。	自分の授業を振り返る。	2時間	相互評価を基に更に指導案を修正する。	2時間
	15	これまでの学習を基に、社会科のあるべき学習過程の姿について考察する。	これまでの授業を振り返る。	2時間	相互評価を基に更に指導案を修正する。	2時間
成　績　評　価		定期試験（10%）、指導案（60%）、模擬授業（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。				

テキストおよび参考文献	テキスト：授業時に資料を配布する。 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』、『小学校社会科教科書』東京書籍　『小学校社会科教科書』日文
メッセージなど	後期１０月から始まる教育実習に向けて、社会科の授業づくりの基本を学ぶ。学習指導案を書いて、模擬授業に挑戦する実践的な講座。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現行の学習指導要領の趣旨を理解し社会科の学習過程を構想できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	25%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	25%
(2) 作成した指導案に基づいて、模擬授業を行うことができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 現行の学習指導要領の趣旨を踏まえて、実施した模擬授業を相互評価し改善できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
算数科指導法 Teaching Methods of Arithmetic	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2020	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	西　田　　稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校算数科の目標、内容及び学習内容を支える数理等への理解を深めるとともに、問題解決の過程を通して、児童自らが数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ算数科学習指導のあり方について学ぶ。これらを踏まえて教材研究を行い、授業案を作成したり、模擬授業を実施したりして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の実践的な指導力を身につける。	
到達目標	(1)-1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。	
	(1)-2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。	
	(1)-3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。	
	(1)-4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念について的確に説明することができる。	
	(2)-1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。	
	(2)-2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。	
	(2)-3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。	
	(2)-4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	算数教育の目標と各学年における目標・内容①1～3 年	学習指導要領 1～3 年を読んでおく。	2 時間	目標構造と内容の概要をまとめる。	2 時間
	2	算数教育の目標と各学年における目標・内容② 4～6 年	学習指導要領 4～6 年を読んでおく。	2 時間	目標構造と内容の概要をまとめる。	2 時間
	3	各領域と内容の発展系列① 「A数と計算」「B図形」［C測定］	学習指導要領「A数と計算」「B図形」［C測定］を読んでおく。	2 時間	領域別内容の発展系列をまとめる。	2 時間
	4	各領域と内容の発展系列② 「C変化と関係」「Dデータの活用」	学習指導要領「C変化と関係」「Dデータの活用」を読む。	2 時間	領域別内容の発展系列をまとめる。	2 時間
	5	算数科における基本的な学習過程	学習指導要領の「学習過程」についてを読んでおく。	2 時間	問題解決的な学習の要点をまとめる。	2 時間

	6	主体的な学びを促す 教材・教具の工夫開発と教材との対話や児童相互の対話を深め確かな学びを促すICT機器の活用	算数科でのICT機器の活用事例や意義について調べる。	2時間	主体的な学びと確かな理解につながる課題設定やICT機器活用の在り方をまとめる。	2時間
	7	主体的な学びと確かな理解を図る学習形態及び評価の在り方	学習形態や観点別学習状況評価について調べておく。	2時間	ＴＴや観点別評価についてまとめる。	2時間
	8	教材研究とICT機器を活用した算数科学習指導案の作成の仕方 －3年　重さーの事例を通して	ICT機器を活用した算数科の事例について調べておく。	2時間	作成要領、作成ポイントと指導案例との対比による指導案の読み。	2時間
	9	教材研究及びICT機器を活用した学習指導案の作成 －2年　100をこえる数－ 協同研究	ICT機器を活用した２年生「１０００までの数」の授業構想を練っておく。	2時間	協議をもとに「１０００までの数」の学習指導案を銘々で完成させる。	3時間
	10	学習指導案及びICT機器を活用した教材教具の作成 －3年　三角形－	ICT機器を活用した「三角形」の授業の原案を作成する。	2時間	３年「三角形」の学習指導案を作成する。	2時間
	11	学習指導案及びICT機器を活用した教材教具の作成 －5年　面　積－	ICT機器を活用した「面積」の授業の原案を作成する。	2時間	５年「面積」の学習指導案を作成する。	2時間
	12	学習指導案及びICT機器を活用した教材教具の作成 －3年　三角形－ －5年　面　積－	模擬授業で使用する教材､教具作成に必要な材料等の計画や準備にあたる。	2時間	それぞれの指導案を完成させる。(模擬授業実施分、模擬授業省略分)	2時間
	13	模擬授業の実施	模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
	14	模擬授業の実施	模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
	15	模擬授業の実施	模擬授業の準備をする	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間

成　績　評　価	定期試験（20%）、指導案（16%）、授業への取り組み（20%）、グループワーク・グループ討議（14%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。 模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：講義資料はその都度、プリント類は必要に応じて配付する。 『小学校指導要領（平成29年告示）解説　算数編（平成29年7月　文部科学省）』 小学校算数教科書　　各学年　　啓林館
メッセージなど	国語に次いで、授業時数の多い教科です。教員は教えやすいと思いがちですが、児童にとっては意外と学びにくい教科です。児童の学びに視点をあて、主体的にかつ深く学ぶことの喜びを喚起する教材研究の在り方について究明しましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(1)-2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(1)-3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。	ほぼ完璧に作成することができる。	大きな誤りがなく作成することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に作成することができる。	大きな誤りがなく作成することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(1)-4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念について的確に説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(2)-1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	4%
(2)-2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。	ほぼ完璧に計画することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。	計画することができない。	指導案（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	8%
	ほぼ完璧に計画することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。	計画することができない。	グループワーク・グループ討議（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	7%

(2)-3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。	ほぼ完璧に作成することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。	作成することができない。	指導案（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	8%
	ほぼ完璧に作成することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。	作成することができない。	グループワーク・グループ討議（意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	7%
(2)-4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。	ほぼ完璧に進めることができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて進めることができる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて進めることができる。	適切に進めることができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（意欲・思考力・判断力・表現力・創造性）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
理科指導法 Teaching Methods of Science Studies	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2021	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	西田 稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容の背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。	
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。	
	(1)-3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。	
	(1)-4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	
	(2)-1) 教科の特性を理解し、単元全体の見通しを持つことができる。	
	(2)-2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	
	(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	
	(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	小学校理科教育の目標と内容	小学校理科の指導要領を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
2	第 3 学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	３年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
3	第 4 学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	４年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	4	第５学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	５年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	5	第６学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け	６年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	6	理科評価計画の位置づけと ICT 活用授業の位置付け	前時で作った単元指導計画に評価計画を位置付けてみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	7	第３年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	３年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	8	第３学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	9	第４年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	４年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	第４学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	11	第５年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	５年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	12	第５学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	13	第６年生理科の学習指導案の作成と ICT 活用授業の位置付け	６年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	14	第６学年理科授業の実際と振り返りと ICT 活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	15	授業における指導と評価	これまでの学習のまとめをしておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（5%）、課題・レポート（15%）、指導案（20%）、教材作成（20%）、授業への取り組み（5%）、グループワーク・グループ討議（5%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業後実施する振り返りを確認するとともに､毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	講義資料はその都度配布する 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』『各学年理科教科書』 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　理科編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』
メッセージなど	理科離れを防ぎ､理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践に取り組みましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（思考力･判断力･表現力）	5%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（思考力･判断力･表現力）	5%
(1)-3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（思考力･判断力･表現力）	5%
(1)-4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	教材作成（技能・表現力）	5%
(2)-1) 教科の特性を理解し、単元全体の見通しを持つことができる。	ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	教材作成（技能･表現力･創造性）	5%
	ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（表現力・協働性）	5%
(2)-2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ほぼ完璧に、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（技能･思考力･判断力･表現力）	5%
	ほぼ完璧に、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（意欲･態度･知識･理解）	5%

(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。	作成できない。	教材作成 （関心・意欲・態度・技能）	10%
	ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。	作成できない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・表現力・創造性）	10%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。	ほぼ完璧に実施することができる。	大きな間違いがなく、実施ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。	実施できない	指導案 （知識・理解）	10%
	ほぼ完璧に実施することができる。	大きな間違いがなく、実施ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。	実施できない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・表現力・創造性）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活科指導法 Teaching Methods of Life Environments	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2022	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	「教材」が「学習体験や活動を左右する」ことの認識を深め、生活科における「教材研究の視点」や「教材開発の必要性や留意点」を理解し、身近な社会や自然の中にある素材の教材化と効果的活用方法を身に付ける。 生活科における年間指導計画や単元計画並びに指導案作成について理解する。 生活科における体験的な活動の実践を通しながら指導の在り方を探求する。 生活科における評価の在り方を理解する。	
到達目標	(1)-1) 生活科授業における教材の大切さを説明できる	
	(1)-2) 素材と教材の意味の違いを比較できる	
	(1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけができる	
	(2)-1) 直接的な体験や活動の教材化ができる	
	(2)-2) ICT 等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を説明できる	
	(3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成ができる	
	(3)-2) 単位時間の指導案の作成ができる	
	(3)-3) 評価規準を作成することができる	
	(3)-4) 多様な評価方法を列記できる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生活科の授業における教材の特質性を説明できる	素材と教材の違いを読み取る	2 時間	授業の特質を箇条書きにする	2 時間
2	教材化の意味・意義を理解し、指導計画への生かし方を学ぶ	教材と教材化の違いを読み取る	2 時間	教材化の意味をまとめる	2 時間
3	①人と関わる活動の教材化について学ぶ	ツーリストとトラベラーの違いを読む	2 時間	どんな人と関わるかまとめる	2 時間

	4	②飼育栽培活動の教材化について学び、体験活動する	動植物への関わり方を読み取る	2 時間	実際に世話をしてみる	2 時間
	5	③探険活動の教材化について説明できる	遠足と探検の違いを読み取る	2 時間	探検場所と方法をまとめる	2 時間
	6	④遊びの教材化について学び、体験活動する	Play と Game の違いを読み取る	2 時間	教育実習等で児童と遊ぶ	2 時間
	7	⑤ものづくりの教材化について学び、教材を作成する	多様なものづくりの例を知る	2 時間	制作作品を実際に使ってみる	2 時間
	8	⑥表現・イベント活動の教材化について学ぶ	いろんな表現技法を読み取る	2 時間	多様な表現方法をまとめる	2 時間
	9	⑦交流活動を実践し、動画や静止画として記録する	多様な交流会の仕方を読み取る	2 時間	画像を整理する	2 時間
	10	町探検の振り返り学習時にタブレットを活用して発表活動をする	プレゼン内容をまとめる	2 時間	プレゼン方法を修正する	2 時間
	11	映像や音声機器等、多様な表現活動を図った指導事例を検討する	指導事例を調べる	2 時間	指導事例をまとめる	2 時間
	12	地域実態に即した生活科の年間・単元計画の作成事例を検討する	テキスト 12～13P を読む	2 時間	他の事例を調べる	2 時間
	13	生活科の指導案を作成し、模擬授業を行なう	生活科指導案を作成する	2 時間	授業の反省文を書く	2 時間
	14	評価基準と評価規準の違いについて学ぶ	文科省「指導要録」を調べる	2 時間	単位時間の評価基準を書く	2 時間
	15	多様な評価方法を理解する	指導要領解説 92～93Ｐを読む	2 時間	多様な評価方法をまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（10%）、課題・レポート（50%）、指導案（20%）、授業への取り組み（10%）、発表・プレゼンテーション（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	活動体験の記録（レポート等）を学習成果物として累積し、フィードバックに生かす
テキストおよび参　考　文　献	文科省　『小学校学習指導要領 解説　生活編』（4 版）　東洋館出版 授業用テキスト『生活科指導法』山口短期大学
メッセージなど	小学校低学年児童が喜ぶ、直接的な体験活動の実践と指導方法の体得が、主な授業内容である。具体的な教材との触れ合いを大切にする。 小学校教諭二種状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 生活科授業における教材の大切さを説明できる	ほぼ完璧に教材の大切さを説明できる	十分教材の大切さを説明できる	おおむね教材の大切さを説明できる	まったく説明できない	定期試験（理解）	10%
(1)-2) 素材と教材の意味の違いを比較できる	ほぼ完璧に意味の違いを比較できる	十分意味の違いを比較できる	おおむね意味の違いを比較できる	まったく意味の違いを比較できない	課題・レポート（知識）	20%
(1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけができる	ほぼ完璧に教材の授業への位置づけができる	十分に教材の授業への位置づけができる	おおむね教材の授業への位置づけができる	まったく教材の授業への位置づけができない	指導案（判断力）	10%
(2)-1) 直接的な体験や活動の教材化ができる	ほぼ完璧に体験活動の教材化ができる	十分に体験活動の教材化ができる	おおむね体験活動の教材化ができる	まったく体験活動の教材化ができない	授業への取り組み（関心）	10%
(2)-2) ICT 等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を説明できる	ほぼ完璧に ICT 等の活用の在り方を説明できる	十分に ICT 等の活用の在り方を説明できる	おおむね ICT 等の活用の在り方を説明できる	まったく ICT 等の活用の在り方を説明できない	発表・プレゼンテーション（技能）	10%
(3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成ができる	ほぼ完璧に年間・単元計画の作成ができる	十分に年間・単元計画の作成ができる	おおむね年間・単元計画の作成ができる	まったく年間・単元計画の作成ができない	課題・レポート（問題解決力）	10%
(3)-2) 単位時間の指導案の作成ができる	ほぼ完璧に単位時間の指導案が作成できる	十分に単位時間の指導案が作成できる	おおむね単位時間の指導案が作成できる	まったく単位時間の指導案が作成でない	指導案（理解）	10%
(3)-3) 評価規準を作成することができる	ほぼ完璧に評価規準を作成することができる	十分に評価規準を作成することができる	おおむね評価規準を作成することができる	まったく評価規準を作成することができない	課題・レポート（理解）	10%
(3)-4) 多様な評価方法を列記できる	ほぼ完璧に評価方法を列記できる	十分に評価方法を列記できる	おおむね評価方法を列記できる	まったく評価方法を列記できない	課題・レポート（理解）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
音楽科指導法 Teaching Methods of Music	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2023	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	松田 和寛	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	
概　要	学習指導要領における小学校教科音楽の目標を概説し、音楽教育の現状と問題について考察する。 指導案の作成方法を学ぶことにより授業展開の方法を学ぶ。 模擬授業を演習実習し、実践的な技能の伸長を図る。	
到達目標	(1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てることができる。	
	(1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。	
	(1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にする指導計画を考えることができる。	
	(2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画を立てることができる。	
	(2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考え計画を立てることができる。	
	(2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考え計画を立てることができる。	
	(3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学習指導要領「音楽」の概説・音楽科教育の目標	テキストまえがきを読んでおく	2 時間	自分の考えをまとめる	2 時間
2	年間指導計画の立案の考え方	「年間指導計画」テキスト P21、教科書の P26～31 を読む	2 時間	考えをまとめる	2 時間
3	歌唱共通教材の授業展開の考え方	「歌唱共通教材」教科書の P50～55 を読んでおく	2 時間	再度 50～55 ページを読み、考えをまとめる	2 時間
4	指導案の作成①　目標、概念	「目標、概念」教科書の P32～35 を読んでおく	2 時間	レポート課題を参考にして試作してみる	2 時間

	5	歌唱共通教材模擬授業① 1年「うみ」「かたつむり」「日のまる」－ICT機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）	「うみ」その他＝教科書 P136～141 を演習練習する	2 時間	反省をもとに演習する	2 時間
	6	指導案の作成② 題材，題材研究、題材観	「題材観」テキスト P22,23 を完成させておく	2 時間	暗記できるようにする	2 時間
	7	歌唱共通教材模擬授業② 1年「ひらいたひらいた」、2年「かくれんぼ」「春がきた」 －ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－	「ひらいたひらいた」その他＝教科書の P142～147 を演習練習しておく	2 時間	反省をもとに演習する	2 時間
	8	指導案の作成③ 題材の指導計画	「指導計画」テキスト P25 を試作しておく	2 時間	学習成果を生かして再度試作してみる	2 時間
	9	歌唱共通教材模擬授業③ 2年「虫のこえ」「夕やけこやけ」 3年「うさぎ」 －ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－ ビデオ録画自己批評	「虫のこえ」その他＝教科書の P148～153 の演習練習	2 時間	他人の評価表 A を参考にして演習する	2 時間
	10	指導案の作成④ 本時の目標、ねらいの設定	「本時の目標」テキスト P26、27 を読む	2 時間	モデルを試作してみる	2 時間
	11	歌唱共通教材模擬授業④ 3年「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」 －ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－	「茶つみ」その他＝教科書の P154～159 の演習練習	2 時間	評価表をもとに演習する	2 時間
	12	指導案の作成⑤ 授業展開の方法	「授業展開の方法」テキスト P28 を読む	2 時間	テキスト 30 ページを完成させる	2 時間
	13	歌唱共通教材模擬授業⑤ 4年「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」－ICT機器の活用（CDデッキ、画像の提示、授業の録画）－ ビデオ録画相互批評	「さくらさくら」その他＝教科書の P160～169 の演習練習	2 時間	評価表 B をもとに演習する	2 時間
	14	指導案の作成⑥ 模擬授業の録画映像を見て、工夫・改善点をまとめる	「工夫・改善」教科書の P227～241 を読んでおく	2 時間	工夫改善をもとに指導案を作成してみる	2 時間
	15	歌唱共通教材模擬授業⑥ 5年「こいのぼり」「子守歌」 「スキーの歌」「冬げしき」－ICT 機器の活用（CD デッキ、画像の提示、授業の録画）－評価、振り返りの方法	「こいのぼり」その他＝教科書の P170～181 の演習練習	2 時間	録画の反省をもとに演習する	2 時間

成績評価	課題・レポート（40%）、指導案（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	模擬授業の評価表 A,B を提出させ評価する。模擬授業の録画を利用し評価する。全体的にはルーブリックを用いて評価する。
テキストおよび参考文献	『初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用』音楽之友社 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版
メッセージなど	教育現場に通じる指導法を会得するために指導案の作成をし、実際の授業を模擬体験してみる。音楽の実力が必要であることはもちろんであるが、他者の模擬授業を評価することなどを通し、さらなる資質のレベルアップを図りましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てることができる。	全般にわたって完璧に近い計画が立てられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	自分の考えのみではあるが最低限の授業計画を立てることができる。	計画を立てられない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。	年間を通しての計画がほぼ完璧に立てられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	最低限の長期的指導計画が立てられる。	計画が立てられない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にする指導計画を考えることができる。	過程を大切にした指導計画が考えられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	計画だけは考え、立てることができる。	考えることができない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画を立てることができる。	工夫した計画に基づく指導案を作成することができる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	豊かで工夫した計画には至らないが、最低限の計画はできる。	計画ができない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考え計画を立てることができる。	深く多様な体験をさせる授業展開を充分考えることができる。	ほぼ間違いない授業展開が考え計画を立てられる。	勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。	深く多様で幅広い体験をさせる授業展開ができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考え計画を立てることができる。	幅広く豊かな展開を考え計画を立てることができる。	大きな間違いのない考えにより展開を考え計画を立てることができる。	勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。	授業展開がつくれない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。	多岐にわたり精査できる。	充分とは言えないが精査しようとしている。	基本を踏まえることはできる。	基本が理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
図画工作科指導法 Teaching Methods of Art and Handicrafts	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2024	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	吉本 宏之	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。

到達目標	
	(1)-1) 学習指導要領のおける図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
	(1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。
	(1)-4) 図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
	(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
	(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。
	(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
	(2)-4) 模擬授業の実施との振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	図画工作の目標・内容と学びの意義を読み取ることでその全体構造を理解する。	学習指導要領図画工作編を読む。	2時間	目標・内容や学びの意義について考察し感想を書く。	2時間
2	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。①造形遊びをする活動	「造形遊びをする活動」教科書に目を通す。P.32～37	2時間	「造形遊びをする活動」の内容について考察し感想を書く。	2時間
3	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。②絵に表す活動	「絵に表す活動」教科書に目を通す。P.38～43	2時間	「絵に表す活動」の内容について考察し感想を書く。	2時間
4	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。③立体に表す活動	「立体に表す活動」教科書に目を通す。P.44～49	2時間	「立体に表す活動」の内容について考察し感想を書く。	2時間

	5	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。④工作に表す活動	「工作に表す活動」教科書に目を通す。P.50～55	2時間	「工作に表す活動」の内容について考察し感想を書く。	2時間
	6	「図画工作科の内容」を子どもの姿、指導のポイント、題材例から把握する。⑤鑑賞の活動 （小テストの１）	「鑑賞の活動」教科書に目を通す。P.56～61	2時間	「鑑賞の活動」の内容理解について考察し感想を書く。	2時間
	7	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。①絵の具で描く（ぼかし、にじみ、点描、ドライブラシ、ローラーを用いる）	「絵の具で描く」教科書に目を通す。P.232 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	8	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。②墨で表す（布、墨流し、ゆび、段ボール、割りばしペン）	「墨で表す」教科書に目を通す。P.233～234 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	9	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。③粘土で表す（土粘土、紙粘土、油粘土）	「粘土で表す」教科書に目を通す。P.235 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	10	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。④（木で表す）切る・つなげる・穴をあける・彫る・研磨する　**（小テストの2）**	「木で表す」教科書に目を通す。P.236～237 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	11	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑤（自然物で表す）葉・石・小枝・どんぐり	「自然物で表す」教科書に目を通す。P.238 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	12	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑥（針金で表す）ペンチ・ニッパー・鉄・アルミ・モール	「針金で表す」教科書に目を通す。P.239 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	13	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑦（プラスチック容器で表す）ペットボトル・フードパック・プラ製品	「プラスチック容器で表す」教科書に目を通す。P.240 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	14	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑧（モダンテクニックの技法）デカルコマニー・フロッタージュ・マーブリング	「モダンテクニックの技法」教科書に目を通す。P.241 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	15	図画工作で使用する材料の特質や用具の使い方を学ぶ。⑨（ペーパークラフトで表す）はさみ・カッターナイフ　**（小テストの3）**	「ペーパークラフトで表す」教科書に目を通す。P.248 材料準備	2時間	材料の特質や用具の使い方を考察し感想を書く。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。①指導計画の作成と学習指導案の作成	「指導計画と学習指導案」教科書に目を通す。P.64～67	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	17	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。②授業づくりのプロセス	「授業づくりのプロセス」教科書に目を通す。P.68～77	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間
	18	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。③準備導入展開まとめ	「准備導入展開まとめ」教科書に目を通す。P.78～85	2時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2時間

	19	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。④材料・用具の工夫、安全指導　（小テストの４）	「材料・用具の工夫、安全指導」教科書に目を通す。P.88～91	2 時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2 時間
	20	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。⑤活動場所や学習形態の工夫と板書計画の意義	「活動場所や学習形態や板書計画」教科書に目を通す。P.92～97	2 時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2 時間
	21	図画工作科の指導方法について、よりよい授業づくりのポイントをつかむ。⑥学びの記録・評価の工夫と作品展示と地域との連携	「学びの記録・評価」等教科書に目を通す。P.98～101	2 時間	**よりよい授業づくりのポイント**を考察し感想を書く。	2 時間
	22	版画の研究①　作品の画像をもとにスチレン版画、紙版画の制作手順を知る（第１学年から第３学年）	「スチレン版画、紙版画」資料に目を通す。作品イメージを持つ。	2 時間	版画の特質を理解し作品制作ができたか感想を書く。	2 時間
	23	版画の研究②　作品の画像をもとに木版画の制作手順を知る。（第４学年から第６学年）**（小テストの5）**	「木版画の制作手順」資料に目を通す。作品イメージを持つ。	2 時間	版画の特質を理解し作品制作ができたか感想を書く。	2 時間
	24	立体造形「周防国分寺の諸仏」鑑賞題材を通して日本美術を理解する。山口県の仏教芸術。	「山口県の仏教芸術」資料に目を通す。作品イメージを持つ。	2 時間	「周防国分寺の諸仏」の鑑賞題材に触れて感想を書く。	2 時間
	25	「雪舟」や「松崎天神縁起絵巻」の鑑賞題材を通して日本美術を理解する。**（小テストの6）**	「雪舟」や「松崎天神縁起絵巻」の資料プリントに目を通す。	2 時間	水墨画や絵巻物の鑑賞題材に触れて感想を書く。	2 時間
	26	今までの授業で制作した題材を選んで指導案を書いてみる。(27～30 回の模擬授業のための指導案作成)	指導案作成についてのプリントに目を通す。	2 時間	学年を想定し今までの教材を使った指導案作成を考察し感想を書く。	2 時間
	27	模擬授業の実践。①各自の作成した低学年の指導案を元にして実践する。（教育実習時の関連題材）	「指導と評価の一体化」通読。低学年用の指導案に目を通す。教材準備。	2 時間	指導案を元に実践を考察・評価し、感想を書く。	2 時間
	28	模擬授業の実践。②各自の作成した中学年の指導案を元にして実践する。（教育実習時の関連題材）	「指導と評価の一体化」通読。中学年用の指導案に目を通す。教材準備。	2 時間	指導案を元に実践を考察・評価し、感想を書く。	
	29	模擬授業の実践。③各自の作成した高学年の指導案を元にして実践する。（教育実習時の関連題材）	「指導と評価の一体化」通読。高学年用の指導案に目を通す。教材準備。	2 時間	指導案を元に実践を考察・評価し、感想を書く。	2 時間
	30	模擬授業を振り返り、お互いに授業の良さや改善点などを話し合い評価する。一年の授業の振り返り。	実施模擬授業の実践について振り返っておく。	2 時間	制作した作品を整理する。	2 時間
成　績　評　価		小テストや課題レポート（30%）、作品（意欲・態度・作品の完成度）（30%）、題材作成（表現力・判断力・創造性）20%、模擬授業、ロールプレイ（10%）、毎回の授業の感想と振り返り・毎回の授業課題（10%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		毎回の考察・感想文の提出 前半、後半の作品ファイルを作成する。毎回振り返りを行う。後に返却する。				
テキストおよび参　考　文　献		テキスト：新野貴則 福岡知子『明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』萌文書林 参考文献：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　図画工作編（平成 29 年 7 月文部科学省）』日本文教出版、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 図画工作（令和 2 年 3 月文部科学省）』東洋館出版社				

メッセージなど	図画工作は、子どもの「心」を育てる大切な科目であり、アクティブラーニングそのものといえます。子どもの素直な表現を認め、評価できる教師を育成します。 小学校教諭二種状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領のおける図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解、説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく理解、説明できる。	間違いはいくつかあるが理解説明できる。	全く理解できていない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
(1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが理解し、説明できる。	全く理解できていない。説明できない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
(1)-4)図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	大きな間違いがなく理解し、教材研究を活用し作品制作できる。	間違いはいくつかあるが、理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	全く理解できない。教材研究を活用した作品制作ができない。	作品作成 （作品の完成度・技能・発想力）	15%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかあるが意欲・関心を持って取り組んでいる。	全く意欲・関心がなく、取り組めていない。	授業への取り組み (意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解して模擬授業に取り組める。	ほぼ完璧に理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	間違いはいくつかあるが基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	全く理解できていない。学年や発達を視野に入れた教材選択ができない。	作品作成 （作品の完成度・技能・発想力）	15%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかあるが意欲・関心を持って取り組んでいる	全く意欲・関心がなく、取り組めていない。	授業への取り組み(意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計や模擬授業に活用することがで	ほぼ完璧に教材、用具を効果的に活用した作品制作ができている。	大きな間違いがなく教材、用具を活用した作品制作ができている。	間違いは少しあるが教材、用具を活用した作品制作ができている。	全く教材、用具を活用した作品制作ができていない。	作品作成 （作品の完成度・技能・発想力）	10%

きる。	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかある意欲・関心を持って取り組んでいる	全く集中力がなく、取り組めていない。	授業への取り組み(意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に指導案を書くことができる。	大きな間違いがなく指導案を書くことができる。	間違いはいくつかあるが、指導案を書くことができる。	全く指導案を書けない。	小テスト 課題レポート (理解・思考力)	4%
	ほぼ完璧に指導案に合った教材作品制作ができる。	大きな間違いがなく指導案に合った教材作品ができる。	間違いはいくつかあるが指導案に合った教材作品ができる。	全く指導案に合った教材作品ができない。	作品作成 (作品の完成度・技能・発想力	10%
(2)-4)模擬授業の振り返り、授業改善の視点を身に付けている。	ほぼ完璧に振り返りができている。	大きな間違いがなく、振り返りができている。	間違いはいくつかあるが、振り返りができている。	全く振り返りができない。	課題レポート (理解・思考力)	4%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
体育科指導法 Teaching Methods of Physical Education	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2025	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	大本　学司	○

実務家教員の詳細	中学校保健･体育科教員としての実務経験を生し､到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	今日の社会及び将来の社会において求められている『スポーツの主人公』として、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する」ために必要な資質・能力を、学習指導要領に示された体育教科の学習内容を中心に理解する。また、それを子どもたちが身につけるための学習指導理論を実践的に学習し、実践できる基礎的な資質・能力を身につける。

到達目標	
	(1)-1) 今日及び将来の社会とスポーツの価値について述べることができる。
	(1)-2) 学習指導要領の目標について説明できる。
	(1)-3) 学習指導要領の内容について説明できる。
	(2)-1) 各学習内容の指導上の留意点を挙げることができる。
	(2)-2) 体育教科の評価の在り方について述べることができる。
	(3)-1) スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解できる
	(3)-2) スポーツを行うための必要条件について理解し説明できる。
	(3)-3) 器械運動及び陸上競技（短・リレー走・ハードル走）特有の面白さを理解し、授業計画作成ができる。
	(3)-4) 器械運動及び陸上競技（短・リレー走・ハードル走）の基礎技術を理解し、授業計画作成ができる。
	(4)-1) 「目的・目標―内容―教材―方法―評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。
	(4)-2) 自分で作成した授業計画を 1)に基づき検討することができる。

授業内容と進め方						
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	スポーツの価値について（討論） 学習指導要領「体育教科」の読み方	―	―	配布資料を読み返す。	2 時間
	2	学習指導要領「体育教科」の目標と現代社会について	学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	3	学習指導要領「体育教科」の学年別にみる内容について	学習指導要領を体育科の内容について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

	4	学習指導要領「体育教科」の内容と指導上の留意点	学習指導要領を体育科の内容の取り扱いについて読んでおく。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	5	自分達が受けてきた「体育教科」を振り返る（意見交換及び報告）	「体育教科」の内容を復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	6	体育教科の授業計画をつくるときの基礎知識	「体育教科」の振り返りを復習しておく。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	7	器械運動（マット運動）の特質と基礎技術とは何かついて	授業計画の資料を読んで復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	8	器械運動（マット運動）の基礎技術と運動学習法について①	基本技術の資料を読んで復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	9	器械運動（マット運動）の基礎技術と運動学習法について②	運動学習法の資料を読み復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	10	表現としてのマット運動（連続技の特質）	運動学習法の資料を読み復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	11	マット運動の連続技の構成の違いによる感覚の違い（意見交換及び報告）	連続技の特質の資料を復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	12	連続技づくりの技術習得のための指導法の検討①（グループでの活動）（ICT の活用）	感覚の違いの資料を復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	13	連続技づくりの技術習得のための指導法の検討②（グループでの活動）（ICT の活用）	指導案の作成をする。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	14	連続技の発表および指導法への気づきの共有（報告）①（ICT の活用）	指導案の作成をする。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	15	器械運動のマット運動の評価方法についての検討	これまでの取組から、評価の視点について考える	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	「豊かなスポーツライフの実現」を視点とした小学校での体育教科の授業の検討（意見交換）	学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	17	学習指導要領体育教科における陸上競技（短・長距離走）目標及び内容について	小学校での体育教科の授業の検討を読んで復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	18	短距離走の基礎技術と指導法の検討	陸上競技の資料を読んで復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	19	短距離走を科学的に考察するーデータの収集とその意味ー（私の50m走）	短距離走の資料を読んで復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	20	短距離走の技術習得のためのグループ学習（情報機器の使用の検討）	私の50m走の資料を読み復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間
	21	スピードにのったバトンパスを創りだす指導法の検討①	情報機器の使用の資料を復習する。	2時間	授業の要点をまとめる。	2時間

	22	スピードにのったバトンパスを創りだす指導法の検討②	バトンパスの資料を読み復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	23	スピードにのったバトンパスを創りだす指導法の検討③	バトンパスの資料を読み復習する。	2 時間	指導案の作成をする。	2 時間
	24	リズミカルに走り抜けるハードル走の指導法①	ハードルの仮説の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	25	リズミカルに走り抜けるハードル走の指導法②	前回の改善の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	26	リズミカルに走り抜けるハードル走の指導法③	ハードルの指導案の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	27	保健の授業づくりと実践①	保健の指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	28	保健の授業づくりと実践②	保健の指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	29	保健の授業づくりと実践③	自身の指導案を見直す。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	30	授業計画作成における「目的・目標－内容－教材－方法－評価の統一」という視点と評価の観点	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、グループワーク・グループ討議（30%）、指導案（30%） 課題・レポート（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	各授業でレポートをした場合は、翌週にコメントを付けて返却する。また授業の検討会や意見交換会では授業内でフィードバックをする。（形成的評価）
テキストおよび参　考　文　献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　体育編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』 授業中に適時資料を配付する。
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　ど	実践と理論（身体を動かして実践しながら、考えるということ）を大切に、みんなで学び合える環境をつくりましょう。 小学校教諭二種状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)今日及び将来の社会とスポーツの価値について述べることができる。	スポーツの価値について今日的状況を踏まえて考えを述べられる。	スポーツの価値について資料などを参考に考えを述べられる。	自分なりの経験的な考えを述べることができる。	スポーツの価値について述べることができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(1)-2)学習指導要領の目標について説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(1)-3)学習指導要領の内容について説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(2)-1)各学習内容の指導上の留意点を挙げることができる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	指導案（思考力・判断力・創造性）	10%
(2)-2)体育教科の評価の在り方について述べることができる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、述べられる。	述べられていない。	グループワーク・グループ討議（知識・理解・思考力・判断力）	15%
(3)-1)運動・スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解できる	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（知識・理解・思考力・判断力）	15%
(3)-2)運動・スポーツを行うための必要条件について理解し説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・創造性）	10%
(3)-3)器械運動特有の面白さを理解し、授業計画作成ができる。	マット運動それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。	マット運動の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。	マット運動の面白さの知識を知る程度で理解している。	理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・創造性）	5%
(3)-4)陸上競技（短・長距離走・リレー・ハードル走）の基礎技術を理解し、授業計画作成ができる。	短距離走・リレー・ハードル走、それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。	短距離走・リレー・ハードル走の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。	短距離走・リレー・ハードル走の面白さの知識を知る程度で理解している。	理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・創造性）	5%
(4)-1)「目的・目標―内容―教材―方法―評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。	ほぼ完ぺきに理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し作成できる。	理解できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・創造性）	5%
(4)-2)自分で作成した授業計画を 1)に基づき検討することができる。	十分に検討できる。	ある程度検討できる。	間違いはあるが、検討できる。	検討できていない。	指導案（表現力・創造性・協働性・問題解決力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
家庭科指導法 Teaching Methods of Home Economics	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2026	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	三時 貴久子	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	小学校学習指導要領家庭における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習内容について他教科との関連や歴史的背景について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	
	(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	
	(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	
	(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	
	(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	
	(2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	
	(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	指導要領に示された家庭の目標及び内容構成	「家庭の目標及び内容」指導要領解説 p12～16 を読む	2 時間	家庭の目標及び内容をまとめる	2 時間
	2	指導計画の作成・内容及び取扱い	「指導計画」等の指導要領解説 p71～79 までを読む	2 時間	指導計画・内容及び取扱いのポイントをまとめる	2 時間
	3	小学校家庭科における子供の家庭理解及び家庭との連携の重要性	「子供の家庭理解」等を連携指導要領解説 p80～83 までを読む	2 時間	子供の家庭理解・家庭との重要性をまとめる	2 時間
	4	家庭科教育の意義と歴史	配布資料を読む	2 時間	家庭科教育の意義と歴史をまとめる	2 時間
	5	ICT を活用した「A家族・家庭生活」について実践上の留意点を学ぶ。乳幼児の育児や高齢者の介護に関する映像を用いた授業の展開を学ぶ。	ICT の活用について指導要領解説 p20～31 までを読んでおく。	2 時間	実践上の留意点と映像を用いた授業の展開についてまとめる	2 時間

	6	ICT を活用した「B 衣食住の生活」について、実践上の留意点（1）を学ぶ。－包丁、アイロン、ミシン等の用具の安全な使い方を指導するために、ICT を使用し映像資料を作成する方法を学ぶ。	「用具の安全な使い方の指導」について児童用教科書を読み、ポイントをまとめる	2 時間	資料作成上の留意点をまとめる	2 時間
	7	ICT を活用した「B 衣食住の生活」について、実践上の留意点（2）を学ぶ。－道具の扱い方をタブレットで撮影しあい、映像を見て技能を高めようとするための指導を学ぶ。	「道具の扱い方」について児童用教科書を読み、実践上の留意点をまとめる	2 時間	映像撮影上の留意点をまとめる	2 時間
	8	ICT を活用した「C 消費生活・環境」について、実践上の留意点を学ぶ。－情報通信機器を用いて生活・環境の問題を調べ、情報を収集・整理し、発表するまでを指導する方法を学ぶ。	「情報通信機器を用いて生活・環境の問題」について児童用教科書を読み、留意点をまとめる	2 時間	指導の手順をまとめる	2 時間
	9	指導案作成の手順及び評価の意義や方法の理解	指導案作成について、配付資料を読む	2 時間	指導案作成の手順評価の意義、方法をまとめる	2 時間
	10	「A 家族・家庭生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	「A 家族・家庭生活」について指導要領解説と児童用教科書を読む	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる	2 時間
	11	模擬授業の実践と振り返り・評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備する	2 時間	模擬授業後の検討会で学んだことをまとめる	2 時間
	12	「B 衣食住の生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う	「B 衣食住の生活」について指導要領解説と児童用教科書を読む	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる	2 時間
	13	模擬授業を実践し、振り返りと評価を行う	模擬授業の発問板書計画を準備する	2 時間	模擬授業後の検討会で学んだことをまとめる	2 時間
	14	「C 消費生活・環境」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料準備を行う	「C 消費生活・環境」について指導要領解説と児童用教科書を読む	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる	2 時間
	15	模擬授業の実践を録画した映像をもとに、振り返りと評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備する	2 時間	検討会で学んだことをまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（35%）、指導案（23%）、教材作成（17%）、授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	提出物について、評価できる点や改善点を示す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：なし（適宜プリント配布） 参考文献：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編（平成 29 年 7 月　文部科学省）』東洋館出版
メッセージなど	子供が自分の家庭生活を見つめ直し、改善し、よりよい生活者としての歩みができるようにするための家庭科の授業はどうあるべきかを一緒に学びましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し説明できる。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。	定期試験（理解）	5%
(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、活用できる。	大きな間違いなく理解し、活用できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し活用できる。	理解が不足し、活用できていない。	指導案（理解）	3%
(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	実態把握の重要性を十分理解し、授業設計できている。	実態把握の重要性を理解し、授業設計できる。	実態把握の重要性は理解できているが授業設計に十分生かせていない。	実態把握の重要性を視野に入れた授業設計ができない。	指導案（理解・判断力）	5%
(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ICT 等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT 等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT 等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。	ICT 等を活用した授業設計ができない。	指導案（理解・創造性）	5%
	ICT 等の効果的な活用方法を理解し授業に活かせる教材を作成できる。	ICT 等の活用方法を理解し授業に生かせる教材を作成できる。	ICT 等の活用方法は理解しているが、教材作成には他者のアドバイスが必要である。	ICT 等を活用した授業設計ができない。	教材作成（理解・創造性）	10%
(2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	大きな間違いなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。	作成できない。	指導案（理解・思考力・表現力）	10%
	授業に活用できる教材を作成できる。	授業に使用できる教材を作成することができる。	他者のアドバイスが必要であるが授業に使用する教材を作成できる。	作成できない。	教材作成（理解・思考力・表現力）	7%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。	模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。	模擬授業の実践も振り返りもできていない。	授業への取り組み（態度・思考力・表現力・技能）	15%
	模擬授業後の検討会で積極的に改善点を提案できる。	模擬授業後の検討会で改善を提案できる。	模擬授業後の検討会で、改善点への意欲は不十分である。	改善点を見つけることができない。	グループワーク・グループ討議（態度・思考力・表現力・技能）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
道徳の理論と指導法 Moral Theory and Teachin Method	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS1027	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	必修	西田　稔	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	学校における道徳教育の重要性の認識のもと、道徳の根本理念に基づいて確かな識見と展望をもった教育の推進ができる技量を養うため、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育とその要としての役割を持つ道徳科の目標や内容、指導計画、基本的な指導過程や指導法等について学ぶ。これらを踏まえて教材研究、道徳科学習指導案の作成、模擬授業を行い、道徳科の実践的指導力を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	
	(1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	
	(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	
	(1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	
	(2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	
	(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	
	(2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	
	(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	
	(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	
	(2)-6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	人間としての生き方を学ぶ道徳教育	学習指導要領道徳解説の道徳の目標を読む	2 時間	自分の道徳教育観をまとめる。	2 時間
	2	道徳教育の変遷	道徳教育の変遷講義資料を読む。	2 時間	道徳教育の歴史的経緯をまとめる。	2 時間
	3	道徳性の発達と道徳教育	道徳性の発達講義資料を読む。	2 時間	道徳性の発達特性を整理する。	2 時間

	4	道徳教育の目標及び内容	学習指導要領道徳解説の目標と内容を読む。	2時間	目標の相互関連、内容の整理をする。	2時間
	5	全教育活動における道徳教育	教育活動全般における道徳講義資料を読む。	2時間	全教育活動で行う方法をまとめる。	2時間
	6	道徳教育計画の策定	道徳活動計画策定講義資料を読む。	2時間	作成の意義と要点をまとめる。	2時間
	7	道徳科の指導過程と教材・発問	道徳の指導過程と教材発問に係る資料を読む。	2時間	基本過程に沿った指導の要点や発問についてまとめる。	2時間
	8	道徳科における評価	学習指導要領道徳解説の評価について読む。	2時間	評価の意義、対象、方法をまとめる。	2時間
	9	道徳科学習指導案の作成の仕方	道徳科学習指導案作成の仕方の資料及び道徳科指導書の関連部分を読んでおく。	2時間	基本形式、項目、項目ごとの記載の要点をまとめる。	2時間
	10	道徳科学習指導案の作成（グループ研究）―低学年教材―「はしの上のおおかみ」	講義資料を読んで、銘々が所定様式に授業シナリオを作成しておく。	2時間	協議をもとに、銘々が道徳科学習指導案「はしの上のおおかみ」を作成する。	2時間
	11	授業説明（グループ代表）及び研究協議	役割分担に従い、発表内容やその意図について考えをまとめておく。	2時間	協議をもとに、指導案を見直し、完成させる。	2時間
	12	道徳科学習指導案の作成 －中学年教材－「学級文庫」 －高学年教材－「転校生がやってきた」	それぞれの教材について学習指導案の原案を作成する。	2時間	指導案を作成する。（模擬授業実施分、模擬授業省略分）	2時間
	13	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
	14	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
	15	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間

成績評価	定期試験（14%）、指導案（26%）、授業への取り組み（6%）、グループワーク・グループ討議（24%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。 模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。
テキストおよび参考文献	テキスト：講義資料はその都度、学習プリントも必要に応じて配布 『小学校指導要領（平成29年告示）解説　総則編（平成29年7月　文部科学省）』 『小学校指導要領（平成29年告示）解説　小学校特別の教科　道徳編（平成29年7月　文部科学省）』
メッセージなど	特別な教科として位置づけられ、教科書の導入も確定するなど、道徳教育に対する国民の関心も一層高まっています。人格形成という教育の根幹に直接関わるだけに指導者の資質や技量の向上がより一層強く求められています。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%
(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験（知識・理解）	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み（知識・理解）	1%

(2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしきれていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	指導案 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	13%
	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしきれていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	グループワーク・グループ討議 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	12%
(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	指導案 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	13%
	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	グループワーク・グループ討議 （意欲・思考力・表現力・創造性・協働性）	12%
(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	ほぼ完璧に道徳科における評価の仕方が説明できる。	大きな誤りなく道徳科における評価の仕方が説明できる。	道徳科における評価の仕方の大筋が説明できる。	道徳科における評価の仕方が説明できない。	定期試験 （知識・理解）	5%
(2)-6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	ほぼ完璧に模擬授業が展開できる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	問題点はあるが、最低限の基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	模擬授業を展開することができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （意欲・思考力・判断力・表現力・創造性）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
総合的な学習の時間の指導法 Teaching Methods of Period for Integrated Studies	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2028	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から見て捉え、実社会・実生活の課題を探求する総合的な学びを実現するための指導の在り方を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。	
	(1)-2) 総合的な学習の時間の目標や内容を説明できる。	
	(2)-1) 総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。	
	(2)-2) 総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。	
	(2)-3) 総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。	
	(3)-1) 総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。	
	(3)-2) 総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	総合的な学習の時間の意義と役割を学ぶ	改定の要点を調べる	2 時間	意義と役割をまとめる	2 時間
2	総合的な学習の時間の目標を理解する	他教科と異なる点を見つけて書く	2 時間	目標を箇条書きする	2 時間
3	総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を理解する	三つの柱から調べて表にする	2 時間	探求的な学習について調べる	2 時間
4	各学校で定める総合的な学習の時間の目標と内容を理解する	要領の構造図を見て感想を書く	2 時間	各学校に適する配慮点をまとめる	2 時間
5	児童や地域の実態、学校の特色に応じた探求課題を理解する	現代的な課題を考えて書く	2 時間	課題達成のための資質能力を列記する	2 時間

	6	年間指導計画、単元計画作成上の配意点を学ぶ	授業改善 3 つの視点を書いてみる	2 時間	作成上の配慮事項をまとめる	2 時間
	7	模擬的な指導計画を作成する	指導計画の実践例を探しコピーする	2 時間	配慮事項と照合してみる	2 時間
	8	総合的な学習の時間の特質を生かした指導事例を学ぶ	特質を生かした実践例を探してコピーする	2 時間	本地域に適した教材、課題を考える	2 時間
	9	学習指導事例①考えるための技法を活用した学習活動	学習活動の事例をネット検索してコピーする	2 時間	技法の一覧表を作る	2 時間
	10	学習指導事例②情報活用能力を生かした学習活動	情報活用能力の事例をネット検索してコピーする	2 時間	タブレットを利用してみる	2 時間
	11	学習指導事例③体験活動を重視した学習活動	体験活動を重視した事例をネット検索してコピーする	2 時間	体験活動の意義をまとめる	2 時間
	12	学習指導事例④地域教材や環境を生かした学習活動	地域や環境を生かした事例をネット検索しコピーする	2 時間	人材バンクを作成する	2 時間
	13	学習指導事例⑤調査活動を重視した学習活動	調査活動を重視した事例をネット検索してコピーする	2 時間	調査方法の一覧表を作る	2 時間
	14	総合的な学習の時間の評価活動上の留意点を理解する	要録評価方法の要覧を読む	2 時間	評価方法を列記する	2 時間
	15	児童の学習状況評価、教師や学校の評価の在り方を学ぶ	自己、他者評価表を作る	2 時間	文科省指導要録を見る	2 時間

成績評価	定期試験（20%）、課題・レポート（40%）、指導案（20%）、発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	個人評価や相互評価、活動の成果物等でフィードバックし、学習を深める。
テキストおよび参考文献	文科省『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（2 版）　東洋館出版 授業用テキスト「総合的な学習の指導法」　山口短期大学
メッセージなど	教科の学習の枠を超えた多様で創造的、共に学ぶ楽しい授業展開の計画・実践力を身に付けよう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。	ほぼ確実に役割を説明できる。	十分に役割を説明できる。	おおむね役割を説明できる。	ほとんど役割を説明できない。	定期試験（知識）	10%
(1)-2)総合的な学習の時間の目標を説明できる。	ほぼ確実に目標を説明できる。	十分に目標を説明できる。	おおむね目標を説明できる。	ほとんど目標を説明できない。	定期試験（知識）	10%
	ほぼ確実に目標を説明できる。	十分に目標を説明できる。	おおむね目標を説明できる。	ほとんど目標を説明できない。	課題・レポート（理解）	10%
(2)-1)総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。	ほぼ確実に作成上の留意点が説明できる。	十分に作成上の留意点が説明できる。	おおむね作成上の留意点が説明できる。	ほとんど作成上の留意点が説明できない。	課題・レポート（理解）	10%
(2)-2)総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。	ほぼ確実に作成上の留意点が列記できる。	十分に作成上の留意点が列記できる。	おおむね作成上の留意点が列記できる。	ほとんど作成上の留意点が列記できない。	課題・レポート（理解）	20%
(2)-3)総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。	ほぼ確実に指導法を具体的に述べることができる。	十分に指導事例を具体的に述べることができる。	おおむね指導事例を具体的に述べることができる。	ほとんど指導事例を具体的に述べることができない。	指導案（表現力）	20%
(3)-1)総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。	ほぼ確実に評価上の留意点を述べることができる。	十分に評価上の留意点を述べることができる。	おおむね評価上の留意点を述べることができる。	ほとんど評価上の留意点を述べることができない。	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(3)-2)総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。	ほぼ確実に評価の多様性を述べることができる。	十分に評価の多様性を述べることができる。	おおむね評価の多様性を述べることができる。	ほとんど評価の多様性を述べることができない。	グループワーク・グループ討議（表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別活動の指導法 Teaching Methods of Extra-Curricular Activities	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2029	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	川上 認	○

実務家教員の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　要	学校教育全体の中で行われる特別活動の意義や目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の３つの視点を持ち、学年の違いによる所属集団や活動の変化や各教科や道徳のとの関連及び他の教職員・家庭や地域との連携等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	
到達目標	(1)-1) 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる	
	(1)-2) 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる	
	(1)-3) 特別活動の特質を列記できる	
	(1)-4) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる	
	(2)-1) 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる	
	(2)-2) 特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる	
	(2)-3) 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる	
	(2)-4) 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別活動の改訂の基本方針や改善点を理解する	改定の要点をまとめる	2 時間	改善点をシートにまとめる	2 時間
2	特別活動の目標や内容を理解する	4 領域の目標を書く	2 時間	振り返りシートにまとめる	2 時間
3	特別活動の指導における他教科と異なる特質を調べる	他教科との違いをまとめる	2 時間	テキスト 8～9P を読む	2 時間
4	学級活動の目標と内容(1)を理解する	3 種類の活動に気づく	2 時間	内容(1)表にまとめる	2 時間
5	学級活動の目標と内容(2)を理解する	内容(1)(2)の分類表をつくる	2 時間	内容(2)表にまとめる	2 時間

	6	児童会活動、クラブ活動目標と内容を理解する	組織の作り方を読み取る	2時間	どんなクラブがあるか調べる	2時間
	7	学校行事の目標と内容を理解する	何種類あるか調べる	2時間	特色ある行事を調べる	2時間
	8	児童や家庭、学校、地域の実態に即した指導の在り方を理解する	教育的価値を書く	2時間	実施上の留意点をまとめる	2時間
	9	特別活動の全体・年間指導計画・指導案の作成の仕方を学ぶ	全体計画の項目を列記する	2時間	振り返りシートに記入する	2時間
	10	話合い活動の指導計画を作成する	活動形態を調べる	2時間	本事案を作る	2時間
	11	話合い活動の指導実践する	指導案を作成する	2時間	指導案を修正する	2時間
	12	交流活動の実践計画を立てる	挨拶状を書く	2時間	持参物を作る	2時間
	13	交流活動を実践する	活動の事前準備をする	2時間	お礼状を書く	2時間
	14	特別活動の評価の在り方を理解する	評価視点を考え、書いてみる	2時間	評価表を作る	2時間
	15	ガイダンスやカウンセリング（教育相談）の必要性を理解する	ガイダンスについて調べる	2時間	ガイダンスについて調べる	2時間

成　績　評　価	定期試験（20%）、課題・レポート（30%）、指導案（30%）、発表・プレゼンテーション（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	過去の学習による累積した活動成果物の振り返りを通してフィードバックする
テキストおよび参　考　文　献	文部省『小学校学習指導要領 解説　特別活動編』東洋館出版社、 授業用テキスト『特別活動の研究』山口短期大学
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	教科の学習活動とは異なる特別活動の趣旨に鑑み、よりよい仲間づくりと楽しい学級・学校づくりを目指す姿勢で受講してほしい。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる	ほぼ確実に方針や内容を対比できる	十分に方針や内容を対比できる	おおむね方針や内容を対比できる	まったく方針や内容を対比できない	課題・レポート（知識）	10%
(1)-2)新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	発表･プレゼンテーション（理解）	10%
(1)-3)特別活動の特質を列記できる	ほぼ確実に特質を列記できる	十分に特質を列記できる	おおむね列記できる	まったく列記できない	定期試験（理解）	10%
(1)-4)学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	定期試験（理解）	10%
	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	課題・レポート（理解）	10%
(2)-1)児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる	ほぼ確実に実態に配慮した指導の在り方を説明できる	十分に実態に配慮した指導の在り方を説明できる	おおむね実態に配慮した指導の在り方を説明できる	まったく実態に配慮した指導の在り方を説明できない	発表･プレゼンテーション（意欲）	10%
(2)-2)特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる	ほぼ確実に指導計画が作成できる	十分に指導計画が作成できる	おおむね指導計画が作成できる	まったく指導計画が作成できない	指導案（技能）	20%
(2)-3)話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる	ほぼ確実に交流活動が計画・実践できる	十分に交流活動が計画・実践できる	おおむね交流活動が計画・実践できる	まったく交流活動が計画・実践できる	指導案（技能）	10%
(2)-4)特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる	ほぼ確実に評価・改善活動の方法を説明できる	十分に評価・改善活動の方法を説明でき	おおむね評価・改善活動の方法を説明できる	まったく評価・改善活動の方法を説明できない	課題・レポート（創造性）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
外国語指導法 Teaching Methods of Foreign Language（English）	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2030	２年次	前　期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	熊　谷　　仁	○

実務家教員の詳細	中学校英語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。

到達目標	
	(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している。
	(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について理解している。
	(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。
	(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている。

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	・小学校外国語教育の変遷を理解する。 ・学習指導要領外国語活動、外国語解説の研究。目標、内容を詳しく見て理解する。 ・英語で自己紹介をする。	学習指導要領外国語解説を読んでおく 英語で自己紹介を考える	2 時間	学習指導要領解説を再度読んでおく 英語の自己紹介を覚える	2 時間
	2	・小学校・中学校・高等学校の外国語教育の目標や学習内容を理解する。 ・小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割を理解する。 ・”Let’s Try 1”Unit 1 「あいさつをして友だちになろう」の教材研究	小・中・高等学校の学習目標を比較して調べておく ”Let’s Try 1”Unit 1 の英語、表現などを調べておく	2 時間	英単語、表現などを復習する。	2 時間
	3	・第二言語習得の特徴を理解し、外国語指導上の留意点について話し合う。 ・国語教育との連携による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かす。 ・”Let’s Try 1”Unit2「ごきげんいかが」の教材研究	第二言語習得論について事前に調べてまとめておく。（レポート 1 枚） ”Let’s Try 1”Unit2 How are you?の予習。	2 時間	第二言語について考えをまとめる。 ”Let’s Try 1”Unit2 の復習する。	2 時間

	4	・英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について再確認する。 ・コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し指導に生かす。児童の実態を動画鑑賞する。	英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について調べてまとめる。(レポート 1 枚)	2 時間	英語（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について復習する。	2 時間
	5	・小学校における外国語指導助手とのティーム・ティーチングによる授業場面の映像を通してティーム・ティーチングのやり方を理解する。 ・”Let’s Try 1”Unit3「数えて遊ぼう」の教材研究	小学校英語授業の映像を事前に検索して見ておく。感想(レポート 1 枚)	2 時間	”Let’s Try 1”Unit3 の単語、表現など復習する。	2 時間
	6	・模擬授業㋐のための指導案作成について知る。 ・主教材の趣旨、構成、特徴を考える。 ・今回は、ペアで授業実践する。 ・様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性への対応について理解している。	”Let’s Try 1”Unit4 I like blue.の予習をする。	2 時間	単語、表現などを覚える。	2 時間
	7	・模擬授業の指導案作成完了と授業の準備、板書計画、教材教具の準備、ペアで実践の練習等々。 ・模擬授業の実践㋑をする。指導者以外の学生は、児童役をして授業に参加する。 ・各授業の評価をする。	”Let’s Try 1”Unit4 I like blue.模擬授業実践の準備のための構想を練っておく。	2 時間	授業で使う英語、表現を練習して覚えておく。	2 時間
	8	・模擬授業の実践㋑をする。各授業の評価をする。 ・模擬授業の記録映像を見て、協議会をする。 　自分達の自評、他のペアの評価を協議し合う。 ・良い授業について考える。	模擬授業のための準備をする。	2 時間	他のペアの授業も参考にしてよい授業について考えておく。	2 時間
	9	・模擬授業②　教科書”Here We Go”を使って模擬授業を計画する。今回は、各自一人で授業計画、指導案作成、授業実践をする。 ・” Here We Go !”の教材研究をする。	” Here We Go! ”の教材研究を、資料を基にしておく。	2 時間	選択した Lesson の資料の読み込み、授業に必要な英単語、表現を覚える。	2 時間
	10	・” Here We Go ! ”の教材研究をする。 ・選択した Lesson の資料を読み込み、単語や表現の聞き取り、発話練習等をした上で、学習指導案の作成の構想を練る。音声から文字へと進むプロセスの理解と授業への活用を図る。	模擬授業の指導案作成のために配布資料を読み込んでおく。	2 時間	指導法、英語表現などをふりかえる。	2 時間
	11	・模擬授業㋒のための指導案作成について考える。 ・教材の趣旨、構成、特徴を考える。 ・模擬授業の指導案作成完了と授業の準備、板書計画、教材教具の準備、	模擬授業の指導案に基づき授業の準備、発話練習、板書計画や教材の準備をする。	2 時間	指導法、英語表現などをふりかえる。	2 時間

	12	・模擬授業◎の実践を、個人で発表する。(1) ・評価表に自他の評価を記入しおく。 ・児童の英語発話を促し、児童同士でやり取りができるように指導方法を工夫する。	模擬授業の指導案に基づき授業の準備、発話練習、板書計画や教材の準備をする。	2 時間	自他の模擬授業についてふりかえり、良い授業について考える。	2 時間
	13	・模擬授業◎の実践を、個人で発表する。(2) ・授業を見て忌憚のない意見を出し合って協議する。評価表の完成。学習状況の評価を理解する。 ・ICT 等の効果的な活用法を理解し授業に生かす。	模擬授業の指導案に基づき自他の授業の評価をする。	2 時間	授業中の自他の良いところを見つけ、今後の指導に生かす。	2 時間
	14	・児童の英語活動について、教師との活動だけでなく、子ども同士の活動を多く経験させることも留意する。 ・文字指導について、高学年指導資料に基づき、読む活動・各活動への導き方を理解し、指導に生かすことを考える。	文字指導について資料を調べておく	2 時間	授業の工夫の仕方 文字指導について理解おく	2 時間
	15	・学習状況の評価について理解する。 ・本講義全体をふりかえる。成果と課題について考え、児童の実態を見ながら今後の学習指導で工夫を継続することを望む。	評価について調べて自分考えをまとめておく。	2 時間	外国語活動・外国語の指導についてひと通りのやり方を身に付ける。	2 時間

成績評価	小テスト（20%）、指導案（20%）、各指導法の実習（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み（10%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	それぞれに対してコメントをする。
テキストおよび参考文献	"Let's Try 1" Let's Try! 2（児童用）、"Here We Go 5　6" 児童用教科書（光村図書）、『新編 小学校英語教育法入門（樋口忠彦他）』研究社 ISBN 978-4-327-41098-8、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省』
メッセージなど	「外国語」の授業で学んだ理論に基づき、児童の学齢に適した指導ができるようになってほしいと願っています。活発な授業参加を期待します。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している。	ほぼ完璧に伝わっている	大きな間違いがなく、伝わっている	最低限は伝わっている	伝わっていない	テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に伝わっている	大きな間違いがなく、伝わっている	最低限は伝わっている	伝わっていない	指導案 (思考力・判断力・表現力)	5%
(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について理解している。	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	指導案 (知識・理解・技能)	5%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	指導法の実習 (知識・理解・技能)	10%
(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	ほぼ完璧に指導している	大きな間違えがなく指導している	最低限は指導している	指導できな	指導法の実習 (知識・理解・技能)	5%
	ほぼ完璧に指導している	大きな間違えがなく指導している	最低限は指導している	指導できな	模擬授業 (技能・表現力・問題解決力)	15%
(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている。	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	模擬授業 (技能・表現力・問題解決力)	15%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	指導法の実習 (知識・理解・技能)	5%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違えがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	指導案 (知識・理解・技能)	10%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育方法学 Educational Method		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPBE1007	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	1	選択	加藤 浩久・平田　睦美		○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事、公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマポリシーとの関係	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身に付け、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4)教育実習、学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5)様々な教育課題について意欲的に学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6)他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いのよさを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○
概　　要	「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習し、教育方法にかかる理論と実践について学習する。併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。 また、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。子どもの発達や興味・関心に応じて授業・保育の内容を考え、教育者に必要とされる教材の工夫、授業・保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	
	(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質･能力を育成するための教育の在り方を理解している。	
	(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	
	(1)-4) 育みたい資質･能力と幼児･児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	
	(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業･保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	
	(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育方法学とは何か」が明確になる。(加藤・平田)	「今、なぜ教育方法学なのか」を考察する。	2時間	教育方法学の概要についてまとめる。	2時間
2	これまで多くの実践者が依拠してきた授業の基本原理と、教育方法学に流れるエスプリについて理解する。(加藤)	自分が受けてきた授業の長所や短所を想起する。	2時間	三つの精神を確認する。	2時間
3	現行の学習指導要領によって構築される教育課程の構造について理解する。(加藤)	教科、特別の教科、総合的な学習の時間、特別活動からなる教育課程につ	2時間	教科と領域の関係を振り返る。	2時間

			いて理解する。			
	4	指導案作成の実際をもとに「授業をデザインすること」の意義について理解する。(加藤)	授業の基本構造について知る。	2時間	授業の一般的な構造について振り返る。	2時間
	5	教材という視点から「授業のデザイン」について理解する。(加藤)	教材の多様な意味を、確認する。	2時間	教材という概念の多様性を振り返る。	2時間
	6	学習評価という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	目標に準拠した評価の評価方法を知る。	2時間	目標に準拠した評価の理念と方法について振り返る。	2時間
	7	教科外活動という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	児童の興味・関心を高める活動について考える。	2時間	集団を育てることの効果の大きさを振り返る。	2時間
	8	教師(授業者)の特性という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	授業の基本構造の中で崩してはいけないものについて考える。	2時間	教師のスタンスによる効果と弊害についてまとめる。	2時間
	9	子どもの資質・能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて学ぶ。(平田)	幼稚園教育要領解説「序章」を読んでおく。	2時間	授業資料を読み直し、「幼児期に育てたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について振り返る。	2時間
	10	遊びの重要性を理解し、遊びを充実させるための教師の援助や環境構成について理解する。(平田)	幼稚園教育要領解説の「教育の基本」を読み、教師の役割について考えをまとめる。	2時間	授業で提示した1日の保育についての環境構成と教師の援助をまとめる。	2時間
	11	授業・保育を展開するための教材について検討する。(平田)	授業や保育における教材の重要性について考えておく。	2時間	ペープサートまたはパネルシアターのお話を考える。	2時間
	12	教材を作成し、その使い方や演じ方について学ぶ。(平田)	制作するペープサートまたはパネルシアター作成に必要なものを考え準備をする。	2時間	ペープサート・パネルシアターを作成する。	2時間
	13	子どもの実態に応じたねらいや内容を考え、指導案を立案し、模擬保育を行う。(平田)	模擬保育の指導案を考えておく。	2時間	ペープサートまたはパネルシアターの練習をする。	2時間
	14	実践を通し、反省・評価・改善を反映させた指導計画の立案について理解する。(平田)	指導案を再構成する。	2時間	模擬保育を振り返り、改善点をまとめる。	2時間
	15	子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。また、全15回の学習内容を振り返り、教育方法についての理解を深める。 (加藤・平田)	これまでの授業資料を読み直す。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
成績評価		定期試験(40%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(30%)、指導案(30%)				

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』東洋館出版、『小学校学習指導要領　解説　総則編（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』東洋館出版、文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社
メッセージなど	教壇に立って役に立つ理論や方法を模擬授業的に学習する授業 グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育などの保育実践を行い、学生の主体的な学びを重視します。 小学校教諭二種免許状：必修科目 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	ほぼ完璧に身につけている。	大きな間違いがなく、基本を身につけている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	身についていない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（技能・判断力・表現力）	30%

(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。	作成できていない。	指導案（思考力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 Theory and method of education utilizing information and communication technology	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCM1011	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	寺本　公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	日々進化するICT機器を活用した授業実践は児童の情報活用能力の育成には不可欠である。そのため、教師を目指す学生はICT機器について十分理解する必要がある。この授業では情報通信機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進と児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
到達目標	(1) 様々なICT機器について理解する。 (2) 授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる。 (3) 授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を開始した。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、情報通信技術の活用について学ぶ	ICT機器の活用について調べる	2時間	ICT機器の活用についてまとめる	2時間
2	情報通信技術を効果的に活用した指導の実践例について学ぶ	ICT機器を活用した指導例について調べる	2時間	ICT機器を活用した指導例についてまとめる	2時間
3	情報通信技術を効果的に活用した教材の作成について学ぶ	ICT機器を活用した教材について調べる	2時間	ICT機器を活用した教材についてまとめる	2時間
4	ICT機器を使った授業での情報モラルについて理解する	ICT機器を使った情報モラルについて調べる	2時間	ICT機器を使った情報モラルについてまとめる	2時間
5	教育情報セキュリティの重要性について学ぶ	教育での情報セキュリティについて調べる	2時間	情報セキュリティについてまとめる	2時間
6	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（国語・社会）	ICT活用の指導実践について	2時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2時間

			調べる(国語・社会)			
	7	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（算数・理科）	ICT 活用の指導実践について調べる(算数・理科)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	8	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（外国語・総合的な学習の時間)	ICT 活用の指導実践について調べる(外国語・総合学習)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	9	児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法について学ぶ	ICT機器の基本操作の指導法について調べる	2 時間	ICT機器の基本操作の指導法についてまとめる	2 時間
	10	特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用について学ぶ	特別の支援を必要とする児童に対するICT機器の活用について調べる	2 時間	特別の支援を必要とする児童に対するICT機器の活用についてまとめる	2 時間
	11	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を学ぶ	遠隔授業やオンライン教育について調べる	2 時間	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについてまとめる	2 時間
	12	学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの活用法について学ぶ	教育データの活用について調べる	2 時間	教育データの活用についてまとめる	2 時間
	13	情報通信技術を活用した統合型校務支援システムについて学ぶ	ICTを活用した校務支援システムについて調べる	2 時間	ICTを活用した校務支援システムについてまとめる	2 時間
	14	学校における情報通信技術環境の整備における外部人材や外部機関との連携について学ぶ	ICT環境の整備における外部人材等の活用について調べる	2 時間	ICT環境の整備における外部人材等の活用についてまとめる	2 時間
	15	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進についてのまとめ	ICT機器を効果的に活用した事例について調べる	2 時間	ICT機器を効果的に活用した事例についてまとめる	2 時間
	第 6 回、7 回、8 回に、幼児との体験との関連を考慮し、情報通信機器を活用して効果的に教材等を作成、提示する方法を学ぶ内容を取り入れる。					

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション(40%)、提出物（30%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	調査レポートなどの返却によるフィードバック。レポートなどは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：自作プリント、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	ICT 機器の活用はこれからの教育にとって必須であり、様々な機器についての理解を深めてほしい。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)様々なICT機器について理解する。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	10%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み（知識・理解）	15%
(2)授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について概ね理解ができているが、事業計画を十分に実践することができない。	ICT機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	10%
	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について概ね理解ができているが、事業計画を十分に実践することができない。	ICT機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	授業への取り組み（関心・意欲・理解・思考力）	15%
(3)授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	10%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	発表・プレゼンテーション等（関心・意欲・理解・思考力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報処理実習Ⅰ Information Processing Practice　Ⅰ	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPIE1001	1年次	前期

講義･演習･実技･実習･実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	1	選択	寺本　公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	日常生活や諸活動における情報活用の基本的な知識について理解するとともに、ワープロソフトウェアを利用した基本的・応用的文書の作成ができ、教育活動での活用ができる。
到達目標	(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。 (2) 教育活動に活用できる文書の作成ができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、オペレーティングシステムの概要	「オペレーティングシステムの概要」（P4～23）を読む。	2時間	ＯＳの基本操作を復習する。	2時間
2	文書の作成①　－文字入力Ⅰ－	文字入力（P24～4）を読む。	2時間	文字の入力方法の復習をする。	2時間
3	文書の作成②　－文字入力Ⅱ－ －複写・削除・移動－	文字入力（P44～65）を読む。	2時間	文字の入力や削除等の復習をする。	2時間
4	文書の作成③　－編集機能－	「編集機能」(P66～81）を読む。	2時間	文書編集方法を復習する。	2時間
5	文書の作成④　－表の編集－ －問題演習－	「表の編集」(P82～85）を読む。	2時間	表の編集方法を復習する。	2時間
6	文書の作成⑤　－画像の活用－	「画像の活用」（P86～94）を読んでおく。	2時間	画像の活用方法について復習する。	2時間
7	文書の作成⑥　－ワードアート－	「ワードアート」（P95～101）を読む。	2時間	ワードアートについて復習する。	2時間
8	文書の作成⑦　－図形描画－	「図形描画」（P102～111）を読んでおく。	2時間	図形描画方法について復習する。	2時間

	9	文書の作成⑧ －スマートアートー	「スマートアート」（P112～121）を読んでおく。	2 時間	スマートアートについて復習する。	2 時間
	10	文書の作成⑨ －文書の作成演習－	「文書の作成」（P122～123）を読む。	2 時間	文書の作成方法について復習する。	2 時間
	11	文書作成応用① －差し込み印刷－	「差し込み印刷」（P124～137）を読んでおく。	2 時間	差し込み印刷について復習する。	2 時間
	12	文書作成応用② －グラフー	「グラフ」（P138～145）を読む。	2 時間	グラフ作成方法を復習する。	2 時間
	13	文書の作成総合演習	「文書の作成」（P146～149）を読んでおく。	2 時間	授業時の演習について復習する。	2 時間
	14	インターネットの活用	「インターネットの活用」（P150～163）を読む。	2 時間	授業時のインターネットについて復習する。	2 時間
	15	配布物の作成	「配布物の作成」（P164～179）を読んでおく。	2 時間	授業時の配布物の作成方法を復習する。	2 時間

成　績　評　価	課題提出(40%)、授業への取り組み（60%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「30 時間でマスター　Word2019」　実教出版企画開発部 編　実教出版
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的･応用的文書の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度･技能･思考力）	30%
	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	提出課題（知識･理解･技能）	20%
(2) 教育活動に活用できる文書の作成ができる。	ほぼ完璧に教育活動に活用できる文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、教育活動に活用できる文書の作成ができる。	基本的な文書の作成はできるが、各種機能を利用した表文書の作成ができていない。	基本的な文書や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度･技能･思考力）	30%
	ほぼ完璧に教育活動に活用できる文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、教育活動に活用できる文書の作成ができる。	基本的な文書の作成ができるが、各種機能を利用した文書の作成ができていない。	基本的な文書や各種機能を利用した文書の作成ができていない。	提出課題（知識･理解･技能）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPIE1002	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	1	選択	寺本　公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	表計算ソフトの基礎的な知識と技術について理解するとともに、各機能の操作及び演習を行いながら基本的なワークシートの作成、グラフ、データベースの活用法等について理解する。 次にプレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。
到達目標	(1) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。 (2) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。 (3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	表の作成① －データ入力－	テキスト 96 ページから 111 ページを読んでおく。	2 時間	データ入力方法を復習する。	2 時間
2	表の作成② －基本的なワークシート編集－	テキスト 112 ページから 117 ページを読んでおく。	2 時間	ワークシートの作成方法を復習する。	2 時間
3	表の作成③ －関数・ｾﾙ参照・罫線・行の挿入－	テキスト 120 ページから 137 ページを読んでおく。	2 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	2 時間
4	表の作成④ －グラフ－	テキスト 142 ページから 148 ページを読んでおく。	2 時間	表のグラフ作成方法を復習する。	2 時間
5	表の作成⑤ －条件判定と順位付け・検索関数－	テキスト 152 ページから 166 ページを読んでおく。	2 時間	条件判定方法や順位付けを復習する。	2 時間
6	表の作成⑥ －総合問題①－	表の作成①から⑤の復習をしておく。	2 時間	授業時の総合問題を復習する。	2 時間
7	表の作成⑦ －総合問題②－	表の作成①から⑤の復習をしておく。	2 時間	授業時の総合問題を復習する。	2 時間
8	ガイダンス スライドの作成① －文字修飾と図形の活用－	テキスト 194 ページから 209 ページを読んでおく。	2 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	2 時間

	9	スライドの作成② －グラフの活用－	テキスト210ページから217ページを読んでおく。	2時間	授業時のグラフの活用方法を復習する。	2時間
	10	スライドの作成③ －表の活用と画像の挿入－	テキスト218ページから225ページを読んでおく。	2時間	授業時の表の活用方法を復習する。	2時間
	11	スライドショーと資料作成	テキスト232ページから239ページを読んでおく。	2時間	スライドショーと資料作成について復習する。	2時間
	12	発表用スライドの作成	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	2時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	2時間
	13	レジュメと発表用原稿の作成	レジュメと発表用原稿の作成について準備しておく。	2時間	発表のリハーサルを行う。	2時間
	14	発表①	発表のリハーサルをしておく。	2時間	発表の評価を整理する。	2時間
	15	発表②	発表のリハーサルをしておく。	2時間	発表の評価を整理する。	2時間

成績評価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（60%）、発表・プレゼンテーション（20%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。
テキストおよび参考文献	テキスト：「30時間でマスター　Office2019」　実教出版企画開発部 編　実教出版
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・技能・思考力）	30%
	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	提出課題（知識・理解・技能）	20%

(2) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。	とても分かりやすい資料の作成ができる。	分かりやすい資料の作成ができる。	最低限の資料作成ができる。	資料の作成ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・技能・思考力）	30%
(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	とても正確で分かりやすい発表ができる。	正確で分かりやすい発表ができる。	最低限の発表ができる。	発表ができていない。	発表・プレゼンテーション（意欲・態度・技能・表現力・創造性）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
プログラミング教育 Programming education	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPIE2003	2年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	寺本 公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	2020 年から小学校にもプログラミング教育が導入されました。現在の子供達が将来活躍する時代は AI が飛躍的に進化するといわれています。そのような世界を背景とした、Society5.0 社会の到来に対応できるように「プログラミング的思考」が出来る子供たちを育てなければなりません。そのためのプログラミング教育をどのように行えばよいかについて学習します。
到達目標	(1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。 (2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。 (3) プログラミング教育について理解し実践できる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータとプログラミング	プログラムについて	2 時間	プログラミングについて	2 時間
2	プログラミング教育が目指すもの	プログラミング教育について	2 時間	プログラミング教育が目指すのについて	2 時間
3	アンプラグドによるプログラミング	アンプラグドについて	2 時間	アンプラグドの復習	2 時間
4	Hour of Code の基礎	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code の特徴をまとめる	2 時間
5	Hour of Code によるプログラミング①	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code でプログラミング	2 時間
6	Hour of Code によるプログラミング②	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code でプログラミング	2 時間
7	スクラッチの基礎	スクラッチについて調べる	2 時間	スクラッチの特徴をまとめる	2 時間
8	スクラッチによるプログラミング	スクラッチについて	2 時間	スクラッチでプログラミング	2 時間
9	スクラッチによる応用プログラミング	スクラッチでプログラミング	2 時間	スクラッチでプログラムを作る	2 時間
10	WeDo2.0 によるプログラミング基礎	WeDo2.0 について	2 時間	WeDo2.0 のブロックプログラミング	2 時間
11	WeDo2.0 によるプログラミング応用	WeDo2.0 について	2 時間	WeDo2.0 のブロックプログラミング	2 時間
12	マインドストーム EV3 によるロボットプログラミングⅠ	EV3 について	2 時間	WeDo2.0 で応用プログラム作成	2 時間

	13	マインドストーム EV3 によるロボットプログラミングⅡ	EV3 の特徴	2 時間	EV3 のブロックプログラミング	2 時間
	14	マインドストーム EV3 によるロボットプログラミングⅢ	EV3 のブロック	2 時間	EV3 の応用ブロックプログラミング	2 時間
	15	プログラミング課題	全体のまとめ	2 時間	プログラミング課題に取り組む	2 時間
成績評価		課題・レポート（50%）、指導案（15%）、授業への取り組み（35%）				
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法		試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。				
テキストおよび参考文献		適宜プリントを配布する				
メッセージなど		2020 年から小学校でも必修化されたプログラミング教育について実践的に学ぶことが出来ます。				

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	15%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み（知識・理解）	15%
(2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。	プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができているが、それを十分に実践することができない。	プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	20%
	プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができているが、それを十分に実践することができない。	プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。	授業への取り組み（関心・意欲・理解・思考力）	20%
(3) プログラミング教育について理解し実践できる。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	15%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	指導案（関心・意欲・理解・思考力）	15%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
進路指導の理論と指導法 Theory and Method of Career Consulting		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2031	2年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
講義	2	選択	加藤 浩久		○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマポリシーとの関係		
	(1) 学んだことをこれからの生活に生かし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身に付け、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4)教育実習、学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5)様々な教育課題について意欲的に学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6)他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いのよさを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	小学校・中学校における進路指導の理論や発達段階に応じた具体的な指導方法について、自らの教育体験を素材として活用しながら、体系的・組織的に学ぶ。 近年、キャリア教育への転換が図られていることから、進路指導をキャリア教育の視点から再構築していく。

到達目標	
	(1)戦前から現在までの進路指導の変遷について説明できる。
	(2) キャリア教育の成果と課題について説明できる。
	(3) キャリア教育の今後の在り方について、PBL を中心に説明することができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	職業指導から進路指導へ、進路指導からキャリア教育へと変わっていった経緯について考察する。	キャリア教育という概念について調べる。	2時間	キャリア教育の現代的な意味についてまとめる。	2時間
2	キャリア教育が求められるようになった理由を社会的背景との関連から考察する。	キャリア教育を始めるに至った背景を調べる。	2時間	教育課程意義についてもまとめる。	2時間
3	これまで実践されてきたキャリア教育の現状を知るとともに、その課題について考察する。	職場体験学習を核とした事例を調べる。	2時間	「形骸化」という視点からまとめる。	2時間
4	キャリア教育がその育成をめざす「職業観、勤労観」について理解する。	「職業観」「勤労観」という概念の辞書的な意味を調べる。	2時間	目標、理念としてまとめる。	2時間

	5	小学校の教科を通したキャリア教育の在り方について考察する。	課題解決型、問題解決型の授業展開と実際の仕事との関係について考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	6	中学校の教科を通したキャリア教育の在り方について考察する。	課題解決型、問題解決型の授業展開と実際の仕事との関係について考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	7	生活科を通したキャリア教育の在り方について考察する。	未分化、統合というキーワードを手掛かりに考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	8	特別の教科道徳を通したキャリア教育の在り方について考察する。	勤労という概念に対する道徳的意味について考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	9	小学校の総合的な学習の時間を通したキャリア教育の在り方について考察する。	見学中心の学習の在り方を見直す。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	10	中学校の総合的な学習の時間を通したキャリア教育の在り方について考察する。	職場体験活動に重心を置いた取組を見直す。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	11	小学校の特別活動を通したキャリア教育の在り方について考察する。	学級や児童会の組織（職場）としての性格を考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	12	中学校の特別活動を通したキャリア教育の在り方について考察する。	学級や生徒会の組織（職場）としての性格を考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	13	高等学校で行うべきキャリア教育の在り方について考察する。	主体性という視点から、小中学校との違いについて考察する。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	14	PBLの形をとって行うキャリア教育の在り方について考察する。	PBLという学習の在り方を調べる。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
	15	これまでの学習をふり返り、キャリア教育の今後の在り方について考察する。	問題解決学習という視点から学習を振り返る。	2時間	実践事例のイメージを描き、指導案の形にまとめる。	2時間
成　績　評　価		定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（40%）				

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：『学校教育とキャリア教育の創造』学文社 参考文献：文部科学省『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』教育出版 文部科学省『キャリア教育のススメ』東京書籍
メッセージなど	急激な社会の変化で、進学や就職に自己を見失いがちな時代の進路選択について、教える立場からの理解だけでなく、自分自身のキャリア発達も見つめながら学ぶ授業。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)戦前から現在までの進路指導の変遷について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2) キャリア教育の成果と課題について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) キャリア教育の今後の在り方について、PBL を中心に説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生徒指導と教育相談 Student Consulting and Educational Consulting	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTS2032	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	沖林 洋平	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	生徒指導や教育相談の本来的な狙いである一人一人の個性の伸長、社会的スキルや行動力を高めるための教育的活動について理解する。 児童の発達の状況に即した、カウンセリング的な関わりの意義や基本的な方法を身につける。
到達目標	(1)生徒指導と教育相談の意義や原理を理解する。 (2)課題を抱える児童への指導を理解する。 (3)生徒指導や教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生徒指導と教育相談とは何か概要を知る	—	—	生徒指導と教育相談の違いについてまとめる。	2時間
2	生徒指導と教育相談の関連性を学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を整理する	2時間	生徒指導と教育相談の相補的関係をまとめる。	2時間
3	教育相談とチームアプローチについて学ぶ	チームアプローチで重要なことを調べる	2時間	教育相談をチームアプローチで行う意義をまとめる	2時間
4	教育相談に関連する専門家について学ぶ	教育相談に関連する専門家について調べる。	2時間	教育相談に関連する専門家について整理する。	2時間
5	担任、養護教諭、管理職、SC、SSW、保護者の役割について学ぶ	それぞれの専門家の専門分野について調べる。	2時間	専門家同士の連携が奏功した事例を振り返る	2時間
6	教育相談センター、通級指導教室、適応指導教室について学ぶ	それぞれの組織の専門性について調べる	2時間	専門機関同士の連携が奏功した事例を振り返る	2時間
7	医師・学校ボランティア、児童相談所、フリースクールについて学ぶ	それぞれの専門性について調べる。	2時間	それぞれの専門性が生かされた事例を振り返る	2時間
8	児童期・思春期の心身の発達について学ぶ	児童期・思春期の心身の発達について調べる	2時間	児童期と思春期の心身の発達の特徴をまとめる。	2時間
9	児童期・思春期の認知・学習の発達、対人関係の発達について学ぶ	児童期・思春期に特徴的な認知・対	2時間	児童期と思春期の対人関係の変	2時間

			人関係様式について調べる		化についてまとめる	
	10	教育相談における基本スキルであるホールドする・傾聴する・つなぐ／つながるといったスキルについて学ぶ	カウンセリングの基本スキルについて調べる	2時間	基本的スキルを身近な人との間で練習する	2時間
	11	不登校・非行・いじめ、発達障害などの問題に対するアプローチについて学ぶ	不登校･非行等に対するアプローチ方法を調べる。	2時間	不登校･非行等に対するアプローチ方法をまとめる	2時間
	12	自然災害や事件・事故などの危機に対するアプローチについて学ぶ	学校が遭遇する可能性のある危機を調べる	2時間	危機への対応事例を取り上げ対応法をまとめる	2時間
	13	アタッチメントに関わる問題や児童虐待へのアプローチについて学ぶ	愛着の課題を持つ児童や虐待への対応を調べる	2時間	児童虐待への対応事例についてまとめる	2時間
	14	保護者へのアプローチについて	保護者支援を行う意義について調べる。	2時間	保護者を間接的に支援した事例をまとめる	2時間
	15	まとめ	生徒指導と教育相談についての学びを振り返る	2時間	教育相談を実践する上での課題をまとめる	2時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：ガイドブック　あつまれ！みんなで取り組む教育相談　明石書店 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』、文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	生徒指導と教育相談の本来的な意味を知り子どもたちが生きる力を身につけていくための教育や子どもたちの指導、支援の実践について学んでいきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)生徒指導や教育相談の意義や原理を理解する。	生徒指導の意義や原理を十分に説明することができる。	生徒指導の意義や原理を概ね説明することができる。	生徒指導の意義や原理について最低限の説明はしている。	生徒指導の意義や原理を説明することができない。	定期試験 （知識・理解）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	15%
(2)課題を抱える児童への指導を理解する。	課題を抱える児童への指導について十分に説明することができる。	課題を抱える児童への指導について概ね説明することができる。	課題を抱える児童への指導について最低限の説明はしている。	課題を抱える児童への指導について説明することができない。	定期試験 （知識・理解）	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十	問題意識をもって講義に参加し、それを概	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現す	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力･判断力･	20%

	分に表現することができる。	ね表現することができる。	ることが不十分である。		表現力）	
(3)生徒指導や教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について十分に説明することができる。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について概ね説明することができる。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について最低限の説明はしている。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について説明することができない。	定期試験 （知識・理解）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別支援教育 Special Support Education	児童教育学科 幼児教育学専攻	25ECUI1010	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	竹内 幹雄	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	発達障害を含む様々な障害や、その他の要因により特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の心身の発達、障害の特性を理解するとともに、学習上、生活上の困難とその背景について理解する。その上で、特別の支援を必要とする幼児児童生徒が、達成感をもちながら学び、生きる力を身につけることができるよう、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用の方法について、事例に基づき実践的に学んでいく。さらに、インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度や法令の内容を理解し、個別の教育的ニーズに対して学校における組織的な支援体制の在り方、関係機関との連携の在り方についても理解を深める。
到達目標	(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 (1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。 (1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。 (2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。 (2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 (2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 (2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 (3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別支援教育の歴史について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間
2	特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間
3	障害児の理解（1）　概念と就学基準について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間
4	障害児の理解（2）　心理と行動特性について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間

	5	特別支援教育の場について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	6	特別支援教育の教育課程について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	7	障害児の教育支援（1）学習指導要領、指導計画の作成を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	8	障害児の教育支援（2）自立活動、日常生活の指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	9	障害児の教育支援（3）各教科、遊びの指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	10	個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	11	特別支援学級における教育の実際について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	12	特別支援学校における教育の実際について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	13	障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	14	障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	15	特別支援教育にかかわる専門性について考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（知識・理解）（50%）、毎回の授業の態度・振り返り（意欲・思考力）（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かれた感想や質問について、代表的なものをピックアップし次の授業時にコメントする。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」 （令和 5 年 3 月文部科学省厚生労働省内閣府）HP 参考文献：『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部（平成 30 年 3 月　文部科学省）』
メッセージなど	特別支援教育は、人として生きていくうえで、最も大切な教育の一つです。令和５年３月に出た資料を使って重要な情報を一緒に学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	11%
(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	11%
(2)-2)「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%

(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
ボランティア実習 Volunteer Practice	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTP1005	1年次 2年次	後期 前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	2	選択	正長 清志	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	「ボランティア実習」は、介護等体験の実習の事前・事後指導として行う学内での授業と、介護等体験実習として、特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間の学外での実習から成る。「教師」という職業の「資質能力」とは何かを講義や実習を通して学ぶ。
到達目標	(1)「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。 (2)「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。 (3)「介護等体験実習」を行い、多様な人との交流を通し、一人一人の尊厳を大切にして関わることができる。 (4)「介護等体験実習」を終えて、教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にすることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（授業の目的、到達目標等の説明）	介護等体験実習の概要を調べる		授業計画と内容の把握	2時間
2	特別支援学校での学びについて	授業の概要を読み、自分の課題を立てる。	2時間	特別支援学校についてまとめる。	2時間
3	社会福祉施設での学びについて	実習を希望する社会福祉施設について調べる。	2時間	授業内容をまとめる。	2時間
4	手話のいろはと演習	簡単な手話の動作を調べる。	2時間	手話を使って挨拶の練習を行う。	2時間
5	介護等体験実習に出るまでの実際、実習希望調査・プロフィール作成	実習までに実習計画や心構えを明確にしておく。	2時間	実習希望調査を充実させる。	2時間
6	実習を経験した先輩からのアドバイス～実習に向けた目標設定と心構え～	先輩からのアドバイスを読む。	2時間	実習日誌の確認と実習目標と課題をまとめる。	2時間

	7	実習希望調査の発送準備	自身の実習スケジュールを明示しておく。	2時間	実習希望調査を完成せる。	2時間
	8	オリエンテーション ①１年後期の振り返り ②２年前期の「ボランティア実習」の計画・評価、等について	1 年次の授業資料を読みかえす。	2時間	授業内容のまとめをする。	2時間
	9	特別支援学校への実習申込み 特別支援学校プロフィール記入 社会福祉施設の実習日程確認	自身のスケジュールを整理しておく。	2時間	プロフィールを完成させる。	2時間
	10	車椅子の使い方（実習）１（基本・応用）	車いすの機能について調べる。	2時間	車いすの操作と注意点についてまとめる。	2時間
	11	特別支援学校・社会福祉施設での実習の在り方と日誌の書き方（実習を充実させるための「い・ろ・は」）	実習先への事前訪問の連絡とそのまとめをする。	2時間	実習日誌の書き方のまとめをする。	2時間
	12	介護等体験の実習の心構え ～「社会福祉施設のてびき」～	実習先の概要を調べておく。	2時間	実習に向けての心構えをまとめる。	2時間
	13	障害者の自立を考える	障害者施設について復習をしておく。	2時間	授業内容をまとめる。	2時間
	14	社会福祉施設の実習の準備 （事前オリエンテーション、検便、健康診断、プロフィール(目標の設定)）	自分のスケジュールを確認しておく。	2時間	社会福祉施設のプロフィールを完成させる。	2時間
	15	今後の実習に向けての最終確認	実習のスケジュールと持参物の確認をする。	2時間	実習で学んだことを発表する。	2時間
	※介護等体験実習において、特別支援学校に 2 日間、社会福祉施設に 5 日間実習に行く。 なお、実習の直前には学内の事前オリエンテーションを行う。実習先によっては事前オリエンテーションが別日にある。					

成　績　評　価	授業への取り組み（50%）、その他（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内で介護等体験実習の振り返りを行う。
テキストおよび参　考　文　献	授業時に指示する。
メッセージなど	教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えること。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。	「介護体験実習」の意義を理解しており、各施設について十分に調べられている。	「介護体験実習」の意義を理解し、各施設について大きな問題なく調べられている。	改善の余地はあるものの実習の意義を理解し、各施設を調べることができている。	「介護体験実習」の意義の理解と各施設についての調べができていない。	授業への取り組み（意欲・態度・知識・思考力・表現力）	15%
(2)「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。	実習に必要な書類作成ができ、社会人基礎力を養うことができている。	大きな問題なく書類作成ができ、社会人基礎力を養えている。	改善の余地はあるものの書類作成ができ、社会人基礎力を身につけている。	書類作成が完成できず、最低限度の社会人基礎力を身につけられていない。	授業への取り組み（意欲・態度・知識・思考力・表現力）	15%
(3)「介護等体験実習」を行い、多様な人との交流を通し、一人一人の尊厳を大切にして関わることができる。	明確な目的意識をもって実習に取り組み、一人一人の尊厳を大切に関わることができる。	自分なりに目的意識を持って取り組み、人の尊厳を大切に関わることができている。	目的意識は浅いが意欲的に実習に取り組み、人の尊厳を大切に関わろうとしている。	実習の取り組み方に課題があり、人の尊厳を大切にした関わりができていない。	その他（関心・意欲・態度・理解）	50%
(4)「介護等体験実習」を終えて、教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にすることができる。	教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にできている。	教師の資質につながる自らの課題をいくつか見つけることができている。	実習を通して、自分なりの課題を見つけることができている。	自らの課題を見つけることができていない。	授業への取り組み（理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育実習指導 Study of Practical Teaching at Elementary School		児童教育学科 初等教育学専攻	25 EPTP1001	１年次 ２年次	後期 前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	1	選択	中村 浩・加藤 浩久		

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	学習指導の知識を生かし、模擬授業にチャレンジすることで、教壇に立つ準備を進めるとともに、指導主事による「学習指導」「生徒指導」「人権教育」の講義や市内公立小学校における参観実習などを通して、教育現場の実態にも直接ふれ、教師として必要な資質や能力の向上を図り、教師となる心構えを培っていく。
到達目標	(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。 (2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。 (3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 中村	教育実習に向けての心構えを考える	2 時間	教育実習に向けての準備、予定についてまとめる	2 時間
2	教育実習の意義と目的 中村	教育実習の意義と目的について資料を読む	2 時間	教育実習の意義と目的について、まとめる	2 時間
3	教育実習の内容 中村	教育実習の内容について資料を読む	2 時間	教育実習の内容について、まとめる	2 時間
4	授業づくりの基礎を学ぶ(1) 中村	指導案作りについての資料を読む	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
5	授業づくりの基礎を学ぶ(2) 中村	前時の復習より、発問、資料、板書の課題をまとめる	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
6	教育実習について先輩に学ぶ 中村	教育実習の過去の体験談の資料を読む	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
7	小学校参観実習(1) －参観実習の説明－ 中村	小学校参観実習校の学校要覧を読む	2 時間	参観実習校の学校要覧について、まとめる	2 時間
8	小学校参観実習(2) －校長講話－ 中村	参観実習校の概要について、資料を読む	2 時間	校長講話の気づき、感想をまとめる	2 時間

	9	小学校参観実習(3) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる	2時間
	10	小学校参観実習(4) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる	2時間
	11	市教委講話 －学習指導－ 中村	学習指導について、資料を読む	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2時間
	12	市教委講話 －生徒指導－ 中村	生徒指導について、資料を読む	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2時間
	13	参観実習･学習指導･生徒指導の振り返り　中村	参観実習、学習指導、生徒指導の資料の読み直し。	2時間	参観実習、学習指導、生徒指導の資料の読み直し	2時間
	14	実習日誌と実習生プロフィールの作成　中村	実習生プロフィールについて、まとめる。	2時間	実習生プロフィールについて、まとめる。	2時間
	15	本授業を振り返って　中村	発表資料をまとめる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	オリエンテーション 中村	15回の授業の見通しを立てる。	2時間	模擬授業の進め方などまとめる。	2時間
	17	模擬授業の説明と準備　中村	模擬授業に向けての心構えを書く。	2時間	模擬授業の進め方についてまとめる。	2時間
	18	模擬授業(1) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
	19	模擬授業(2) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
	20	模擬授業(3) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
	21	模擬授業(4) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
	22	模擬授業(5) ―授業実践と協議―　中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
	23	小学校参観実習(1) －参観実習の説明－ 中村	参観実習校の概要について、資料を読む。	2時間	参観実習校の概要について、まとめる。	2時間
	24	小学校参観実習(2) －校長講話－ 中村	参観実習の準備。	2時間	校長講話の気づき、感想をまとめる。	2時間
	25	小学校参観実習(3) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備。	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる。	2時間
	26	小学校参観実習(4) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備。	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる。	2時間
	27	市教委講話 －人権教育－ 中村	人権教育について、資料を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間

	28	参観実習･人権教育の振り返り 実習校への事前打合せについて 中村	参観実習、人権教育の資料の読み直し。	2時間	実習校への事前打ち合わせについて、内容をまとめる。	2時間
	29	実習日誌の書き方について 実習生プロフィールの作成　中村	実習日誌の書き方について、確認する。	2時間	実習日誌の書き方について、内容をまとめる。	2時間
	30	実習中の健康管理について 教育実習の心構え　中村	実習中の健康管理と心構えについて、まとめる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
成績評価		課題・レポート（25%）、授業への取り組み（50%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（15%）、その他（10%）				
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等)に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。課題、レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社				
メッセージなど		教育実習のための準備を行います。実習に関する重要書類や手続きに関することも含みます。ひとつひとつ丁寧に積み上げ、教育実習へ行くことの意味を理解し、教育に携わることの使命感と緊張感をもてるようになりましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。	教壇に立つ準備がほぼできている。	基本的な準備はできている。	最低限の準備はできている。	準備ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	50%
(2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。	社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようと努力している。	大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。	さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。	最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%
	社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようと努力している。	大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。	さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。	最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。	その他（関心・意欲・態度）	10%
(3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。	様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。	いくつかの角度から、自己の課題を把握している。	１つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握していない。	模擬授業、ロールプレイ（思考力・判断力・表現力）	15%
	様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。	いくつかの角度から、自己の課題を把握している。	１つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握していない。	課題・レポート（関心・意欲・態度）	5%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育実習 Practical Teaching at Elementary School		児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTP2003	２年次	後期 （集中）
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
実習	4	選択	中村 浩・加藤 浩久		

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	

概　要	子どもの発達や心理、教員の業務や学校組織についての理解を深め、確かな学習指導や生徒指導ができるようになるため、小学校の現場において４週間の実地実習を行う。

到達目標	(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。
	(2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。
	(3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どもの発達や心理について理解し、実際に子どもたちとふれあう。	子どもの発達や心理についての資料を読む。	2時間	実習日誌で子どもたちとのふれあいの振り返りをする。	2時間
2	教材研究をし、学習指導案を作成し、教科指導を行い、授業技術を磨く。	教材研究をし、学習指導案を作成する。	2時間	実施した授業について振り返りをする。	2時間
3	学級経営、生徒指導について理解し、学級経営力を身に付ける。	学級経営、生徒指導についての資料を読む。	2時間	実習日誌で学級担任としての仕事について振り返りをする。	2時間
4	道徳、特別活動について理解し、授業実践を行う。	道徳、特別活動の学習指導案を作成する。	2時間	実施した授業について振り返りをする。	2時間
5	校務分掌、学校事務、ＰＴＡ、地域社会等について理解を深める。	実習校の状況について資料等で確認する。	2時間	学校教育活動について全般的に振り返る。	2時間
6	国民に託された教育者としての自覚をもつ。	教師としての心構えについて、資料を読む。	2時間	めざす教師像について、考えをまとめる。	2時間

※実習時期　基本的に、２年次１０月に小学校での実習（４週間）を行う。

成　績　評　価	指導案（10%）、その他（90%）
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	教育実習中の訪問指導の際に、実習校の校長、指導教官等からの気づき、教育実習日誌等に基づき、本人に指導助言を実施する。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：実習校で渡される各種の資料
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	小学校の教壇に立って実際に授業をするという得がたい経験のできる科目です。使命感と緊張感をもって取り組む真剣勝負のキャリア教育そのものです。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。	教師としての自覚をもった言動ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえた言動ができる。	さらに自覚が必要だが、最低限の言動ができる。	教師としての適性が見られない。	その他 （関心・意欲・態度・知識・理解）	60%
(2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。	子どもたちとの信頼関係を築けている。	大きな間違いがなく、子どもたちと基本的な関係は築けている。	さらに努力は要するが、最低限の関係は築けている。	関係を築けない。	その他 （関心・意欲・態度）	20%
(3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。	ほぼ完璧に授業ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。	さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。	授業ができない。	その他 （知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に授業ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。	さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。	授業ができない。	指導案 （知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学校体験活動 School Internship	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTP1002	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	1	選択	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	

概　要	小学校教諭を目指す学生が、小学校で生活する児童の姿や学校の環境を観察するとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童の実態と小学校の教育活動の特色を理解することを目的とする。

到達目標	(1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
	(2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。
	(3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
	(4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　学校体験活動とは（中村）	学校体験活動について先輩の報告書を読む。	2時間	学校体験活動の概要をまとめる。	2時間
2	事前指導①学校体験活動にむけての準備（プロフィール作成）（中村）	学校体験活動の心構えについてまとめる。	2時間	学校体験活動校の学校要覧をまとめる。	2時間
3	事前指導②学校体験活動実施校を知る（中村）	プロフィール作成に向けて必要事項を確認する。	2時間	プロフィールを完成させる。	2時間
4	事前指導③学校体験活動にむけての準備（心構え、出勤簿、記録など）（中村）	学校体験活動の目標についてまとめる。	2時間	学校体験活動に必要な物を準備する。	2時間
5	事後指導　学校体験活動の報告会（中村）	学校体験活動の報告書を作成する。	2時間	学校体験活動の振り返りをする。	2時間

※　授業の日程は提示します
※　実習時期　基本的に1年次の9月に防府市内の小学校での体験活動(5日間)

成　績　評　価	授業への取り組み（25%）、グループワーク・グループ討議（30%）、その他（45%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	学校体験活動の訪問指導の際に、活動校、指導教官からの気づき、体験活動日誌、事後の振り返りに基づき、本人に指導助言を実施する。
テキストおよび参　考　文　献	授業時に指示
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	実際に小学校で先生の仕事を体験するために準備をしっかりしましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。	事前指導の内容について、資料にまとめるなど整理をしており、理解を深め、また自分の言葉で述べることができる。	事前指導で理解の内容を自分なりに整理し、言葉で述べることができる。	事前指導の内容について指導・助言を受けながら、理解している。	事前指導の内容について理解できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	25%
(2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	10%
	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。	その他（思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。	学級担任の役割と職務内容を実地に即して十分に理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、実地の内容を整理し、具体的に発表することができない。	グループワーク・グループ討議（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
	学級担任の役割と職務内容を実地に即して十分に理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、実地の内容を整理し、具体的に発表することができない。	その他（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	15%
(4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わることができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	10%
	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わることができない。	その他（思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教職実践演習（小学校） Practice of Teaching Profession (Elementary School)	児童教育学科 初等教育学専攻	25EPTP2004	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	中村 浩・加藤 浩久	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　要	短大２年間で学んだ学習知と教育実習で得られた教科指導力や生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の向上とその確認を行う。

到達目標	(1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。
	(2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。
	(3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －教育実習の礼状の書き方－（中村）	教育実習の振り返りをする	2 時間	教育実習の礼状を作成する	2 時間
2	教育実習報告会(1)－教育実習で学んだことの発表と意見交換－（中村）	教育実習の振り返りをする	2 時間	教育実習の報告会資料を作成する	2 時間
3	教育実習報告会(2)－教育実習で学んだことの発表と意見交換－（中村）	教育実習の振り返りをする	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
4	教育実習で学んだことを伝える－教育実習で学んだことを後輩へ伝える－（中村）	教育実習で学んだことの発表準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
5	模擬授業(1) －査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
6	模擬授業(2)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
7	模擬授業(3)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
8	模擬授業(4)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
9	模擬授業(5)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間

	10	模擬授業(6)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	11	模擬授業(7)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	12	模擬授業(8)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	13	模擬授業(9)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	14	模擬授業(10)－査定授業の再現と研究協議－（中村・加藤）	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	15	本授業を振り返って －到達度の確認と今後の課題の発見－ （中村）	15 回の授業資料を読み直す	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（20%）、グループワーク・グループ討議（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：教育実習報告会資料
メッセージなど	本学で教員免許を修得するための最終的な評価の授業です。教育実習を含め本学で学んだことを総合的に判断し、教員免許修得者としてふさわしいか、また、今後、教員としてやっていけるかどうかを判断する実践的な授業です。教育実習で学んだことをもとに授業を構成するので教育実習の経験が物を言います。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。	教師としての資質・能力が磨かれている。	教師としての基本的な資質・能力が見られる。	教師としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	教師としての適性が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
(2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	その場にいない。	模擬授業、ロールプレイ（思考力・判断力・表現力）	30%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	その場にいない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力・表現力）	30%

幼稚園教諭二種免許状に関わる科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と健康 Young Children and Health	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1008	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		佐伯　里英子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	幼児期における健康や発達について学び、仲間と協力して子どもの発達を促す工夫について話し合うことを通して、健康への理解を深める。また、児童期における健康や発達にも触れ、小学校との接続についても検討する。

到達目標	(1) 幼児期のからだ・健康・発達について理解を深めることができる。
	(2) 幼児期における健康や発達を促す実践力を養うことができる。
	(3) 幼児が主体的に取り組めるような保育実践を提案することができる。

授業内容と進め方（前期）

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	前期オリエンテーション 健康領域で学ぶこととその意義	シラバスを読む。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
2	子どものからだと発達 （味覚・触覚）	味覚､触覚について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
3	子どものからだと発達 （食べるということ）	食について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
4	子どものからだと発達 （脚・土踏まず）	土踏まずについて調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
5	子どものからだと発達 （睡眠）	睡眠について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
6	子どものからだと発達 （子どもの体温）	体温について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
7	子どものからだと発達 （自律神経）	自律神経について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
8	子どものからだと発達 （歯と噛むこと）	子どもの歯について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間

	9	子どものからだと発達 （食のありかた）	子どもの食事について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	10	子どものからだと発達 （食物アレルギー）	食物アレルギーについて調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	11	子どものからだと発達 （食の歴史とその意味）	食の歴史､昔の知恵について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	12	子どものからだと発達 （食の安全）	食品添加物について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	13	子どものからだと発達 （排便）	子どもの排便について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	14	子どものからだと発達 （感覚統合）	感覚統合について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	15	前期まとめ（前期の学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
授業内容 と 進め方 （後期）	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	後期オリエンテーション	前期の学習内容を見直しておく。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	17	子どもにとって遊びとは	子どもの遊びの意義について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	18	幼児期の運動遊び （新聞紙・紙袋を使って遊ぶ）	新聞紙での遊びを考える。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	19	幼児期の運動遊び （バスタオル・タオルであそぶ）	バスタオルでの遊びを考える。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	20	運動遊びの場づくり （ラダーをつくって遊ぶ）	ラダーでの遊び方を考える。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	21	生と性の健康について	人の性について疑問をまとめる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	22	「いのちの安全教育」について	文科省の資料を読む。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	23	人の性・いのちにかかわるからだのしくみ	生殖の性について調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間
	24	多様な性・多様な家族	ジェンダーについて調べる。	2時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2時間

	25	自分を守るために	性犯罪の現状を調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	26	子どもの性の疑問	子どもに伝えておく性の話を考える。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	27	健康紙芝居づくり	学んだことを整理し､紙芝居にまとめる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	28	健康紙芝居づくり	発表の準備	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	29	健康紙芝居づくり（発表）	発表の準備	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	30	後期まとめ（後期の学習の成果をレポートにまとめる）	後期の学習内容を整理する。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、毎回の授業の振り返り（30%）、授業への取り組み（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	コメント（口頭、記述）によるフィードバックを行う。
テキストおよび参　考　文　献	必要があれば、適宜プリントを配布する。 幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）　文部科学省　フレーベル館　2018 保育所保育指針（平成 29 年告示）　厚生労働省　フレーベル館　2017
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　ど	保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目 領域「健康」のねらいや内容等を理解し、具体的な保育の方法を考えたり実践力を養ったりしてほしい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児期のからだ・健康・発達について理解を深めることができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%
(2) 幼児期における健康や発達を促す実践力を養うことができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	30%
(3) 幼児が主体的に取り組めるような保育実践を提案することができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	期末レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と人間関係 Relationships with infants		児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1010	1年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員		実務家教員
演習	1		平田　睦美		○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	幼児を取り巻く様々な社会的問題や実際の姿を考察することを通じて、人間関係の発達のために必要な事柄について理解を深める。領域「人間関係」の基本的事項を学習し、人とかかわる筋道を理解し、子どもの姿を捉える視点について学ぶ。

到達目標	幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
	乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
	自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。
	家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容・内容の取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	領域「人間関係」のねらいや内容についてまとめる。	2時間
	2	幼児を取り巻く人間関係と現代的特徴とその社会的背景について理解する。	幼児の人間関係について考えをまとめる。	2時間	「幼児を取り巻く人間関係」について授業で学んだことをまとめる。	2時間
	3	自分や周りの人などとの関係性の中から、印象的な場面を取り上げ、グループで紹介し合い、様々な場面の人間関係について考えを深める。	自分の生活の中で印象的な人とのかかわりについて考える。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	4	０～２歳児における人とのかかわりの姿の映像を通して、人間関係の発達の姿を考察する。	保育所保育指針解説 P101～109、「乳児の社会的発達に関する視点」P135～144「人との関わりに関する領域」を読み、人間関係の発達の過程を考えておく。	2時間	授業で視聴した映像記録をまとめる。	2時間

	5	幼児期の遊びや生活の映像を通し、その中にみられる人とかかわる力の育ちについてグループで話し合い、理解する。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読み、幼児の人と関わる姿について気付いたことをまとめておく。。	2 時間	授業で視聴した映像記録をまとめる。	2 時間
	6	自我の芽生えから自立へ向かう過程について映像や事例を通して理解し、保育者の援助について学ぶ。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読み、幼児が自立へ向かう過程について考えをまとめる。	2 時間	授業で視聴した映像や事例についてまとめる。	2 時間
	7	子ども同士のトラブルやいざこざの実際の場面を映像や事例から考え、幼児の発達とどのように関係しているかをグループで話し合い探る。	子ども同士のトラブルやいざこざにはどのような場面があるか考えておく。	2 時間	「子ども同士のトラブルやいざこざ」についてグループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	8	幼児の仲間意識の形成と協同する存在へと変容する過程をグループで話し合い理解し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読み、幼児の仲間関係の発達についてまとめる。	2 時間	「幼児の協同性」の発達についてグループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	9	個の育ちと集団の育ちについての関係性を映像や事例を通して考察し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読み、個と集団の育ちの関係について考えをまとめる。	2 時間	授業で視聴した映像や事例についてまとめる。	2 時間
	10	人とのかかわりが難しい子どもに対して、様々な事例を通しその要因について理解し対応について考察する。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読み、かかわりが難しい子どもとはどのような子どもなのかを考えておく。	2 時間	授業で紹介した事例から考えたことをまとめる。	2 時間
	11	幼児が葛藤体験を通し、きまりの重要性を理解したり、気持ちを調整し折り合いをつけたりする過程について理解し道徳性・規範意識の芽生えの関係性について考える。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読み、道徳性、規範意識の芽生えを培うために大切なことを考えておく。。	2 時間	「幼児の道徳性・規範意識の芽生え」について授業を振り返り、自分の考えをまとめる。	2 時間
	12	小学校との連携や地域の様々な人々との交流の意義について考え、実際の事例を通してそのあり方や保育者の役割を学ぶ。	地域との交流はどのようなものがあるか調べる。	2 時間	友達の発表を聞き、地域との交流活動についてまとめる。	2 時間
	13	保護者との連携について事例を通してグループで話し合い子どもの育ちを支える上で大切であることを理解し、保護者との関係づくりについて学ぶ。	保護者との連携について自分の考えをまとめる。	2 時間	「保護者との連携」についてグループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	14	保育者同士が連携しながら保育にあたることや情報を共有することが子どもの生活に極めて重要であることを理解する。	保育者同士の連携について自分の考えをまとめる。	2 時間	「保育者同士の連携」について授業を振り返り、要点をまとめる。	2 時間
	15	授業内容を振り返り学びを整理しながら、人とかかわる力を育てる保育者の役割や現代的課題について自分の考えをまとめる	15 回の資料を読み直す。	2 時間	15 回の授業を振り返り、学んだことをまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験(50%)、レポート（30%)、授業への取組 (20%)
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト　：『幼稚園教育要領』(平成 29 年 3 月　告示　文部科学省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省)、『保育所保育指針』(平成 29 年 3 月　告示　厚生労働省)、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月　文部科学省）フレーベル館、『保育所保育指針解説』(平成 30 年 3 月　厚生労働省）フレーベル館 参考文献　：　『事例で学ぶ保育内容　領域　「人間関係」』無藤隆　監修 岩立京子　編集代表　萌文書林
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	人が成長し生きていくためには、人間関係が極めて重要な要因です。人間関係の発達のために必要な事柄を映像や事例の幼児の姿から考え、学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 （知識･理解）	20%
(2)乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 （知識･理解）	15%
(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 （知識･理解）	15%
(4)自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性･規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート （思考力・判断力･表現力）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組 （関心･意欲･態度）	10%
(5)家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート （思考力・判断力･表現力）	15%

	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と環境 Toddlers and the environment	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1011	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1		玉木 晃子	○

実務家教員の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　要	幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達について、事例や映像を通して、幼児の実際の姿から学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	
	(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	
	(3) 乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	
	(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	
	(5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日々の生活を基に環境の関係性についてグループで考え、環境の意味を理解する	幼児を取り巻く環境について自分のイメージしたことをまとめる	2 時間	生活と環境の関係性についてまとめる	2 時間
2	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について具体的に学ぶ	幼稚園教育要領解説第２章「環境」を読む	2 時間	領域「環境」のねらいや内容を復習する	2 時間
3	実際の保育現場での保育室の環境構成の映像を見て、グループで話し合い､環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する	子どもを取り巻く環境について考える	2 時間	映像記録をまとめる	2 時間
4	乳幼児期の発達における環境との関わりについて映像を通して理解する	幼稚園教育要領解説第２章「環境」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる	2 時間
5	子どもの発達と環境とのかかわりについて理解する 誕生から満３歳まで	保育所保育指針解説第２章１，２を読む	2 時間	子どもと人やものとのかかわりについて理解する	2 時間

	6	大学内を散策し、見たり感じたり触れたりしながら子どもの触れる環境について考える	今時期の自然の様子（草花・虫など）について調べておく	2 時間	見つけたことを図で表し、グループで話し合ったことをまとめる	2 時間
	7	季節の自然物を使った遊びを体験する 自然物を使って作品をつくる	秋の自然物を探して持ってくる	2 時間	体験した遊び、作ったものに対してまとめる	2 時間
	8	子どもと自然（砂・土・水など）との関わりについて映像や事例を通して学び、自然体験活動の大切さを理解する	自然に関わる遊びを考えておく	2 時間	小麦粉粘土で遊んだ感想や粘土の種類についてまとめる	2 時間
	9	実際に花や野菜の栽培をし、どのように成長していくのか、そのためにはどのようなことが必要かについて学ぶ	自分が育てたい花や野菜の育て方について調べ、まとめておく	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる	2 時間
	10	子どもの周りにある身近なものについて考え、それらを使った遊びをしたり、実際につくってみたりする	身近なものにはどんなものがあるか考えてくる	2 時間	身近なものを使って何がつくれるかどんな遊びができるかまとめる	2 時間
	11	「数・量・図形」について、子どもが遊びや生活を通して学んでいく方法を理解する	「数・量・図形」に関わる遊びについて考えておく	2 時間	子どもが「数・量・図形」について学んでいく方法をまとめる	2 時間
	12	乳幼児を取り巻く標識・文字と子どもの生活について考え、どのようなものがあるか、具体的な場面や活動を学ぶ	乳幼児を取り巻く標識にはどのようなものがあるか調べておく	2 時間	子どもが標識や文字について学んでいく方法をまとめる	2 時間
	13	乳幼児期の生活に関係の深い情報や施設などについて調べ、それらにかかわる具体的な活動について考える	乳幼児期の生活に関係する施設について調べておく	2 時間	身近な情報誌にはどんなものがあるかまた子どもに関する情報があるかどうか調べる	2 時間
	14	クラスの保育環境について、自分なりに考え、グループ内で発表する	保育環境を構成したい年齢や時期を決め、構想を考えてくる	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる	2 時間
	15	幼児と環境の関わりについて振り返り、環境の重要性と課題についてまとめる	１５回の資料を読み直す	2 時間	振り返りシートによりまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への取組・グループワーク (20%)
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト ： 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』(平成 29 年 3 月告示　厚生労働省)、 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月　文部科学省）フレーベル館 参考文献　：田宮　縁　　体験する　調べる　考える　領域「環境」　萌文書林
メ　ッ　セ　ー　ジ　な　　ど	子どもたちは周囲の様々な環境に主体的にかかわる中で、発達に必要な経験をします。周囲の様々な環境とはどのようなものなのでしょうか。環境に関わる幼児の姿や、実際の環境を見たり、触れたり、考えたりすることを通して幼児にとっての環境の重要性について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	50%
(2)乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(3)乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組・グループワーク（関心・意欲・態度、思考力・表現力）	10%
(4)乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(5)乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組グループワーク（関心・意欲・態度、思考力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と言葉 Infant and Language	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1		中津 愛子	

実務家教員の詳細	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		
	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	

概　要	
	領域「言葉」の指導の基礎となる専門的知識を身に付けるため、次の３つをテーマとした授業を行う。 ①乳幼児期の言葉の発達と言葉の意義や機能を学ぶ。 ②言葉に対する感覚を豊かにするための実践の基礎を学ぶ。 ③言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を学ぶ。

到達目標	
	(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。
	(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。
	(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。
	(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。
	(5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。
	(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける
	(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領「言葉」の領域を読んでおく	2時間	伝え合う喜びが感じられる遊びを考える	2時間
2	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領「言葉」の領域を読んでおく	2時間	言葉の感覚を豊かにするための活動を考える	2時間
3	言葉による伝え合いや言葉遊び、文字への関心について学び、映像資料をもとに具体的な子どもの姿を理解する。	言葉の美しさ、楽しさが感じられる言葉の例を考える	2時間	言葉遊びの種類と遊び方、楽しさをまとめる	2時間
4	前言語期のコミュニケーションの発達について、映像資料を通して具体的な子どもの姿を理解する。	乳児の発達を調べる	2時間	新生児模倣、愛着の形成、共同注視をまとめる	2時間

	5	幼児期の言葉の発達過程について、映像資料をもとに具体的に子どもの姿を通して学ぶ。	幼児期の発達を調べる	2時間	幼児の言語発達の過程をまとめる	2時間
	6	映像資料をもとに、保育者の適切な言葉がけについてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	言葉を育てるための保育者の関わり方を考える	2時間	子どもの発達の姿にあった言葉がけについてまとめる	2時間
	7	保育場面の映像から、言葉を生み出す環境と豊かな体験についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	お店屋さんごっこを例に、言葉でのやりとりを考える	2時間	言葉が育まれる遊びの環境とおとなの役割についてまとめる	2時間
	8	子どもの言語障害について学び、映像を通して実際の子どもの姿を理解する。	子どもの言語発達に影響を及ぼす要因を調べる	2時間	言語発達障害、構音障害、吃音をまとめる	2時間
	9	言葉の遅れがみられる子どもへの援助、保育場面での配慮についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	言葉の遅れがある子どもへの関わり方を考える	2時間	言語発達の段階に応じた関わり方の工夫をまとめる	2時間
	10	児童文化財としての絵本・紙芝居の実践を行い、言葉の豊かさや楽しさを子どもたちがどのように経験するかをグループ討議する。	絵本・紙芝居 各1冊選び、読んでおく	2時間	各絵本・紙芝居のおもしろい点をまとめる	2時間
	11	ストーリーテリングの実践と、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びの実践を行い、言葉に関する感覚を高めることについてグループ討議を行う。	ストーリーテリングの練習を行う	2時間	ストーリーテリングの反省、改善点をまとめる	2時間
	12	ペープサートの作成とパネルシアターの実演を学ぶ。	ペープサートの作成を行う	2時間	ペープサートとパネルシアターの実演のポイントをまとめる	2時間
	13	言葉に対する感覚を豊かにするための ICT を用いた保育教材の作成を行う。	ICT を用いた保育教材を調べる	2時間	ICT を用いた保育教材を作成する	2時間
	14	幼児の児童文化財の意義を学ぶ。領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	児童文化財について調べる	2時間	5 つの領域の関連をまとめる	2時間
	15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解したうえで、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための幼児期の教育の重要性について、発表しあう。	「国語」のねらいと内容を調べる	2時間	言葉を豊かにするための幼児期の教育についてまとめる	2時間
成　績　評　価		授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、プレゼンテーション（30%）、定期試験（40%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。				
テキストおよび参　考　文　献		テキスト：事前配布資料、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内 閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社				

メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取りいれたアクティブラーニング型の授業です。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心、意欲、態度）	15%
(5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	プレゼンテーション（思考力・判断力、表現力）	30%
(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いはなく、おおよそ理解している。	最低限、理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議（関心、意欲、態度）	15%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と音楽表現 Infant and musical expression		児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1002	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
演習	1		木橋 奏子		

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	表現領域とは何か、幼児の音楽的な表現方法を、発達を理解しながら手あそび、わらべうた、リトミック等の知識を習得する。また具体的な例を例をあげながら、状況に適した表現方法を学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児の音楽表現に関する知識･技能を習得する。 (2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。 (3) 豊かな表現力､コミュニケーション能力を高め､自身の創造力や表現力を磨くことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	表現領域のねらい	領域「表現」について簡単に調べてくる	2 時間	課題レポート	2 時間
2	イメージから表現へのプロセス	教科書の「イメージから表現へのプロセス」を読んでくる	2 時間	イメージから表現へのプロセスをポートフォリオにまとめる	2 時間
3	幼児期における表現活動の芽生え	教科書の「幼児期における表現活動の芽生え」を読んでくる	2 時間	幼児期に活りまとめる	2 時間
4	手あそびの必要性（1）	手あそびを 2 つ調べてくる	2 時間	発表で練習できるようにしておく	2 時間
5	手あそびの必要性（2）	課題の手あそびを練習してくる	2 時間	手あそびの必要性をポートフォリオにまとめる	2 時間
6	幼児とわらべうた	わらべうたを 1 つ調べてくる	2 時間	幼児とわらべうたを分析の振り返りを考えた自分の学びをまとめる	2 時間

	7	リズムあそびと表現活動の関わり（1）	教科書の「リズムあそびと表現活動との関わり」を読んでくる	2時間	リズムあそびレポートを返却し、リズム振り返りをポイントまとめる	2時間
	8	リズムあそびと表現活動の関わり（2）	教科書の「リズムあそびと表現活動との関わり」を読みまとめ自分の考えをまとめておく	2時間	リズム動画を視聴し、リズム表現活動のポイントまとめる	2時間
	9	歌うことと聴き合うこと	輪唱の曲を一つ持ってくる	2時間	輪唱の歌い方のポイントをまとめる	2時間
	10	絵本と音楽	絵本を１つ持参する	2時間	絵本の読み聞かせ音楽表現のポイントをまとめる	2時間
	11	音楽の基礎知識	音楽の基礎知識、強弱・楽譜記号について理解しておく	2時間	基礎知識の振り返り音楽表現のポイントをまとめる	2時間
	12	リズムアンサンブル	手作り簡易楽器を作ってくる	2時間	アンサンブル楽器のポイントをまとめる	2時間
	13	テーマから表現する	各グループで制作テーマを決めてくる	2時間	発表に向けて準備をしておく	2時間
	14	表現活動のグループ発表	発表の準備をしてくる	2時間	発表を振り返りポイントまとめる	2時間
	15	なぜ「表現」をするのか考える	教科書の「表現」項目を読んで自分の考えをまとめておく	2時間	「表現」をいかに捉え、考えるのかをまとめることなぜするのか	2時間

成績評価	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）35% 課題・レポート（知識・理解）15%
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業計画表内のフィードバック欄に毎回記入をする。 レポートや配布資料を適切に管理し、予習復習に使用する。
テキストおよび参考文献	テキスト：表現指導法　上野奈初美　編著　萌文書林 参考文献：幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省） 保育内容　領域「表現」　堂本真実子　編　わかば社 子どものための音楽表現技術　今泉明美他編著 望月たけ美他　萌文書林
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。	ほぼ完璧に知識・技能を習得できる	大きな間違いなく、知識・技能を習得できる	最低限の知識・技能を習得できる	知識・技能を習得できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることが出来る。	ほぼ完璧に工夫や展開を考えることができる	大きな間違いなく、工夫や展開を考えることができる	最低限の工夫や展開を考えることができる	工夫や展開を考えることができない	グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）	30%
(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いなくできる	最低限できる	磨くことができない	課題・レポート（知識・理解）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と造形表現 Young Children and Plastic Arts Expressing	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1006	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		吉本　宏之	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　要	幼児の発達段階と造形表現の変化を関連づけながら、幼児期にふさわしい造形表現を援助するための方法を考える。また、幼児の造形表現の基本となる知識・技能、造形活動に関する基本的な素材の扱い方や環境構成等について、自ら作る喜びを味わう中で習得する。	
到達目標	(1) 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	
	(2) 造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	
	(3) 身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児の造形についての概要。当授業のねらい。	授業前に配付したプリントを読む	2時間	授業の概要理解について考察し感想を書く	2時間
2	実際の絵を見ながら、幼児の発達と造形表現の特徴を理解する。	前時に配付した鑑賞資料を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
3	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること①	教科書(接着剤資料①)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
4	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること②	教科書(接着剤資料②)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
5	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること③	教科書(接着剤資料③)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
6	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること④	教科書(接着剤資料④)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間

	7	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ①	教科書（はさみ資料①）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	8	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ②	教科書（はさみ資料②）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	9	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料①	教科書（パス・ペン資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	10	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料②	教科書（絵の具資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	11	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料③	教科書（コンテ資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	12	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料④	教科書（墨汁資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	13	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法①	教科書（折り紙資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	14	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法②	教科書（紙を揉む資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	15	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法③	教科書（紙を破る資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	16	これまで学んだ環境づくりと製作の基本や、幼児の造形活動を支えるものについて考察し、発表する。	前時まで学んだ教科書や振り返りシートを読んでおく。	2 時間	今までの作品の自己評価を振り返りシートに書く。	2 時間
	17	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。①スタンピング、バチック	教科書（スタンピング、バチック）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	18	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。②染め紙、にじみ絵	教科書（染め紙、にじみ絵）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	19	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。③デカルコマニー、スクラッチ	教科書（デカルコマニー、スクラッチ）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	20	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。④ステンシル	教科書（ステンシル）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	21	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑤紙版画	教科書（紙版画）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	22	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑥フロッタージュ	教科書（フロッタージュ）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	23	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書(紙・小麦粉粘土)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	24	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書(土粘土)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書(自然物)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書(自然物)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、2・3歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、4歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、5歳児にふさわしい壁面装飾を制作する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	自分たちの制作物を見ながら、子どもの造形活動の評価と援助の方法について考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（知識・理解・思考力）30%、作品（意欲・態度・作品の完成度）30%、教材作成（表現力・判断力・創造性）20%、毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・理解）20%
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	・試験は実施しない（ただし、授業内で小テストを行う） ・授業の振り返りシート提出と、作品ファイルの提出
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「２～５歳児　製作あそび　基本のき」 著者　内本久美　発行人　岡本功　発行所　ひかりのくに株式会社 参考文献：幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示　文部科学省)　、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
メッセージなど	子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	幼児の造形表現の特徴をほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	いくつかの間違いはあるが、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	幼児の造形表現の特質を全く理解できず説明もできない。	課題・レポート(知識・理解・思考力)	30%
	ほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの間違いはあるが、意欲的な感想、振り返りができている。	全く理解できず、意欲的な感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	10%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	ほぼ完璧に描画材料を使いこなせる。	大きな間違いがなく描画材料を使いこなせる。	いくつかの間違いはあるが、描画材料を使いこなせる。	全く描画材料を使いこなせない。	作品(意欲・態度・作品の完成度)	30%
	描画材に関してほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	描画材に関して大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの描画材に対しての間違いはあるが、感想、振り返りが出来ている。	描画材に対して間違いが多く、感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	身近な素材をほぼ完璧かつ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	大きな間違いもなく、身近な素材をほぼ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材を用いて教材作成ができている。	全く身近な素材を用いた教材ができていない。	教材作成(表現力・判断力・想像性)	20%
	ほぼ完璧に、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	大きな間違いもなく、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	全く身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解できず、自他ともに評価できない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECBE1011	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2		中原 久子	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　要	乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育に示された５領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	
	(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	
	(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	
	(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	
	(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	
	(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	
	(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	
	(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
2	幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”について	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
3	幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
4	「教育課程」「保育課程」について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間

	5	「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	6	乳児の特徴と指導計画について学ぶ(０～1・２歳児)	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	7	３歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	8	３歳時の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	9	４歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまめノートを作る	2時間
	10	４歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	11	５歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	12	５歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	13	幼稚園教育におけるカリキュラム･マネジメントとＰＤＣＡサイクルについて理解する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	14	指導計画と教育課程･保育課程の評価について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園･保育所の要録について学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間

成績評価	定期試験（21%）、課題・レポート（17%）、指導案（12%）、教材作成（7%）、授業への取り組み（12%）、グループワーク・グループ討議（12%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（19%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する
テキストおよび参考文献	テキスト: ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献: 『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一　編著　(萌文書林)
メッセージなど	幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・知識・理解・思考力）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（判断力・表現力・問題解決力）	7%
(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	5%
	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（関心・意欲・知識・理解・表現力）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・知識・理解・表現力）	7%
(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%
	ほぼ完璧な教材を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた教材を作成できる。	最低限の基本を踏まえた教材を作成できる。	作成できていない。	教材作成（思考力・判断力・表現力・創造性）	7%
(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%

(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・理解・表現力・創造性）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・理解・表現力・創造性）	7%
(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	指導案（関心・意欲・理解・思考力・表現力）	5%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児指導法 Infant Teaching Method		児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC1012	1年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
講義	2		中津 愛子		

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために 幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。

到達目標	(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。
	(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。
	(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。
	(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。
	(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。
	(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。
	(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。
	(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。
	(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。
	(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。
	(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。	幼児期に経験した遊びを考えてくる	2時間	幼児期の特性と遊びが学びに繋がることをまとめる	2時間
2	子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。	戸外遊びと室内遊び、それぞれの遊びの環境を考えてくる	2時間	学校教育法に示されている幼稚園に関する内容をまとめる	2時間

	3	子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。	子どもが遊んでみたくなる環境を考えてくる	2時間	幼稚園教育の基本をまとめる	2時間
	4	環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。	幼児期の特性と幼稚園教育の役割を読んでおく	2時間	主体的に環境に関わって遊ぶための工夫をまとめる	2時間
	5	子どもの育ちと5つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。	5つの領域とは何かを調べてくる	2時間	幼稚園教育で育みたい3つの資質・能力をまとめる	2時間
	6	遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。	幼稚園教育要領を読み、教師の役割を調べてくる	2時間	遊びが充実するための教師の役割をまとめる	2時間
	7	幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。	幼稚園教育の基本に関して重視する事項を調べてくる	2時間	遊びを通して総合的に指導するとは何かをまとめる	2時間
	8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。	幼児期の終わりに育ってほしい姿を調べてくる	2時間	一人一人に応じるための教師の姿勢についてまとめる	2時間
	9	幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。	幼稚園と小学校の違いを考えてくる	2時間	幼児期の終わりに育ってほしい姿が小学校につながる過程をまとめる	2時間
	10	保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。	教育課程とは何かを調べてくる	2時間	幼稚園教育要領をもとに指導計画とは何かをまとめる	2時間
	11	長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。	幼稚園教育要領をもとに指導計画立案の基本を読んでくる	2時間	指導計画を立案する	2時間
	12	指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。	保育に必要な教材の準備をしてくる	2時間	模擬保育の教材作成を行う	2時間
	13	模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。	保育を行う環境活動の流れを考えてくる	2時間	模擬保育の練習を行う	2時間
	14	グループで模擬保育を実践する（保育の録画の方法を身につける）。	模擬保育の練習を行う	2時間	模擬保育の実践後の感想をまとめる	2時間
	15	録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。	模擬保育の反省・改善点を考えてくる	2時間	模擬保育の指導計画の修正を行う	2時間
成績評価		定期試験（40%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（16%）、グループワーク・グループ討議（14%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。				
テキストおよび参考文献		テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）、 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』チャイルド本社 保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社				
メッセージなど		グループ討議や模擬保育を取りいれたアクティブラーニング型の授業です。遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身につけ、工夫もできる。	環境構成の基本は身につけ、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
					グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	7%
(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	30%
(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
					グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	7%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC2011	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		佐伯 里英子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。

到達目標	(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。
	(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。
	(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。
	(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。
	(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。
	(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。
	(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。
	(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。
	(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」１０項目の内容との関連性を述べることができる。
	(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。
	(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どもの身体と機能の発達（呼吸器）	授業にかかわる、子どもの身体の名称、機能を調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
2	子どもの身体と機能の発達（循環器）	**授業にかかわる、子どもの身体の名称、機能を調べる。**	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
3	子どもの身体と機能の発達（体温調節）	**授業にかかわる、子どもの身体の名称、機能を調べる。**	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間

	4	子どもの身体と機能の発達（消化器）	**授業にかかわる、子どもの身体の名称、機能を調べる。**	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	5	子どもの身体と機能の発達（排尿・泌尿器）	**授業にかかわる、子どもの身体の名称、機能を調べる。**	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	6	子どもの身体と機能の発達（生殖器）	**授業にかかわる、子どもの身体の名称、機能を調べる。**	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	7	子どもの身体と健康安全（熱中症）	熱中症について調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	8	子どもの身体と健康安全（擦り傷・切り傷）	子どものけがについて調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	9	子どもの身体と健康安全（骨折）	子どものけがについて調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	10	子どもの身体と健康安全（感染症）	子どもの感染症について調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	11	子どもの身体と健康安全（アレルギー）	子どものアレルギーについて調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	12	子どもの身体と健康安全（誤飲・誤嚥）	子どもの誤飲・誤嚥について調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	13	子どもの身体と健康安全（いじめ）	いじめについて調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	14	子どもの身体と健康安全（虐待）	虐待について調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	15	前期の学びのまとめ	前回の配布資料を読んで復習。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	保育実習中に事例から、子どもの発達課題、健康課題を考える。	保育実習中の記録や資料を読んでおく。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	17	発達課題、健康課題への対応	保育実習中の記録や資料を読んでおく。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	18	ケガをしにくいからだづくり（子どものケガの現状）	保育実習中の記録や資料を読んでおく。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	19	ケガをしにくいからだづくり（遊びやからだづくりの取り組み）	保育実習中の記録や資料を読んでおく。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	20	子どもの発達を促す遊び	保育実習中の記録や資料を読んでおく。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	21	子どもの発達を促すリズム遊び	保育実習中の記録や資料を読んでおく。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間

	22	子どもの発達を促すリズム遊び	子どものリズム遊びについて調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	23	リズム遊びの発表	子どものリズム遊びについて調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	24	改めて子どもの「からだ」を知る（からだの名称・機能）	子どもの身体について調べる。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	25	子ども自身が自分の身体や健康を知るためのカルタづくり	これまで学んだことからテーマを考える。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	26	子どもが自分の体や健康について知るためのカルタづくり	これまで学んだことからテーマを考える。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	27	子どもが自分の体や健康について知るためのカルタづくり	これまで学んだことからテーマを考える。	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	28	カルタの発表	発表の準備	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	29	カルタの発表	発表の準備	2時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2時間
	30	健康領域終了にあたってのまとめ	これまでの学びについて、疑問点等まとめる	2時間	これまでの配布資料等まとめておく。	2時間

成績評価	授業への取り組み（30%）、課題・レポート（20%）、定期試験（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については必要に応じて次回に解説を行う。
テキストおよび参考文献	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省） ・吉田伊津子・砂上史子・松嵜洋子『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康』光生館
メッセージなど	乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	ほぼ完ぺきに理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	大きな間違いなく理解し、説明できる。	最低限の基本は理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力）	5%
(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。	ほぼ完ぺきに理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力）	10%
(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。	ほぼ完ぺきに理解し、具体的に述べることができる。	大きな間違いがなく基本を理解し、述べられる。	最低限の基本を理解し、述べることができる。	述べることができていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	10%
(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解し実践できる。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解し、実践できる。	対話的な保育の意味を自分なりに理解し、実践できる。	実践できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。	評価の考え方を説明することができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。	ほぼ完ぺきに留意点が示され、指導案を作成できる。	ある程度の留意点を理解し、指導案が作成できる。	留意点をいくつかあげて、指導案を作成できる。	指導案に留意点が反映できていない。	授業への取り組み（知識・思考力・判断力・創造性）	10%
(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。	ほぼ完ぺきに説明できる。	ある程度、説明できる。	段階的な指導があることは説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・判断力）	10%
(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。	自分の問いを出し、他者と協議し、発表できる。	他者と問いを出し合い、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業への取り組み（意欲・思考力・表現力・協働性）	5%
(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」１０項目の内容との関連性を述べることができる。	ほぼ完ぺきに関連性を述べることができる。	ある程度関連性を述べることができる。	「幼児教育のキーワード」の項目について列挙できる。	「幼児教育のキーワード」を列挙できていない。	定期試験（知識・思考力・判断力・表現力）	10%
(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。	ほぼ完ぺきに述べることができる。	大きな間違いがなく、述べることができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は述べられる。	述べることができていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。	子どもの姿や課題について、いくつも述べることができる。	大きな間違いなく、述べることができる。	1点か2点は述べることができる。	述べられていない。	課題・レポート（関心・知識・思考力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education （Human Relations）	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC2012	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1		平田 睦美	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	
(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。

到達目標
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。
2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	乳児期を取り巻く人間関係の現状と課題にについて理解する。	現代の子どものおかれている状況について、1年生の授業を基に振り返りまとめておく。	2 時間	乳幼児を取り巻く人間関係の現状と課題への対応について自分の考えをまとめる。	2 時間
2	保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。	幼児期の「人とのかかわり」の発達についてまとめる。	2 時間	幼児期の人とのかかわりの重要性について自分の考えをまとめる。	2 時間
3	0歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	保育所保育指針解説 P101～P109 を読み0歳児の人間関係の発達についてまとめる。	2 時間	授業を振り返り0歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間

	4	1，2歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	保育所保育指針解説 p135～P144 を読んで1．2歳児の人間関係の発達についてまとめる。	2 時間	授業を振り返り1，2歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	5	3歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	3歳頃の人間関係について考えたことをまとめる。	2 時間	授業を振り返り3歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	6	4歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	4歳頃の人間関係について考えたことをまとめる。	2 時間	授業を理解するための振り返り4歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	7	5歳児の集団生活の中での姿と人間関係の育ちについて実践事例を通して学ぶ。	5歳頃の人間関係について考えたことをまとめる。	2 時間	授業を振り返り5歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	8	子どもたちの豊かな人間関係を育む学級経営や集団づくりについて実践事例を通して学ぶ。	幼稚園教育要領解説 P182～P187 を読んで学級経営や集団づくりについて考えておく。	2 時間	学級経営や集団づくりについての要点をまとめる。	2 時間
	9	園生活の中で人とのかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	実習時を思い出し、エピソードを書いておく。	2 時間	人とのかかわりの難しい子どもへの対応について要点をまとめる。	2 時間
	10	園生活の中での異年齢のかかわりや地域の人々とのかかわりと援助について学ぶ。	異年齢のかかわりや地域とのかかわりについての活動内容を考えておく。	2 時間	地域とのかかわりの活動について指導案を書く。	2 時間
	11	人間関係の育ちを支える保護者と保育者の望ましい関係について、事例を通して学ぶ。	保護者との関係づくりについて、大切なことを考え、まとめる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、事例に対しての対応を考える。	2 時間
	12	「人間関係」の育ちを支える保育の構想① 人間関係を育む指導案を作成する。	「人間関係」の育ちを支えるための活動に対しての指導案を考える。	2 時間	考えた指導案を修正する。	2 時間
	13	「人間関係」の育ちを支える保育の構想② 作成した保育案をもとに、指導と援助ポイントについて考え合う。	自分の考えた指導案について、子どもの活動と援助を見直す。	2 時間	模擬保育の準備をする。	2 時間
	14	「人間関係」の育ちを支える保育の構想③ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を見直し、模擬保育の準備をする。	2 時間	友達の意見を基に指導案を再構成する。	2 時間
	15	「人間関係」の育ちを支える保育の構想④ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	2 時間	15回の授業振り返り「人間関係」の育ちを支える保育者の役割についてまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、 課題・レポート（20%）、授業への取り組み（30%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		課題はコメントを書き、返却する。 レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。				

テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
メッセージなど	人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・問題解決力）	10%
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	20%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	20%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（関心・知識・理解）	20%
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明きる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（環境） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC2013	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1		玉木 晃子	○

実務家教員の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　要	幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	
	(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	
	(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	
	(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	
	(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	
	(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	
	(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	
	(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	
	(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	
	(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	
	(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、クループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	
	(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	環境を通して行う保育の基本を理解する	保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説の領域「環境」を読んでおく	2時間	配布した資料をよく読み、内容を理解する	2時間

	2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する	領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いを読んでくる	2時間	３法を比較し、領域「環境」のねらい・内容を理解する	2時間
	3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する	保育指針解説第２章１．２．３の領域「環境」に関わる部分を読んでくる	2時間	保育における人やものとの関わりについてまとめる	2時間
	4	環境を構成する人や物や身近な動植物とのかかわりについて実際の体験を通して具体的に理解する	春の遊びにはどのようなものがあるか、自分でどんな遊びをしてきたかまとめておく	2時間	固定遊具や園庭での遊びの援助や配慮についてまとめる	2時間
	5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－	子どもの周りにはどんなものがあるか調べる。廃材を集め、持参する	2時間	作品を仕上げ、レポートを作成する	2時間
	6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する －生物の飼育、植物の栽培－	夏の植物・虫・小動物について調べてくる	2時間	植物の栽培に興味をもち、観察を続ける	2時間
	7	環境を構成する自然とのかかわりについて理解する 夏の遊びについて教材研究をする	遊びに必要な用具や材料を考え、用意する	2時間	体験した遊びについて、まとめる	2時間
	8	保育における行事の種類や意義について知り、理解する	自分たちの身の周りには、どのような行事があるか調べてくる	2時間	子どもと行事について、まとめる	2時間
	9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ	保育指針解説第１章３や教育要領第１章３節を読んでくる	2時間	保育の過程についてまとめる	2時間
	10	長期の指導計画と短期の指導計画を理解する	教育要領解説第１章第４節３を読んでくる	2時間	短期指導計画（日案）を作成し、完成させる	2時間
	11	地域の施設や様々な情報、行事などに興味や関心をもち、種類や意義について理解する	地域にはどのような施設や情報があるか調べておく	2時間	地域の施設や情報についてまとめる	2時間
	12	数量や図形、標識や文字などとのかかわりについて理解する	子どもの身の周りには、どのようなものがあるか実習を通して気付いたことをまとめておく	2時間	子どもの生活の中で、数量・図形・標識・文字とのかかわりをまとめる	2時間
	13	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する	子どもが興味をもつ数量・図形・標識・文字に関する遊びを考える	2時間	教材を仕上げる	2時間
	14	幼児の周りにある環境の中で、その特性や価値を知り、実際の保育の中で適切に活用できるように教材研究をする	教材研究に必要なものを調べ、準備する	2時間	体験した遊びについてまとめる	2時間
	15	身近な情報とのかかわり、領域「環境」にかかわる現代的課題について知る	配布された資料や体験したことを見直し不十分なところを見つけておく	2時間	領域「環境」の課題についてまとめる	2時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、課題・レポート（20%）、教材作成（11%）、授業への取り組み（9%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月　告示） 幼稚園教育要領解説（平成３０年３月） フレーベル館保育所保育指針解説（平成３０年３月）フレーベル館 参考文献：　小櫃智子『保育内容 領域　環境指導法』　わかば社
メッセージなど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	5%

	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	3%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	2%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	3%
	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	2%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、クループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education （Language）	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECCC2014	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		竹内 幹雄	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。

到達目標	(1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。
	(1)-2) 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。
	(1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。
	(2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。
	(2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。
	(2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。
	(3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。
	(3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。
	(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを、事例をあげて説明できる。
	(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。
	(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	乳幼児期にふさわしい「生活」の保障について理解する。	教科書 P1～5 を読み、考えをテキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間
	2	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて、理解するとともに、図表にしてまとめる。	教科書 P6～17 を読み、考えをテキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	3	ヒトのコミュニケーションの特徴・非言語から言語への視点から、誕生から 3 歳ころまでの言葉の発達について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P20～29 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	4	要領・指針で大切にされていることを基に、乳児期の言葉の発達と保育における配慮について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P30～36 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	5	伝え合う言葉、考える言葉の発達、読み・書きの発達の理解を基に、乳幼児期から幼児期への言葉の発達過程をつかみ、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P37～41 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	6	集団保育への参加、クラスの一員としての役割や意識を理解の基に、個と集団との関係のなかで幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P42～43 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	7	仲間関係と言葉、言葉と思考・表現についての理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P43～47 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	8	言葉の楽しさや美しさの理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P48～50 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	9	幼児期と児童文化財について理解を深め、幼児期の言葉の発達過程についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P51～55 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	10	幼児期から児童期の言葉、接続期と言葉についての理解を基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P56～58 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	11	記号や文字との出会い、絵本ともに環境、文字で伝える、を理解の基に、文字環境についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P59～62 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	12	幼児期の読み書き、言葉による伝え合い、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P63～66 を読み、テキスにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	13	保・小・こ・小の接続で大切にしたいこと、言葉に関する家庭との連携、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉や小学校「国語」との関連性についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また「おてて絵本」で遊ぶ。	教科書 P67～70 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	14	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P71～77 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	15	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P78～85 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	伝え合う言葉を育むための保育環境、文字との出会いと文字環境、を理解の基に、保育環境と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P86～94 を読み、テキストに記述する。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	17	保育おける絵本との出会い、発達に応じた絵本との出会い、を理解の基に、保育と児童文化財について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また、読み聞かせのポイントをつかむ。	教科書 P95～96 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	グループの発表、読み聞かせのポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	18	伝え合う言葉を育む環境構成と指導計画、評価と改善、を理解の基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また、紙芝居のポイントをつかむ。	教科書 P97～104 を読み、テキストの図にまとめる。	3 時間	グループの発表、紙芝居のポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	19	遊びや生活に必要な言葉、自分の思いを伝える言葉、出来事を他者に伝える言葉、を理解の基に、乳幼児期の遊びと生活のなかの言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P105～109 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストをまとめ直す。	2 時間
	20	遊びを支える言葉、ごっこ遊びをめぐる言葉のやりとり、ルールのある遊びと言葉、を理解の基に、様々な遊びと言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P62～66 を読み、テキスト P5～7 にまとめる。	2 時間	グループ発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	21	言葉のリズムや響きを感じる・楽しむ、様々な言葉遊びを楽しむ、を理解の基に、言葉のリズムや響き・言葉遊びについて、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P114～116 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	22	自分なりの言葉、言葉に対する感受性、を理解の基に、子どもの発達にふまえた遊びや生活と指導援助の実際について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P117～121 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	23	一人一人の特性に応じるために、発達障害（自閉症スペクトラム障害等）について、を理解の基に、領域「言葉」についての特別な配慮や支援を、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P122～125 を読み、テキストにまとめる	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	24	障害のある子どもの保育で大切な考え方について、行為を言葉でなぞる、生活の見通しを示す工夫―登園してからすること、を理解の基に、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や支援について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P126～130 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	25	はじめに、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、個別の指導計画の一例、を理解の基に、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P131～132 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	26	海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や支援、家庭や地域・関係機関（医療や福祉、保健等）との連携、を理解の基に、言葉の問題や援助について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P133～138 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	27	言葉の環境と活動、全体的な計画、カリキュラムマネージメント、主体的・対話的で深い学び、を理解の基に、保育計画と評価について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P139～156 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間
	28	情報革命と社会の変化、グローバル化と英語教育、育つことが期待される姿「言葉による伝え合い」、を理解の基に、子どもが育つ社会の変化と子どもの「言葉」について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P107～114 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	29	言わずにはいられない言葉、みんなの前で話す体験、形だけ整っている言葉、謝ると言う行為と言葉、を理解の基に、実践のなかで考えるべき課題について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P159～164 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	30	聞き手としての保育者、話し手としての保育者、やりとりする保育者、集団生活と言葉、を理解の基に、保育者の関わりについて、ICT を活用して発表し合う。グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P123～129 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間

成績評価	授業への取り組み（50%）、定期試験（10%）、課題・レポート（10%）、 発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（10%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。
テキストおよび参考文献	テキスト：『保育内容　言葉　』　秋田喜代美・野口隆子　編著　光生館 、 『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』、『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）』
メッセージなど	乳幼児の言葉獲得過程と保育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験からともに考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目、保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-2) 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・技能・思考力・判断力・表現力）	7%
(1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	3%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・技能・思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きいが、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	15%
	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きいが、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	発表・プレゼンテーション（技能・表現力）	15%
(3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	8%
	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	7%
(3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%

(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%
(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%
(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法 （表現Ⅰ（音楽・造形）） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)	児童教育学科 初等育学専攻	25ECCC2015	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		木橋 奏子・吉本 宏之	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	
	【音楽】豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。

到達目標	
	(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
	(1)-2）表現を生成する過程について理解している。
	(1)-3）幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
	(2)-1）様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
	(2)-2）身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
	(2)-3）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
	(2)-4）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
	(2)-5）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児と表現、音楽表現について理解する　（オリエンテーション）	テキスト 3P、4P を読んでおく	2 時間	音楽表現について理解したことをレポートにまとめる	2 時間
2	音楽を中心とした音楽劇について DVD を視聴して具体的に理解する	テキスト 5P から 7P を読んでおく	2 時間	音楽劇について理解したことをレポートにまとめる	2 時間
3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ。「表現遊び」における ICT の活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える	テキスト 8P、9P、14P を読んでおく	2 時間	保育構想に活用するアイデアを考えレポートにまとめる	2 時間

	4	「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ。自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する	テキスト 15P を読んでおく	2 時間	音の教材について理解したことをレポートにまとめる	2 時間
	5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICT を用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する	テキスト 16P、23P、24P を読んでおく	2 時間	感情と音楽の関係について学んだことをレポートにまとめる	2 時間
	6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ	テキスト 10P、11P を読んでおく	2 時間	言葉と動きの関連性について自分の考えをまとめる	2 時間
	7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ	テキスト 12P、13P を読んでおく	2 時間	音とイメージの関係を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	8	グループ練習。絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	テキスト 17P を読んでおく 絵本を 1 冊持ってくる。	2 時間	絵本からイメージする音づくりを通し想像力の高め方について自分の考えをまとめる	2 時間
	9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	テキスト 18P を読んでおく	2 時間	創作活動の発表に向けてグループで話し合っておく	2 時間
	10	グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。	グループで話し合っておく テキスト 19P を読んでおく	2 時間	中間発表に向けてグループで準備・練習しておく	2 時間
	11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	中間発表に向けてグループで準備・練習しておく テキスト 20P、21P を読んでおく	2 時間	中間発表を振り返り自己評価と反省を行い、レポートにまとめる	2 時間
	12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	創作活動の発表に向けてグループで話し合っておく テキスト 22P を読んでおく	2 時間	創作活動の発表に向けてグループで準備し、最終確認を行う	2 時間
	13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	テキスト 25P を読んでおく	2 時間	模擬保育・音楽（演奏）を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	テキスト 26P を読んでおく	2 時間	模擬保育②表現（演劇）を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	15	模擬保育の反省を行う。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	テキスト 29P、30P を読んでおく	2 時間	必要な表現力や想像力について自分の考えをまとめる	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（41%）、授業への取り組み（50%）、グループワーク・グループ討議（9%）
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	音楽：振り返りシートに毎回コメントを記入し提出する。
テキストおよび 参　考　文　献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『幼児の音楽教育』神原雅之　鈴木恵津子他 教育芸芸術社、『うたっておどっておもちゃ箱２』鈴木 恵津子　教育芸芸術社
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	2%
(1)-2） 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	2%
(1)-3） 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	5%
(2)-1） 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	課題・レポート（知識・思考力）	5%
	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	5%
(2)-2） 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	課題・レポート（知識・思考力）	8%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	7%
(2)-3） 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	課題・レポート（知識・思考力）	8%
	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	7%

(2)-4） 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	課題・レポート（知識・思考力）	10%
	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	10%
(2)-5） 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	課題・レポート（知識・思考力）	10%
	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	10%

概　　要	【造形】保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 (1)-2）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 (1)-3）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (1)-4）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。 (2)-1）幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 (2)-2）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 (2)-3）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 (2)-4）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 (2)-5）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する	授業前に配付したプリントを読んでおく	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
18	遊びの中の幼児の様々な表現活動を捉え、造形表現の可能性を考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
19	０歳～６歳までの幼児画を観察観し、各年齢の発達と表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
20	身近な素材を用いた表現活動と保育者の援助について実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く	2時間
21	教材や用具・材料等の特性や発達に応じた使い方の実際について、実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
22	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
23	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2時間

	24	映像視聴を通して乳幼児の表出、表現の背景や要因を考察し、表現における情報機器・活用法について検討する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	25	小学校の「図画工作」や様々な教科と幼児期の表現・造形教育の関連性や学びの連続性について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	26	授業から題材を選び、豊かな感性と心を育てる「指導案」を立案する。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	27	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	28	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	29	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る③	模擬保育が出来るよう準備する	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る④	模擬保育が出来るよう準備する	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
成績評価		小テストや課題レポート（30%）、作品（意欲・態度・作品の完成度）（30%）、題材作成（表現力・判断力・創造性）20%、模擬授業、ロールプレイ（10%）、毎回の授業の感想と振り返り・毎回の授業課題（10%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		造形:毎回授業後に振り返りシートに記入。作品ファイルを作成し、授業後に返却し、実習にいかす。				
テキストおよび参考文献		テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省 参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院				
メッセージなど		造形教育は、子どもの豊かな感性と表現を育てるものです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-2）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-3）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-4） 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(2)-1） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の表現活動の特性を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、ある程度説明できる	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを説明できない。	小テスト（知識・理解・思考力）	8%
	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、ある程度説明できる	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力）	7%

(2)-2） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	作品（技能・表現力・創造性・作品の完成度）	18%
	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	指導案（技能・表現力・創造性・作品の完成度）	17%
(2)-3） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。	指導案 （知識・理解）	10%
(2)-4） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	指導案（技能・判断力・問題解決力）	5%
	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・判断力・問題解決力）	5%
(2)-5） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。	教材作成 （技能・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECUI2011	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2		馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　要	幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考えつまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。
到達目標	(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。 (2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。 (3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育相談とは何か概要を知る	ー	ー	保育における教育相談の概要をまとめる。	2時間
2	保育や幼児教育における教育相談の必要性について学ぶ	教育相談とは何かについて調べる	2時間	教育相談が扱う問題領域についてまとめる	2時間
3	子ども理解のためのアセスメントについて学ぶ	アセスメントについて調べる	2時間	アセスメントの基本的知識をまとめる	2時間
4	幼・保・小の接続期の子ども理解と支援について学ぶ	接続期の問題について調べる	2時間	幼・保・小の接続期の問題についてまとめる	2時間
5	カウンセリングの基礎理論について学ぶ	代表的なカウンセリング技法を調べる	2時間	特に興味を持ったカウンセリング技法をまとめる	2時間
6	相談のプロセスについて学ぶ	人が誰かに相談するプロセスについて調べる	2時間	保護者が相談しやすい環境づくりをまとめる	2時間
7	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法を学ぶ	コンサルテーションの具体的事例について調べる	2時間	コンサルテーションとコーディネーションの違いをまとめる	2時間
8	カウンセリング技術（受容・傾聴・共感）に基づく子どもとの関わりについて学ぶ	カウンセリング技術を子どもに活用した事例を調べる	2時間	カウンセリング技術を用いて友人・知人の話を聴く	2時間

	9	保育の場で行う教育相談とそう相談体制づくりについて学ぶ	保育の現場で生じやすい相談場面について調べる	2時間	保育園内での相談体制づくりについてまとめる	2時間
	10	発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ	発達障害の概要・支援方法について調べる	2時間	保育の現場での発達障害の子どもへの対応をまとめる	2時間
	11	発達の問題への支援方法について学ぶ	その他発達の問題の概要や支援方法を調べる	2時間	発達の問題への個と集団への支援方法をまとめる	2時間
	12	保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ	保護者支援の実践に当たっての実践例を調べる	2時間	保護者支援の実践にあたっての留意点をまとめる	2時間
	13	社会的資源について知り活用方法を学ぶ	保育を取り巻く社会資源について調べる	2時間	子ども支援に関する各社会資源とその特徴をまとめる	2時間
	14	カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ	保育の現場でカウンセラーと協働した事例を調べる	2時間	カウンセラーと協働するために必要な知識をまとめる	2時間
	15	幼児を取り巻く環境の今後について考える	現代社会の子どもを取り巻く環境を調べる	2時間	現代の子ども支援にあたって幼児教育が果たす役割をまとめる	2時間

成績評価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内での課題は、コメントを記入し返却する。 試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。
テキストおよび参考文献	幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）（参考文献）小田豊・秋田喜代美（2021）新時代の保育双書　子どもの理解と保育・教育相談[第2版]　みらい（松本峰雄（監修）　『よくわかる！保育士エクササイズ8　子どもの理解と援助演習ブック』ミネルヴァ書房
メッセージなど	幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十	問題意識をもって講義に参加し、それを概	問題意識をもって講義に参加しているが、	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題	15%

	分に表現することができる。	ね表現することができる。	それを表現することが不十分である。		（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	
(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育・教職実践演習（幼稚園） Practice of Teaching Profession(Kindergarten)	児童教育学科 初等教育学専攻	25ECTP2004	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		平田 睦美	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　要	教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。	
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	
	(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	
	(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・教育実習の振り返り（自己評価）・教職履修ファイルの記入	幼稚園教育要領解説「序章」を読み、幼児期の特性について考えておく。	2時間	幼児教育の役割についてまとめる。	2時間
2	地域の子育て支援に関する行事参加の準備①	地域の子育て支援場所について調べておく。	2時間	子育て支援場所での活動についてまとめる。	2時間
3	地域の子育て支援に関する行事参加の準備②・企画と立案	子育て支援場所での活動に必要な遊具や教材を考えておく。	2時間	教材の作成をする。	2時間
4	地域の子育て支援に関する行事参加の準備③・教材作成	教材の作成をする。	2時間	教材の作成をする。	2時間
5	地域の子育て支援に関する行事での実践①	教材の作成をする。	2時間	実践をもとに教材の修正をする。	2時間
6	地域の子育て支援に関する行事での実践②	教材の使い方を練習する。	2時間	教材の使い方について振り返りをする。	2時間
7	地域の子育て支援に関する行事参加の振り返り	行事に参加しての振り返りをまとめておく。	2時間	行事参加を振り返り、課題についてまとめる。	2時間
8	模擬保育の準備と指導案作成	模擬保育について考えておく。	2時間	模擬保育の指導案を作成する。	2時間
9	模擬保育	模擬保育の練習をする。	2時間	模擬保育の振り返りと課題をまとめ	2時間

					る。	
	10	幼稚園見学観察実習に関する準備	幼稚園の一日の流れについて資料を読んでおく。	2時間	教師の援助や環境構成について資料を読み直す。	2時間
	11	幼稚園見学観察実習	幼稚園見学観察実習の目的についてまとめる。	2時間	実際の子どもの姿の事例を書く。	2時間
	12	幼稚園見学観察実習	見学観察実習の自分の課題について考えをまとめる。	2時間	実際の子どもの姿の事例を書く。	2時間
	13	幼稚園見学観察実習	見学観察実習の自分の課題について考えをまとめる。	2時間	教師の援助について考えたことをまとめる。	2時間
	14	幼稚園見学観察実習を終えてのまとめ	幼稚園見学観察実習の振り返りをまとめる。	2時間	幼稚園見学観察実習を振り返り、課題をまとめる。	2時間
	15	課題についてのまとめ	授業を振り返り、課題について考えておく。	2時間	課題レポート	2時間

成績評価	課題・レポート（30%）、指導案（10%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（30%）、毎回の授業の感想・振り返り（15%）
課題(試験･ﾚﾎﾟｰﾄ等)に対するフィードバックの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。
テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	幼稚園教諭としての資質･能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質･能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質･能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
	幼稚園教諭としての資質･能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質･能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質･能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・協働性・表現力)	15%
(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく､基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが､最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく､基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが､最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	発表･プレゼンテーション（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	10%

(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	指導案（知識・理解・技能・判断力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	発表・プレゼンテーション（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	20%

学校法人 第二麻生学園

YJC 山 口 短 期 大 学

〒747-1232　山口県防府市大字台道字大繁枝 11346 番の 2
TEL　0835-32-0138
FAX　0835-32-0149
URL　https://www.yamaguchi-jc.ac.jp/
E-mail　info@yamaguchi-jc.ac.jp

山口短期大学 博多キャンパス

〒812-0013　福岡県福岡市博多区博多駅東 1 丁目 19 番 18 号
TEL　092-483-1900
FAX　092-483-1905